

諏訪市人口ビジョン

平成 27 年 12 月
諏 訪 市

目 次

諏訪市人口ビジョン

I	策定趣旨	2
1	人口ビジョンの位置付け	2
2	人口ビジョンの対象期間	2
II	人口の現状分析	3
1	諏訪市の人口動向分析	3
2	諏訪市の自然動態・社会動態	6
3	諏訪市の出生率の状況	12
4	諏訪市の産業構造・就業人口	14
III	諏訪市の将来人口推計	20
1	総人口及び年齢3区分別人口の将来推計	20
2	人口減少及び人口構成の変化がもたらす地域への影響	25
IV	住民意識調査結果の分析	27
1	結婚・出産・子育てに関するアンケート調査	27
2	転入者に関するアンケート調査	37
3	転出者に関するアンケート調査	42
4	若年層を対象としたアンケート調査	48
V	諏訪市の目指すべき人口の将来展望	55
1	現状と課題の整理	55
2	目指すべき将来の方向	57
3	人口の将来展望	59

I 策定趣旨

1 人口ビジョンの位置付け

諏訪市人口ビジョンの策定にあたり、諏訪市の人口の現状や動向、その要因を分析することで、人口に関する基本認識の共有を図ります。その上で、諏訪市の現状と課題、「強み」や「弱み」について整理します。

また、今後予想される人口の変化が諏訪市に与える影響を分析・考察することで、必要となる対応策について検討します。

さらに、「結婚・出産・子育てに関するアンケート調査」、「転入者に関するアンケート調査」、「転出者に関するアンケート調査」、「若年層を対象としたアンケート調査」を実施することで、住民意識の把握を図るとともに、調査結果を参考として、人口減少対策に必要となる取組について分析を行います。

以上を踏まえ、諏訪市が目指す将来の方向性を提示するとともに、人口の将来展望として人口目標値を示します。

2 人口ビジョンの対象期間

諏訪市人口ビジョンの対象期間は、平成 27（2015）年から令和 42（2060）年までの 45 年間とします。

Ⅱ 人口の現状分析

1 諏訪市の人口動向分析

諏訪市の人口の現状や動向、その要因を分析することで、まず、人口に関する基本認識の共有を図ります。また、今後予想される人口の変化が諏訪市に与える影響を分析・考察することで、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を作成する基礎資料として分析を行います。

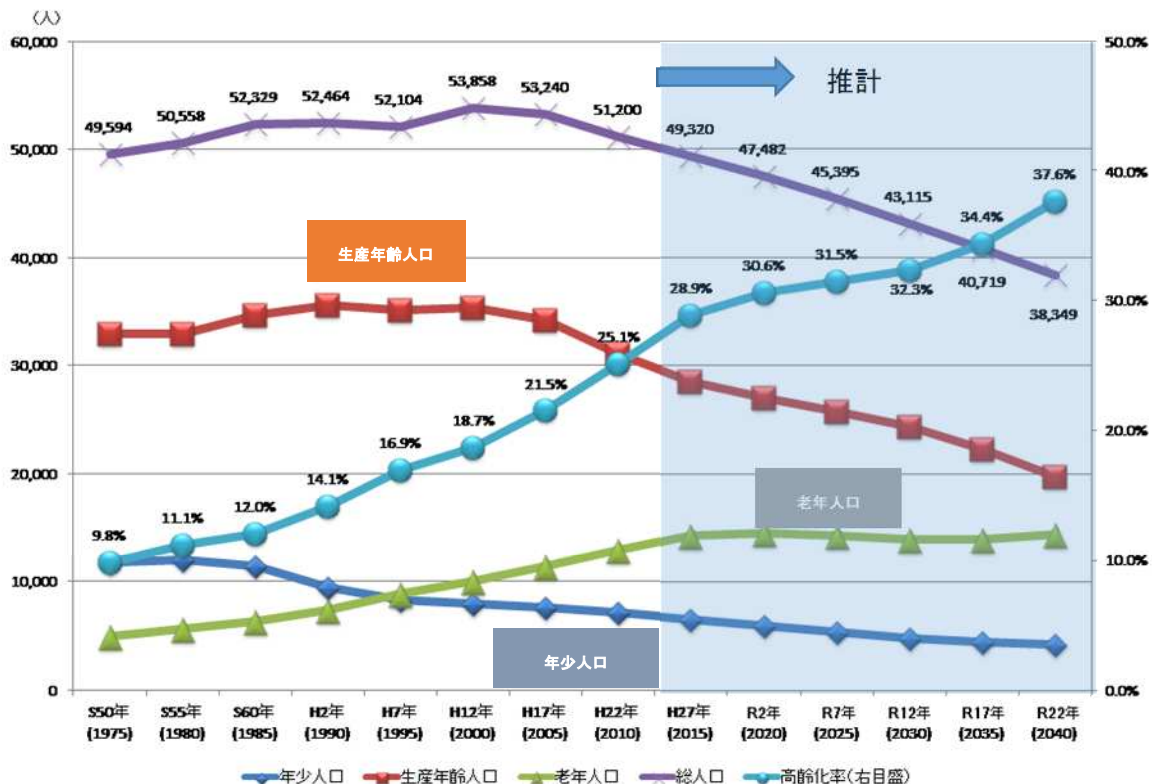
(1) 総人口の推移と将来推計

国勢調査によると、諏訪市の人口は平成 12（2000）年の 53,858 人をピークとして、平成 17（2005）年以降減少に転じており、平成 22（2010）年時点では、平成 20（2008）年のリーマンショックによる景気悪化の影響もあり、ピーク時に比べ約 2,700 人少ない 51,200 人に減少しました。さらに、平成 26 年 4 月には 37 年ぶりに人口 5 万人を下回りました。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」といいます。）の推計によると、諏訪市の将来推計人口は、平成 27（2015）年は昭和 50（1975）年とほぼ同水準になり、令和 22（2040）年には 4 万人を下回ることが見込まれています。

また、生産年齢人口（15～64 歳）は、平成 2（1990）年をピークに減少傾向にある中、平成 7（1995）年には、老年人口（65 歳以上）が年少人口（0～14 歳）を上回っています。令和 22（2040）年の高齢化率は、37.6%になると推計されており、平成 22（2010）年に比べ 12.5 ポイント上昇する見込みです。

図表 1 総人口の推移と将来推計人口の推移

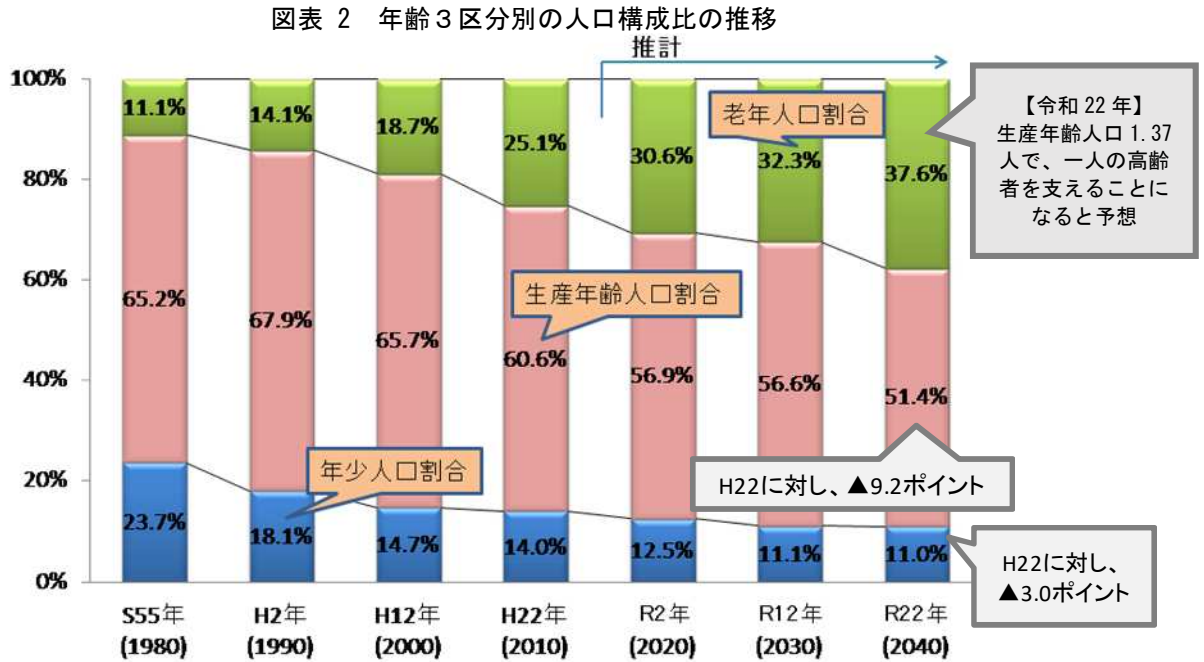


(資料)総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成26年3月推計)」

(2) 年齢3区別の人口構成の推移

社人研が公表している年齢3区別の人口構成の推移をみると、今後も老年人口の割合は上昇すると推計されています。令和22(2040)年には、生産年齢人口1.37人(平成22(2010)年：2.41人)で1人の老年人口を支えることになると予想されています。

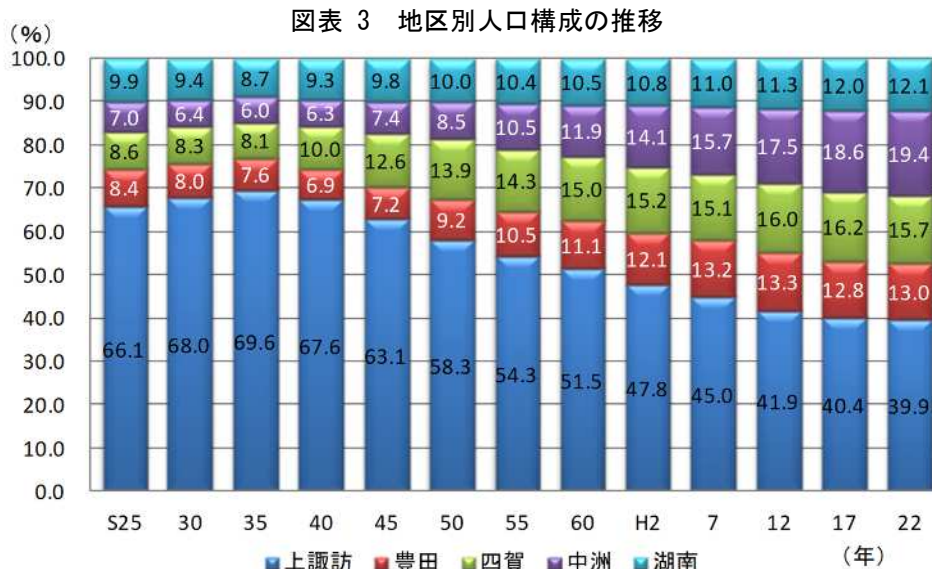
生産年齢人口・年少人口の人口割合は低下傾向にあります。令和22(2040)年の生産年齢人口は平成22(2010)年に比べ9.2ポイント、同様に年少人口は3.0ポイント低下すると予想されています。



(資料) S55-H22: 総務省統計局「国勢調査」
H12-H22: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

(3) 地区別人口構成の推移

地区別の人口構成をみると、上諏訪地区が昭和25年から昭和45年まで6割を占めていましたが、中心市街地から郊外への人口移動に伴い、平成22年には39.9%と4割を割り込んでいます。中洲地区は、昭和35年には6.0%の構成比に過ぎませんでしたが、その後、徐々にウエイトを高め、平成22年には上諏訪地区に次いで19.4%を占めています。



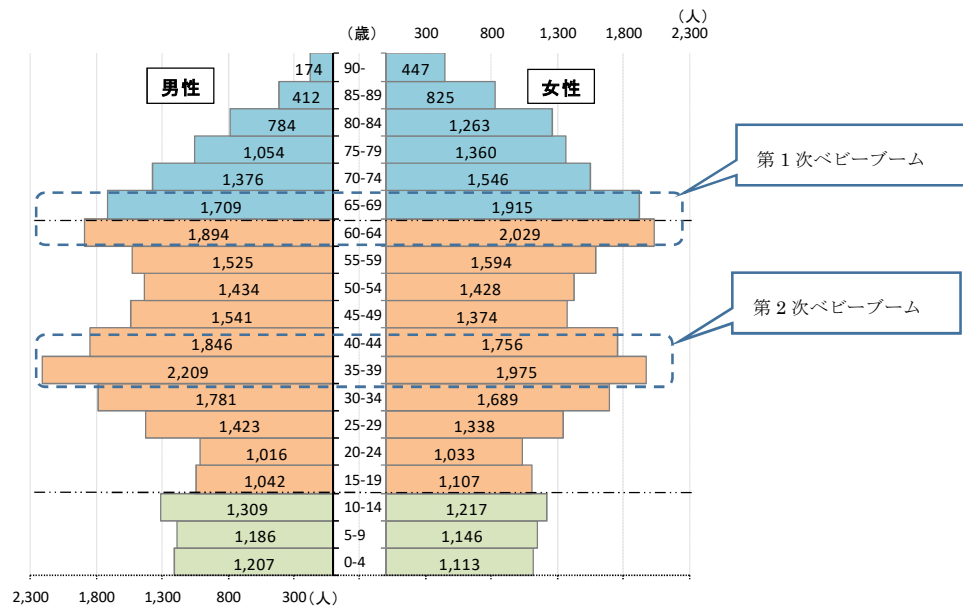
(資料) 国勢調査

(4) 人口構造の人口ピラミッドによる比較

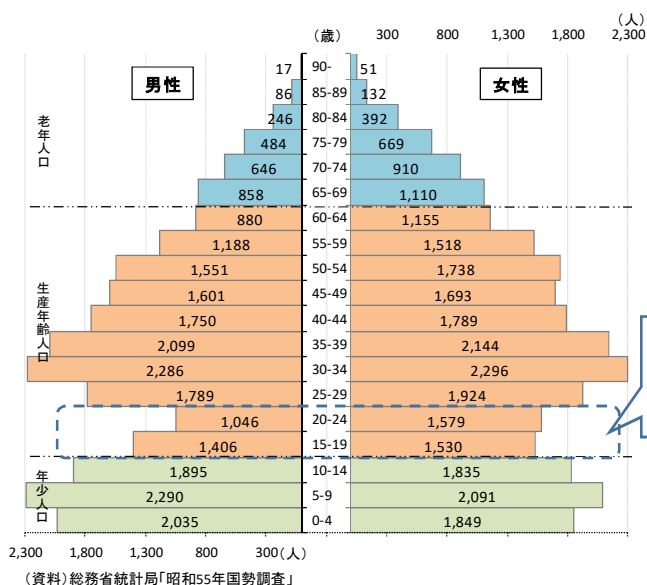
人口ピラミッドの変化をみると、昭和 55 (1980) 年は、年少人口が多く、老年人口が少ない「富士山型」でした。平成 22 (2010) 年は、二回のベビーブームによる「ひょうたん型」に変わり、令和 22 (2040) 年は、老年人口が多く、年少人口が少ない「つぼ型」へと変化していくと考えられています。

図表 4 人口ピラミッドの推移と見通し

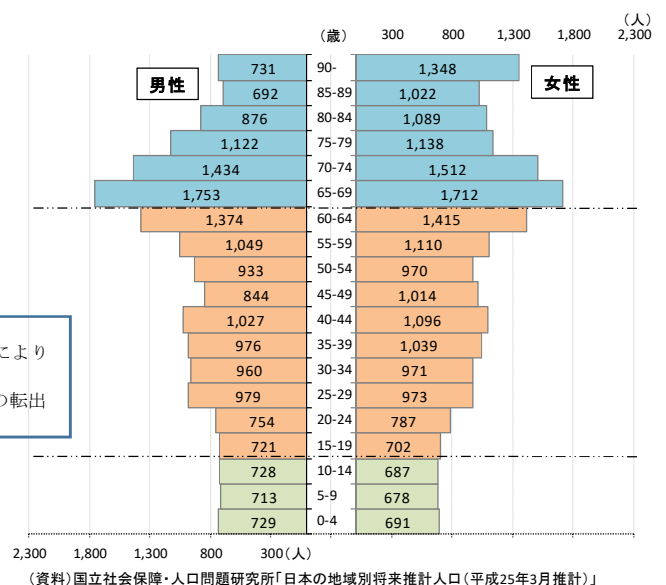
平成 22 (2010) 年 51,200 人



昭和 55 (1980) 年 50,558 人



令和 22 (2040) 年 38,349 人

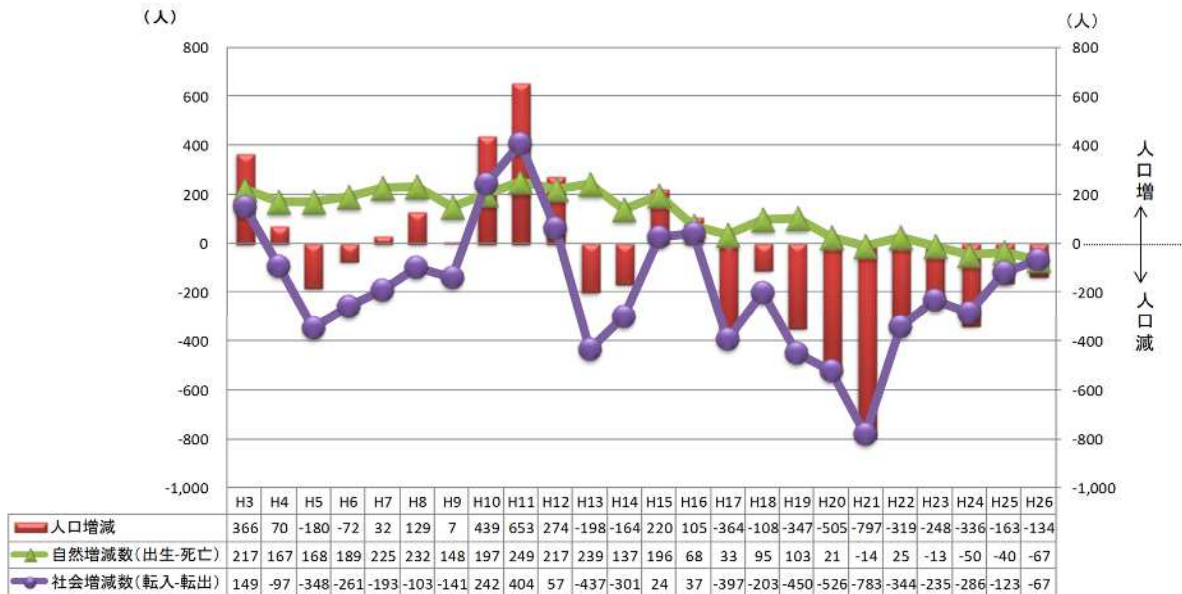


2 諏訪市の自然動態・社会動態

(1) 人口の自然増減と社会増減

諏訪市の人口は、平成 17 年以降、減少基調となっています。自然増減（出生－死亡）は、平成 23 年以降減少基調に転じていますが、社会増減（転入－転出）は、自然増減に先駆けて平成 17 年以降減少基調に転じています。また、人口増減は、自然増減よりも社会増減に影響を受けています。

図表 5 人口の自然増減と社会増減



(資料)長野県「毎月人口異動調査」

(2) 出生数と死亡数の推移

自然増減では、出生数は減少傾向にあるものの死亡数を上回ることによって、自然増の状況が続いていましたが、平成 23 年以降は自然減に転じています。平成 3 年以降の出生数は、平成 13 年（649 人）をピークとして、平成 21 年以降は 500 人を下回っています。一方、死亡数は増加傾向にあり、平成 26 年は平成 3 年に比べ約 1.5 倍に増加しています。

図表 6 出生・死亡数の推移

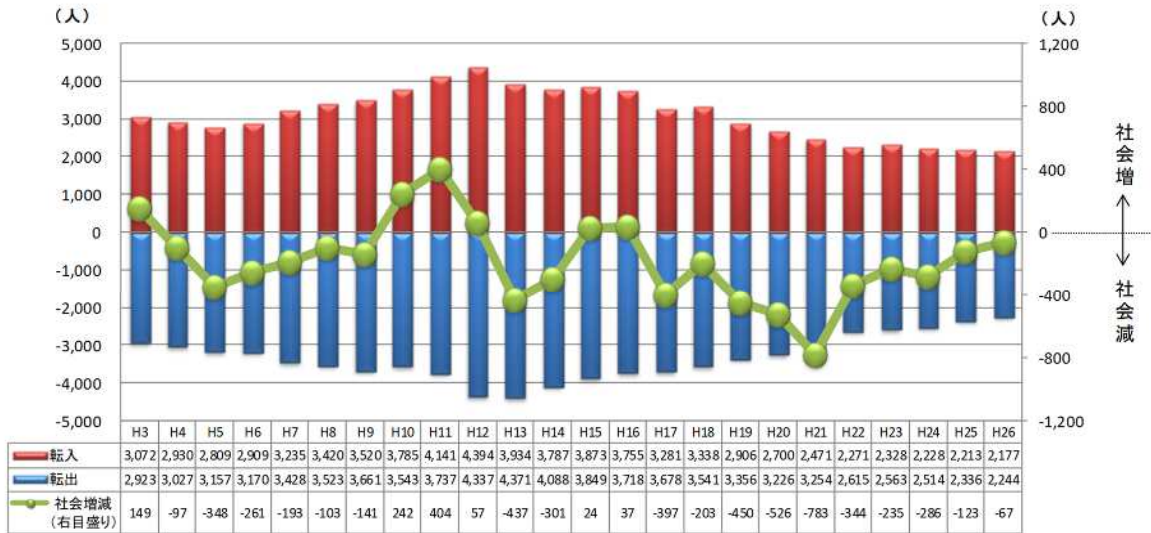


(資料)長野県「毎月人口異動調査」

(3) 転入数と転出数の推移

社会増減では、転出数が転入数を上回る年が多く、ほぼ一貫して社会減の状況が続いています。特に、社会増減は景気動向の影響を受けやすく、平成20年のリーマンショックにより、平成21年は過去最大の783人の転出超過となっています。

図表 7 転入・転出数の推移

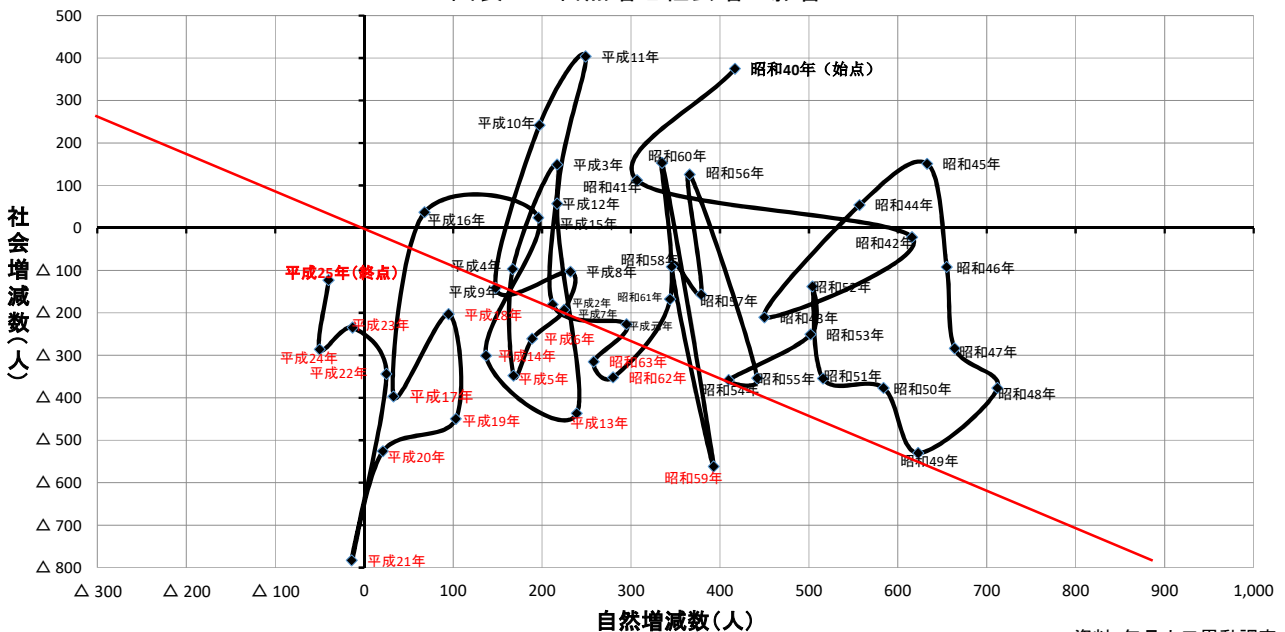


(資料)長野県「毎月人口異動調査」

(4) 総人口に与えてきた自然増と社会増の影響

諏訪市の総人口に対する自然増と社会増の影響をみると、昭和58年までは、自然増が社会減をカバーしており人口増が続いていました。しかし、昭和59年以降は、社会減が自然増を上回る年がみられ、平成17年以降は常に社会減が自然増を上回り、平成23年以降は自然増減、社会増減がともにマイナスとなるダブルマイナス局面を迎えています

図表 8 自然増と社会増の影響



資料：毎月人口異動調査

(5) 長野県内 19 市の人口増減 (年齢 3 区分)

県内 19 市全てで、「総数」、「0～14 歳」、「15～64 歳」人口は減少すると推計されています。19 市の平均増減率と比べると、諏訪市は、「0～14 歳」の減少率は小さく、「総数」「15～64 歳」の減少率は大きい一方、「65 歳以上」の増加率は 19 市平均と同じになっています。

令和 22 (2040) 年の諏訪市の総人口は 38,349 人が見込まれ、岡谷市を上回る見込みとなっています。

図表 9 長野県内 19 市の人口増減

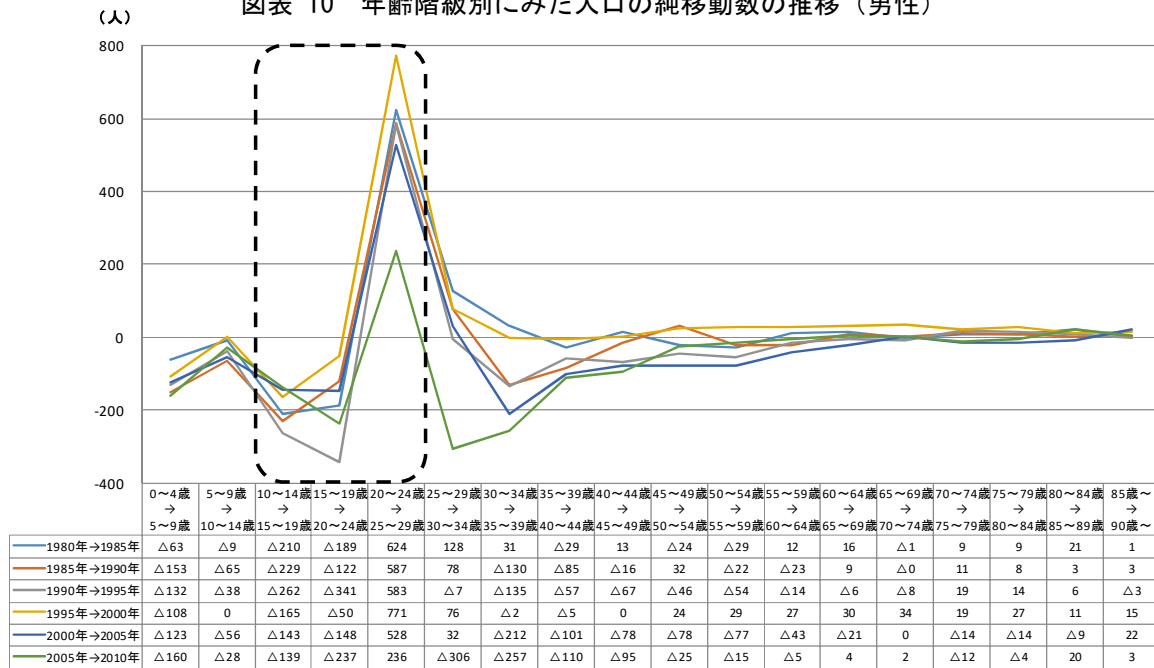
	2010年 人口		2040年 推計人口			人口増減率 (2010年→2040年)							
	順位	総数	順位	方向	総数	順位	総数	順位	0～14歳	順位	15～64歳	順位	65歳以上
長野市	1	381,511	1	→	301,857	7	-20.9%	12	-42.1%	8	-33.5%	4	22.0%
松本市	2	243,037	2	→	208,978	1	-14.0%	1	-32.8%	1	-24.8%	2	25.5%
上田市	3	159,597	3	→	120,927	12	-24.2%	13	-43.6%	12	-36.6%	9	14.3%
飯田市	4	105,335	5	↓	79,860	11	-24.2%	6	-39.7%	9	-33.8%	16	3.2%
佐久市	5	100,552	4	↑	85,781	2	-14.7%	2	-33.7%	2	-24.9%	7	19.3%
安曇野市	6	96,479	6	→	78,208	5	-18.9%	7	-40.2%	5	-30.8%	5	19.9%
伊那市	7	71,093	7	→	57,393	6	-19.3%	5	-38.5%	4	-30.2%	8	15.4%
塩尻市	8	67,670	8	→	55,655	4	-17.8%	8	-40.6%	6	-30.8%	1	30.1%
千曲市	9	62,068	10	↓	44,978	16	-27.5%	17	-49.0%	17	-39.5%	15	8.7%
茅野市	10	56,391	9	↑	46,548	3	-17.5%	3	-37.2%	3	-29.2%	3	24.4%
岡谷市	11	52,841	13	↓	38,020	17	-28.0%	10	-41.2%	14	-37.3%	17	-2.9%
須坂市	12	52,168	11	↑	38,508	14	-26.2%	16	-44.8%	15	-37.3%	14	8.8%
諏訪市	13	51,200	12	↑	38,349	13	-25.1%	9	-41.1%	13	-36.7%	10	11.9%
中野市	14	45,638	14	→	34,787	10	-23.8%	11	-41.4%	11	-34.7%	11	11.5%
小諸市	15	43,997	15	→	32,220	15	-26.8%	15	-43.9%	16	-39.0%	13	10.3%
駒ヶ根市	16	33,693	16	→	26,364	8	-21.8%	4	-38.2%	7	-32.2%	12	10.9%
東御市	17	30,696	17	→	23,888	9	-22.2%	14	-43.9%	10	-34.7%	6	19.5%
大町市	18	29,801	18	→	17,355	19	-41.8%	19	-62.9%	19	-53.4%	18	-11.5%
飯山市	19	23,545	19	→	15,004	18	-36.3%	18	-53.5%	18	-43.7%	19	-15.7%
平均							-23.7%		-42.5%		-34.9%		11.9%

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

(6) 年齢階級別にみた人口の純移動数の推移

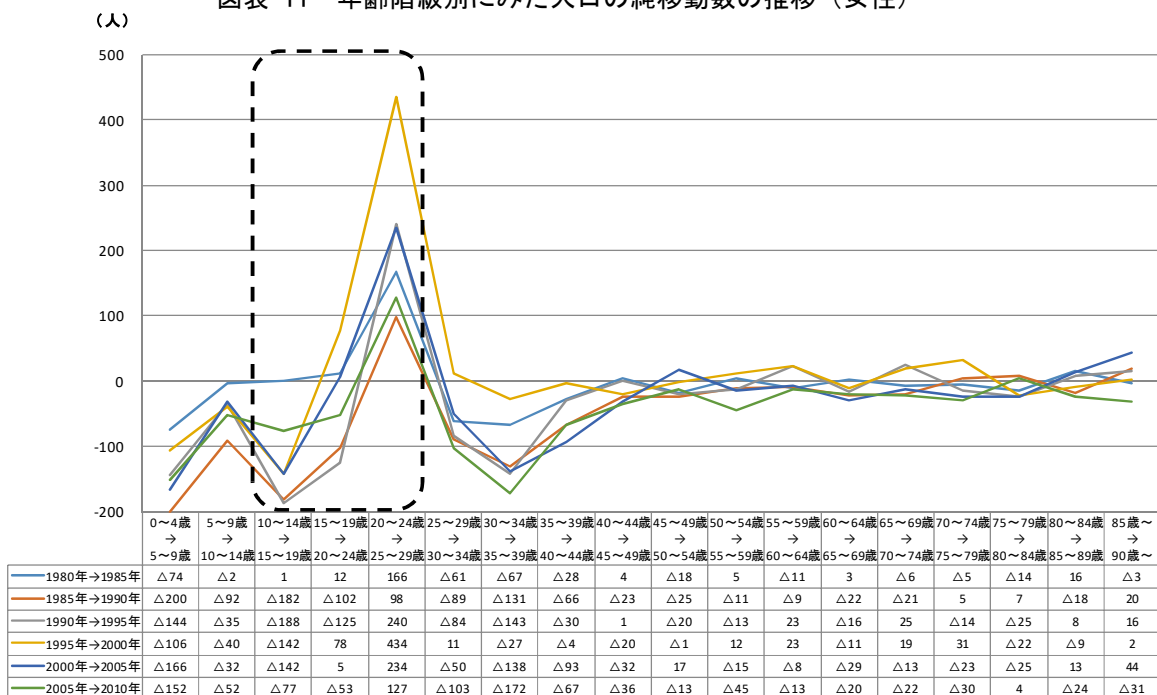
「10～14歳→15～19歳」は、進学等を理由に、純移動のマイナス幅が拡大する傾向にあります。一方、「20～24歳→25～29歳」は、大学等を卒業後のUターンや諏訪市内の企業へのI・Jターンでの就職等を理由に純移動がプラスになる傾向にあります。ただし、近年、そのプラス幅は縮小傾向にあります。

図表 10 年齢階級別にみた人口の純移動数の推移（男性）



(資料) 国勢調査

図表 11 年齢階級別にみた人口の純移動数の推移（女性）



(資料) 国勢調査

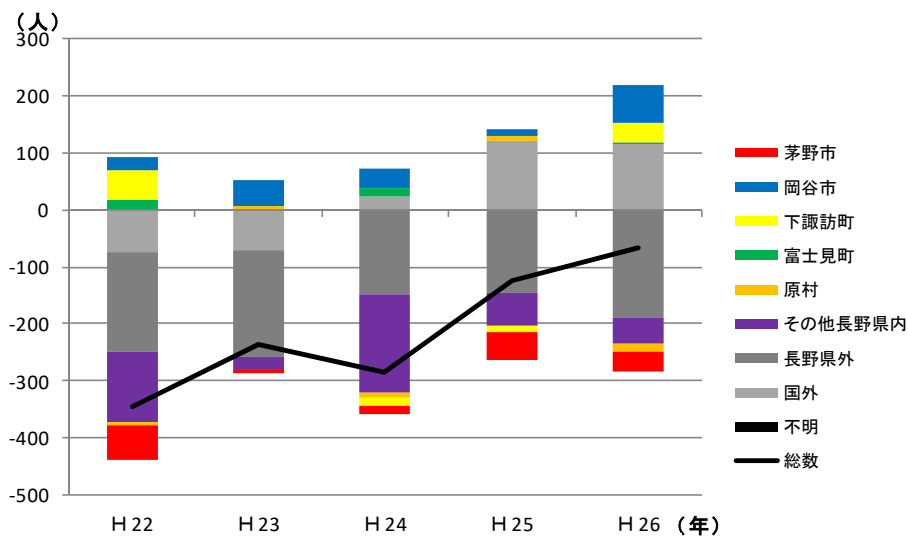
(7) 諏訪市への転入・諏訪市からの転出の状況

平成 22 年以降の諏訪圏域での転入・転出状況を見ると、5 市町村合計では平成 25 年を除き、諏訪市への転入超過となっています。個別には、茅野市へは転出超過、岡谷市からは転入超過の傾向がみられます。

また、国勢調査による人口移動状況を見ると、諏訪圏域内の転入・転出の数が多く、上位を占めています。

長野県外への移動の状況を見ると、東京都を中心とした首都圏への転出超過となっています。大学等への進学、仕事や就職等の関係によるものと考えられます。

図表 12 諏訪市への転入・諏訪市からの転出の状況（平成 22 年～26 年）



(資料)長野県「毎月人口異動調査」
(注) 転入－転出

	H22	H23	H24	H25	H26
総数	-344	-235	-286	-123	-67
長野県内	-95	22	-160	-99	6
諏訪圏域	27	47	12	-41	54
茅野市	-60	-5	-14	-49	-36
岡谷市	23	46	34	10	66
下諏訪町	52	1	-15	-10	34
富士見町	17	0	16	0	2
原村	-5	5	-9	8	-12
上記以外の長野県	-122	-25	-172	-58	-48
松本市	-34	-42	-62	-46	3
長野市	-32	12	-17	-8	-15
その他長野県内	-56	5	-93	-4	-36
長野県外	-177	-187	-149	-146	-188
東京都	-90	-54	-35	-59	-71
神奈川県	-13	-21	2	-10	-37
その他長野県外	-74	-112	-116	-77	-80
国外	-73	-70	23	122	115
不明	1	0	0	0	0

(資料)長野県「毎月人口異動調査」
(注) 転入－転出

図表 13 諏訪市への転入・諏訪市からの転出の状況（平成22年）

諏訪市への転入先上位15先

長野県内			長野県外		
茅野市	960	22.6%	東京都	551	24.4%
岡谷市	659	15.5%	神奈川県	271	12.0%
下諏訪町	384	9.1%	愛知県	170	7.5%
長野市	363	8.6%	埼玉県	158	7.0%
松本市	334	7.9%	山梨県	138	6.1%
富士見町	217	5.1%	千葉県	128	5.7%
塩尻市	140	3.3%	岐阜県	72	3.2%
伊那市	139	3.3%	大阪府	71	3.1%
上田市	110	2.6%	新潟県	62	2.8%
辰野町	110	2.6%	山形県	60	2.7%
飯田市	103	2.4%	静岡県	60	2.7%
安曇野市	77	1.8%	群馬県	59	2.6%
箕輪町	72	1.7%	北海道	53	2.4%
佐久市	58	1.4%	兵庫県	35	1.6%
駒ヶ根市	56	1.3%	茨城県	31	1.4%
その他	461	10.9%	その他	335	14.9%
計	4,243	100.0%	計	2,254	100.0%

（資料）総務省「国勢調査（平成22年）」

諏訪市からの転出先上位15先

長野県内			長野県外		
茅野市	1,191	24.9%	東京都	567	21.3%
岡谷市	610	12.8%	神奈川県	309	11.6%
松本市	527	11.0%	山梨県	216	8.1%
長野市	405	8.5%	埼玉県	207	7.8%
下諏訪町	340	7.1%	愛知県	197	7.4%
塩尻市	290	6.1%	千葉県	146	5.5%
富士見町	207	4.3%	静岡県	134	5.0%
伊那市	120	2.5%	新潟県	97	3.7%
原村	117	2.4%	北海道	77	2.9%
辰野町	116	2.4%	群馬県	66	2.5%
安曇野市	115	2.4%	大阪府	60	2.3%
飯田市	113	2.4%	岐阜県	48	1.8%
上田市	88	1.8%	京都府	48	1.8%
佐久市	73	1.5%	茨城県	41	1.5%
箕輪町	55	1.1%	兵庫県	34	1.3%
その他	416	8.7%	その他	409	15.4%
計	4,783	100.0%	計	2,656	100.0%

（資料）総務省「国勢調査（平成22年）」

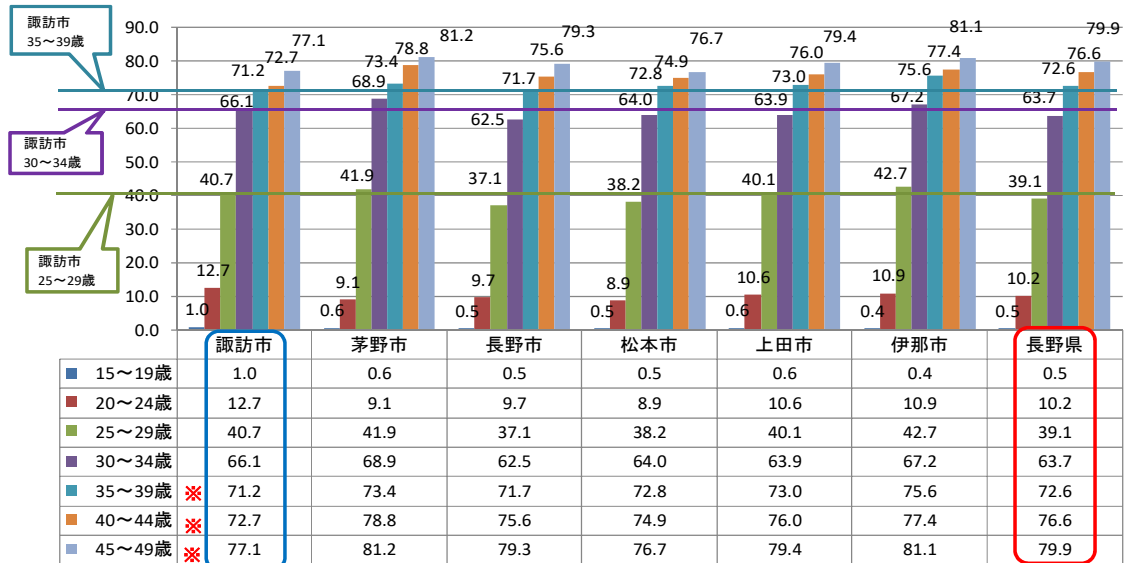
3 諏訪市の出生率の状況

(1) 女性の有配偶率に関する他市との比較

女性の有配偶率を、適齢期と言われる「25～29歳」で比較すると、県平均の39.1%に対し諏訪市は40.7%と高めとなっていますが、「35～39歳」以降では県平均よりも低くなっています。

近隣の茅野市との比較でみると、「15～19歳」、「20～24歳」での有配偶率は高くなっていますが、25歳以降では、いずれも諏訪市の有配偶率が下回っています。

図表 14 女性の有配偶率の状況

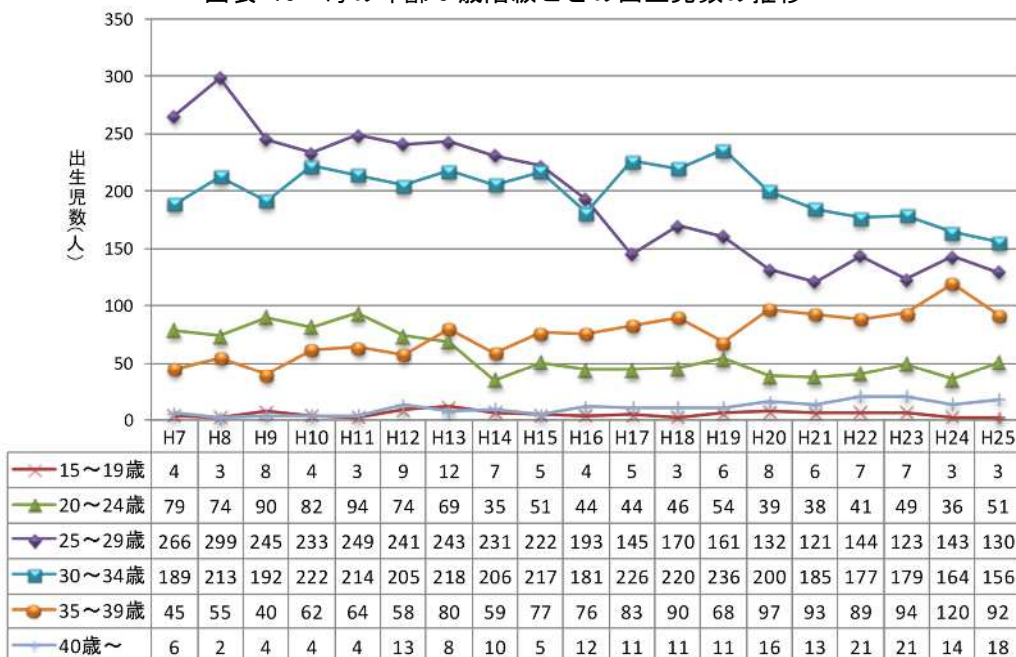


(資料)総務省統計局「国勢調査」(平成22年)

(2) 母の年齢5歳階級ごとの出生児数の推移

母の年齢「25～29歳」の出生児数は、平成16年まで最も多かったが、平成17年以降、「30～34歳」の出生児数に逆転されています。「35～39歳」の出生児数は、平成20年以降概ね100人前後で横ばい推移となっています。出産の高年齢化がみられます。

図表 15 母の年齢5歳階級ごとの出生児数の推移



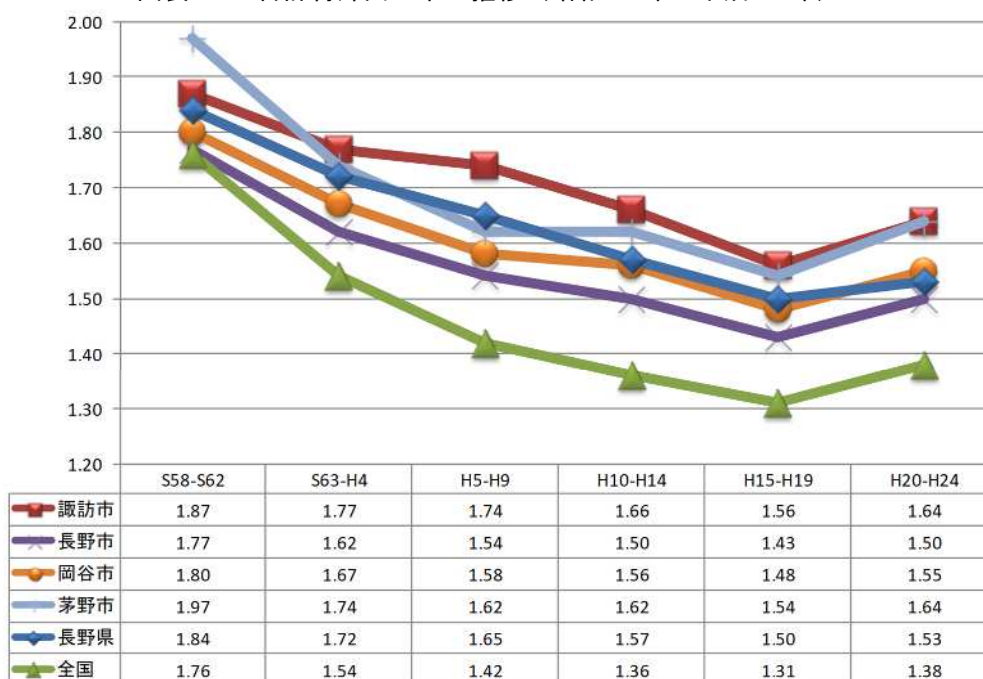
(資料)厚生労働省「人口動態調査」

(3) 合計特殊出生率の推移

諏訪市の合計特殊出生率は、全国、長野県に比べ高い値で推移しています。諏訪地域の他市との比較では、昭和 63 年以降、岡谷市、茅野市より高い値でしたが、平成 20 年以降は、茅野市と同水準になっています（図表 16）。

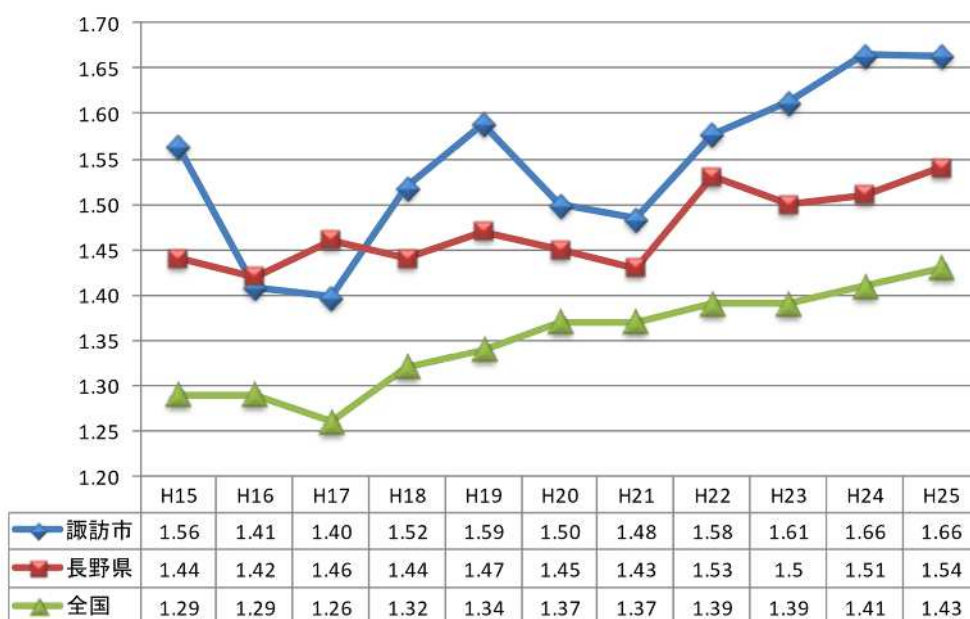
平成 15 年以降の合計特殊出生率を各年でみると、平成 16、17 年に長野県の値を下回ったものの、それ以降、長野県の値を上回っています。諏訪市の合計特殊出生率は上昇基調にあり、この傾向は、全国、長野県と同様です（図表 17）。

図表 16 合計特殊出生率の推移（昭和 58 年～平成 24 年）



(資料)人口動態保健所・市町村別統計
※ベイズ推定値、但し全国のS58～H14は、各期間の中央の年次における値

図表 17 合計特殊出生率の推移（平成 15 年～平成 25 年）



(資料)厚生労働省「人口動態調査」、長野県「毎月人口異動調査」
※(母の5歳階級別出生数÷5歳階級別女性人口)の5倍を合計し算出しており、ベイズ推定値とは異なる

4 諏訪市の産業構造・就業人口

(1) 産業別就業人口（15歳以上就業者数）

諏訪市の就業人口（15歳以上）は、平成12年の29,578人をピークに減少しています。昭和60年との対比でみると、平成22年は、第1次産業が▲48.2%とほぼ半減、第2次産業が▲27.8%の一方、第3次産業は+11.2%となっています（図表18）。

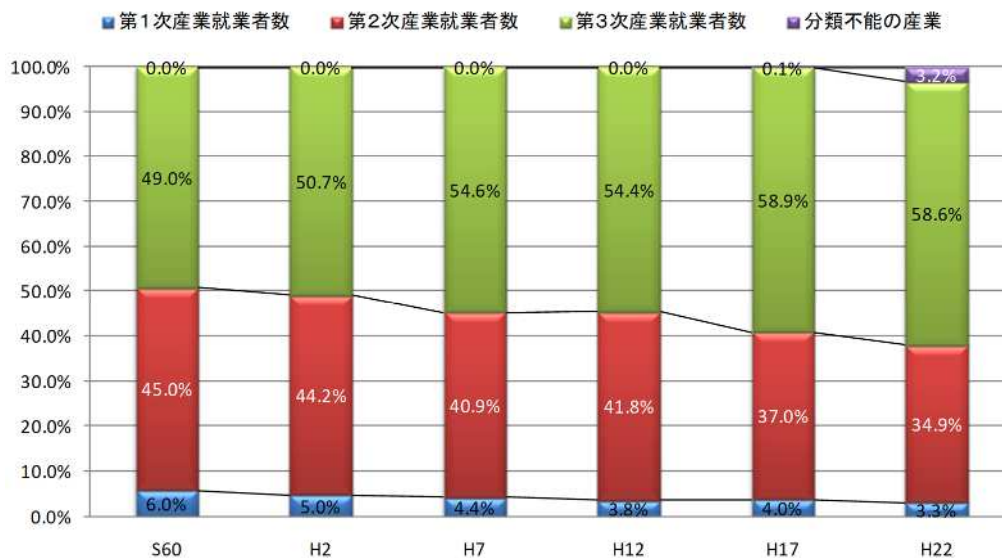
これを構成比でみると、昭和60年は、第1次産業と第2次産業で全体の約5割を占めていましたが、平成22年には4割程度に減少しています。第3次産業は、平成2年に50%を超え、平成22年は全体の6割弱を占めており、経済のサービス化が進展しています（図表19）。

図表18 産業別就業人口（15歳以上就業者数）の推移



(資料)総務省統計局「国勢調査」
 ※「分類不能の産業」の折れ線は表示していない

図表19 産業別就業人口（15歳以上就業者数）の構成比の推移

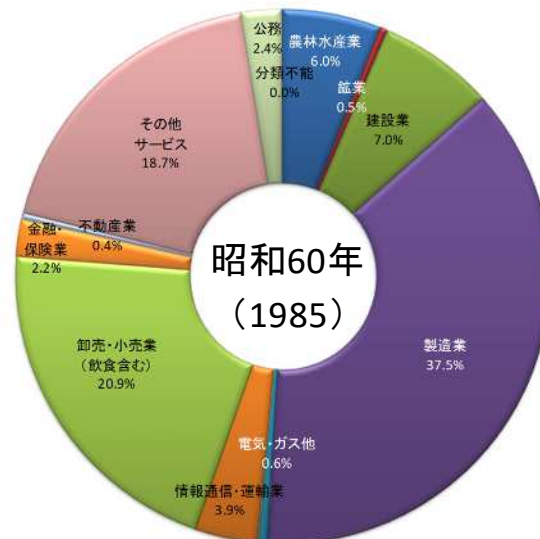


(資料)総務省統計局「国勢調査」

(2) 産業別就業者数の変化

産業別就業者数を昭和60年と平成22年で比較すると、農林水産業と製造業の就業者数割合が低下しています。一方、「卸売・小売業（飲食含む）」、「その他サービス」等の割合は上昇しています。「その他サービス」には「医療・福祉」、「生活・娯楽」等が含まれます。

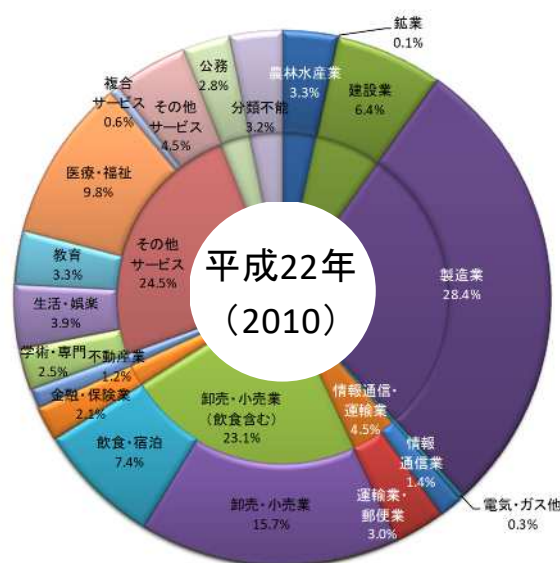
図表 20 産業別就業者数の変化
昭和60年（1985年）



（資料）総務省統計局「昭和60年国勢調査」



平成22年（2010年）



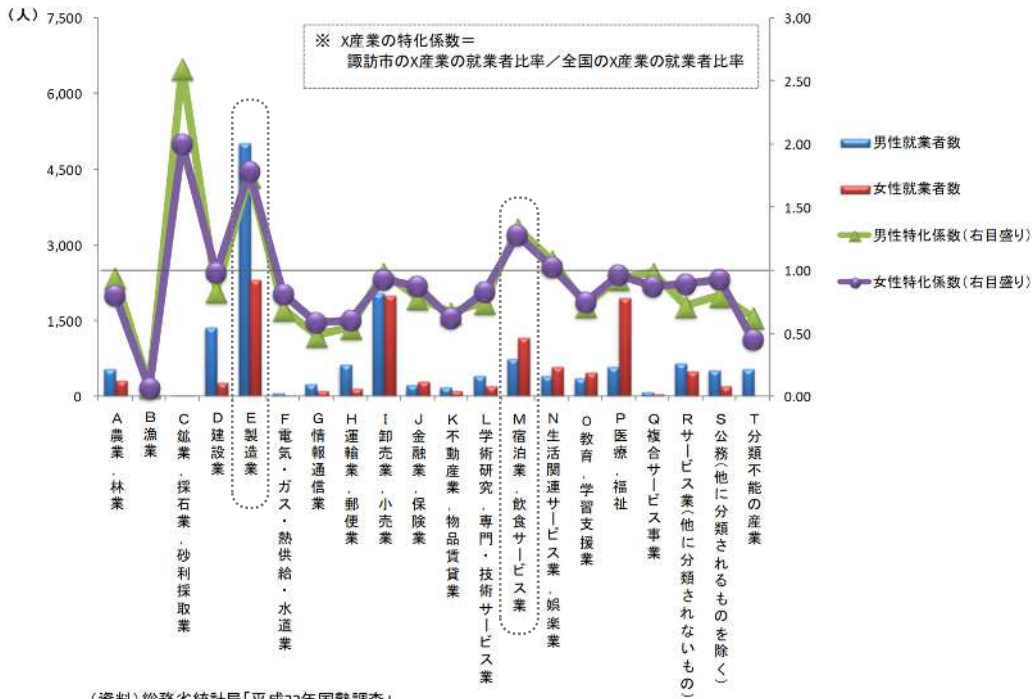
（資料）総務省統計局「平成22年国勢調査」

(3) 全国・長野県との比較でみた男女別産業大分類別人口

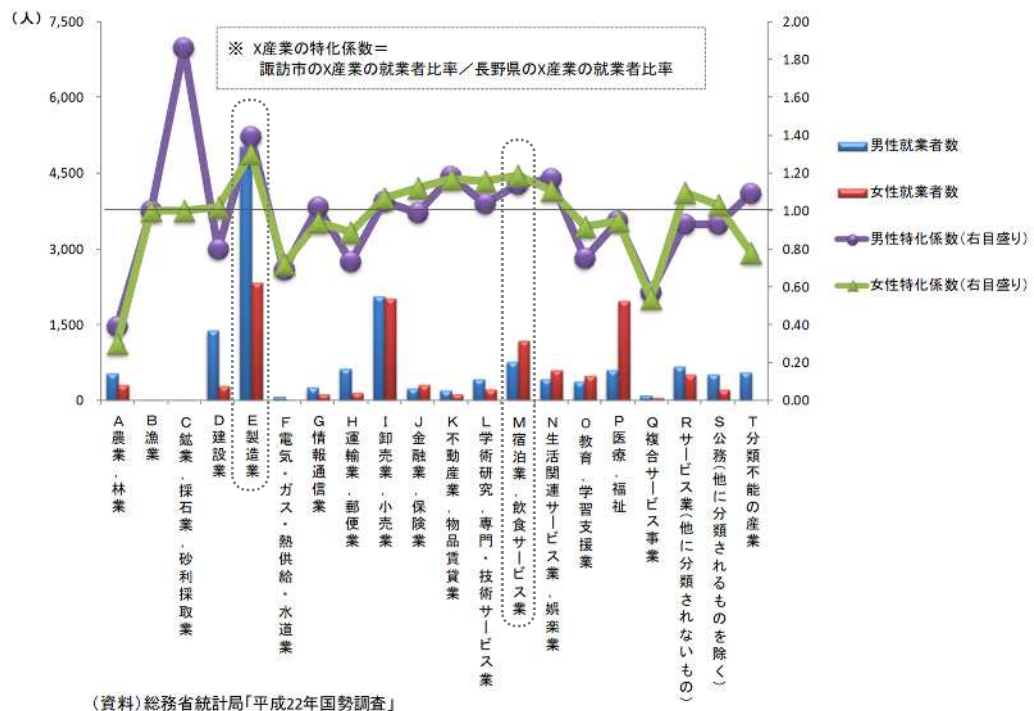
男女別産業大分類別人口をみると、男女とも「製造業」の就業者数が多くなっています。全国と比較した特化係数でも、「製造業」は男女ともに1.7を超え、諏訪市を特徴づける産業といえます。また、「宿泊業・飲食サービス業」の特化係数も高く、男性は1.33、女性は1.28となっています（図表21）。

長野県と比較した特化係数についても同様の傾向がみられます（図表22）。

図表 21 男女別産業大分類別人口（平成22年）【全国との比較】



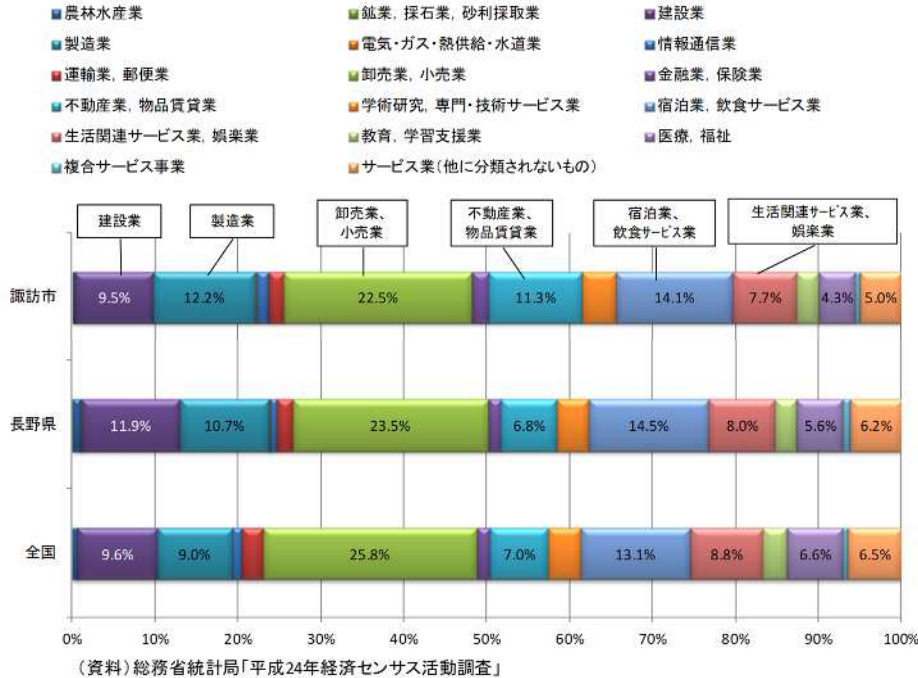
図表 22 男女別産業大分類別人口（平成22年）【長野県との比較】



(4) 産業別事業所数の特徴（平成 24 年）

平成 24 年の産業別事業所数をみると、諏訪市は長野県、全国と比較し、「製造業」、「不動産業、物品賃貸業」の事業所数の構成比率が高くなっています。

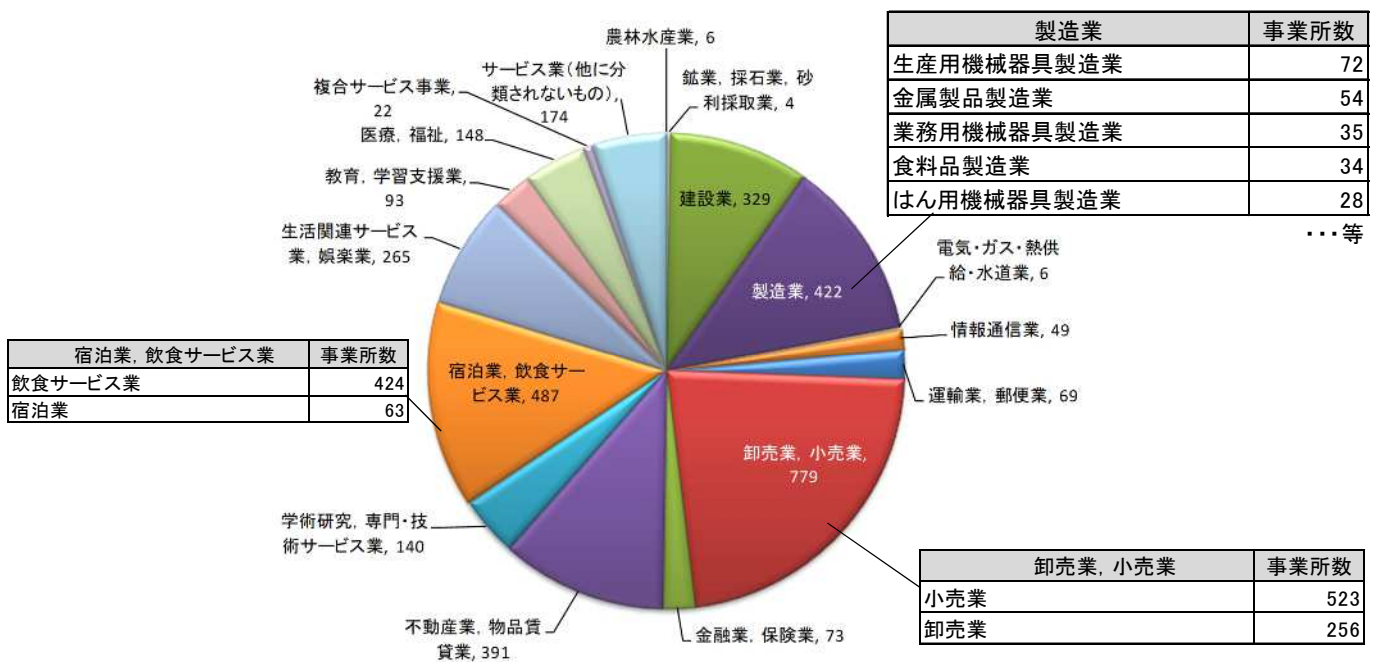
図表 23 産業別事業所数構成比（平成 24 年）



(5) 諏訪市の産業別事業所数の特徴（平成 24 年）

平成 24 年の事業所数は全体で 3,457 となっています。産業別にみると、事業所数が最も多い「卸売業、小売業」のうち、「小売業」は 523、「卸売業」は 256 となっています。また、「宿泊業、飲食サービス業」のうち、「宿泊業」は 63、「製造業」は「生産用機械器具製造業」が 72 と最も多く、次いで「金属製品製造業」が 54 となっています。

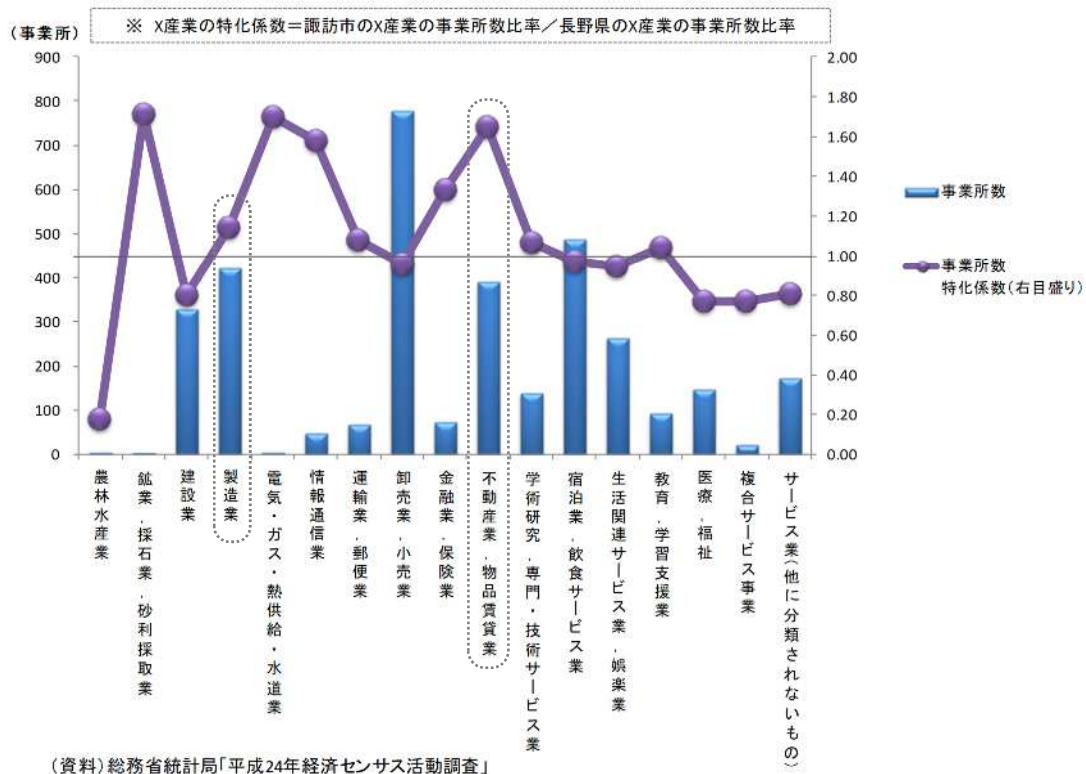
図表 24 産業別事業所数（平成 24 年）



(6) 長野県との比較でみた産業事業所数

事業所数が比較的多い産業の特化係数（長野県との比較）をみると、「不動産業、物品賃貸業」が1.65、「製造業」が1.14 といずれも高くなっています。事業所数の特化状況からみて、これらは諏訪市を特徴づける産業といえます。

図表 25 産業事業所数（平成 24 年）特化係数【長野県との比較】

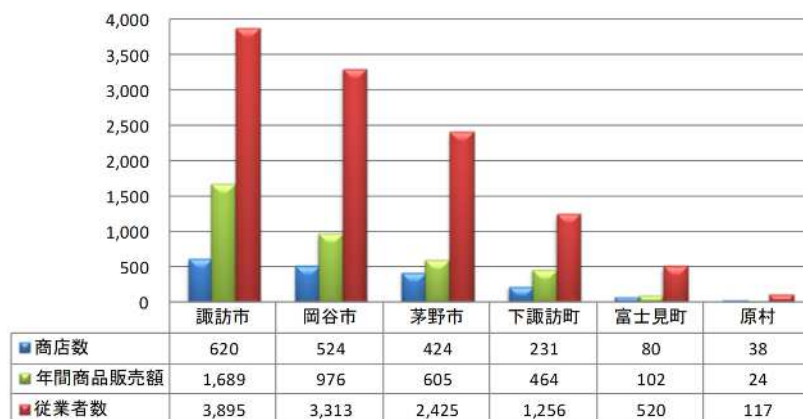


(7) 諏訪地域 6 市町村の商業の状況

諏訪市は、商店数、従業者数、年間商品販売額いずれも諏訪地域 6 市町村の中で最も大きくなっています。商店数に比べ年間商品販売額が大きく、他市町村に比べ規模の大きな事業所が集積しているとみられます。

図表 26 諏訪地域 6 市町村の商業状況（平成 24 年）

(事業所、億円、人)



(資料)総務省統計局「平成24年経済センサス活動調査」

(注)卸売業、小売業の合計

(8) 諏訪市内外への通勤通学の状況

諏訪市内の常住者がどこへ通勤しているかをみると、諏訪市内が63.3%、茅野市が12.8%、岡谷市が6.9%、下諏訪町が3.7%などとなっており、諏訪地域6市町村内が90.7%を占めています。

一方、諏訪市内への通勤者がどこに常住しているかをみると、諏訪市内が56.0%、茅野市が13.9%、岡谷市が9.4%、下諏訪町が5.7%などとなっており、諏訪地域6市町村内が88.4%を占めています。

通学の状況についても同様に、諏訪6市町村の比率が高くなっています。

図表 27 諏訪市内外への通勤通学の状況（平成22年）

通勤地・常住地	諏訪市内常住者の通勤地				諏訪市内への通勤者の常住地			
	構成比	2005年比	増減率	構成比	2005年比	増減率		
常住者	25,954	100.0%	-1,971	-7.1%	29,336	100.0%	-2,642	-8.3%
市内	16,424	63.3%	-2,611	-13.7%	16,424	56.0%	-2,611	-13.7%
市外	8,837	34.0%	-53	-0.6%	12,079	41.2%	-864	-6.7%
県内	8,547	32.9%	-146	-1.7%	11,874	40.5%	-684	-5.4%
茅野市	3,321	12.8%	46	1.4%	4,082	13.9%	-169	-4.0%
岡谷市	1,800	6.9%	8	0.4%	2,771	9.4%	14	0.5%
下諏訪町	970	3.7%	-83	-7.9%	1,667	5.7%	-151	-8.3%
富士見町	882	3.4%	-212	-19.4%	612	2.1%	-84	-12.1%
原村	140	0.5%	10	7.7%	379	1.3%	14	3.8%
塩尻市	482	1.9%	117	32.1%	463	1.6%	-58	-11.1%
松本市	464	1.8%	34	7.9%	645	2.2%	32	5.2%
辰野町	113	0.4%	-20	-15.0%	380	1.3%	-60	-13.6%
伊那市	104	0.4%	-5	-4.6%	192	0.7%	9	4.9%
箕輪町	82	0.3%	-10	-10.9%	196	0.7%	-48	-19.7%
長野市	36	0.1%	9	33.3%	45	0.2%	-42	-48.3%
その他	153	0.6%	-40	-20.7%	442	1.5%	-141	-24.2%
県外	150	0.6%	-47	-23.9%	205	0.7%	-180	-46.8%
山梨県	75	0.3%	-16	-17.6%	106	0.4%	-69	-39.4%
北杜市	52	0.2%	-7	-11.9%	53	0.2%	-40	-43.0%
甲府市	11	0.0%	-4	-26.7%	13	0.0%	-11	-45.8%
その他	12	0.0%	-5	-29.4%	40	0.1%	-18	-31.0%
東京都	37	0.1%	-23	-38.3%	33	0.1%	-22	-40.0%
愛知県	6	0.0%	-3	-33.3%	11	0.0%	2	22.2%
その他	32	0.1%	-5	-13.5%	55	0.2%	-91	-62.3%
不詳	140	0.5%	140	-	0	0.0%	0	-
不詳	693	2.7%	693	-	833	2.8%	833	-

(資料)総務省「国勢調査」

通学地・常住地	諏訪市内常住者の通学地				諏訪市内への通学者の常住地			
	構成比	2005年比	増減率	構成比	2005年比	増減率		
常住者	2,100	100.0%	-116	-5.2%	2,752	100.0%	-44	-1.6%
市内	1,111	52.9%	-111	-9.1%	1,111	40.4%	-111	-9.1%
市外	963	45.9%	-31	-3.1%	1,596	58.0%	22	1.4%
県内	861	41.0%	-39	-4.3%	1,589	57.7%	32	2.1%
岡谷市	230	11.0%	-40	-14.8%	372	13.5%	0	0.0%
茅野市	213	10.1%	-37	-14.8%	490	17.8%	-25	-4.9%
下諏訪町	113	5.4%	3	2.7%	185	6.7%	9	5.1%
富士見町	75	3.6%	27	56.3%	121	4.4%	-11	-8.3%
原村	0	0.0%	0	0.0%	90	3.3%	-6	-6.3%
松本市	170	8.1%	5	3.0%	50	1.8%	20	66.7%
塩尻市	22	1.0%	1	4.8%	87	3.2%	38	77.6%
伊那市	8	0.4%	3	60.0%	19	0.7%	6	46.2%
辰野町	8	0.4%	1	14.3%	64	2.3%	-21	-24.7%
長野市	6	0.3%	-2	-25.0%	4	0.1%	-1	-20.0%
南箕輪村	4	0.2%	2	100.0%	6	0.2%	-7	-53.8%
その他	12	0.6%	-2	-14.3%	101	3.7%	30	42.3%
県外	83	4.0%	-11	-11.7%	7	0.3%	-10	-58.8%
山梨県	53	2.5%	16	43.2%	5	0.2%	-8	-61.5%
甲府市	30	1.4%	12	66.7%	1	0.0%	0	0.0%
北杜市	20	1.0%	5	33.3%	2	0.1%	0	-80.0%
その他	3	0.1%	-1	-25.0%	2	0.1%	0	0.0%
東京都	15	0.7%	-12	-44.4%	1	0.0%	-	-
その他	15	0.7%	-15	-50.0%	1	0.0%	-3	-75.0%
不詳	19	0.9%	19	-	0	0.0%	0	-
不詳	26	1.2%	26	-	45	1.6%	45	-

(資料)総務省「国勢調査」

Ⅲ 諏訪市の将来人口推計

1 総人口及び年齢3区分別人口の将来推計

今後、諏訪市が人口減少対策に取り組む上で目標となる、各種施策の効果を見込んだ将来人口推計（諏訪市独自推計）を行います。また、諏訪市独自推計と「社人研」及び日本創成会議（以下、「創成会議」といいます。）による推計をベースにした将来人口推計との比較を行います。

各推計パターンの仮定値（合計特殊出生率（以下、「出生率」といいます。）及び純移動率）は以下のとおりとなります。

図表 28 各推計パターン仮定値一覧

推計パターン		仮定値の設定条件	
①	社人研ベース	出生率	2010（H22）年の全国の子ども女性比と各市区町村の子ども女性比の較差をとり、その値を2015（H27）年以降一定として市区町村ごとに仮定値を設定。
		移動率	2005（H17）年から2010（H22）年の純移動率を基準として、今後10年間（2015（H27）年～2020（R2）年）にかけて縮小、2020（R2）年以降は縮小された純移動率の水準で推移すると仮定。
②	創成会議ベース	出生率	①社人研推計と同様。 ※2040（R22）年までの推計のため、以降は同水準により2060（R42）年まで推移すると仮定。
		移動率	2005（H17）年から2010（H22）年の純移動率が縮小せず、概ね同水準で推移すると仮定。 ※上記同様、同水準で2060（R42）年まで推移すると仮定。
③	諏訪市独自推計	出生率	2015（H27）年の出生率を1.64（H20～H24の人口動態保健所・市町村別統計のベース推定値）として、国の長期ビジョン目標値（2040（R22）に2.07）までの伸び率をそのまま諏訪市の伸び率に適用し、2040（R22）までに2.27に上昇すると仮定。
		移動率	2005（H17）年から2010（H22）年の純移動率が縮小したのち、2030（R12）年以降は純移動率が0となると仮定。 さらに、2015（H27）年から2060（R42）年にかけて、15～19歳から35～39歳までの年齢階級ごとに2人/5年間（全市10人/5年間）増加すると仮定。

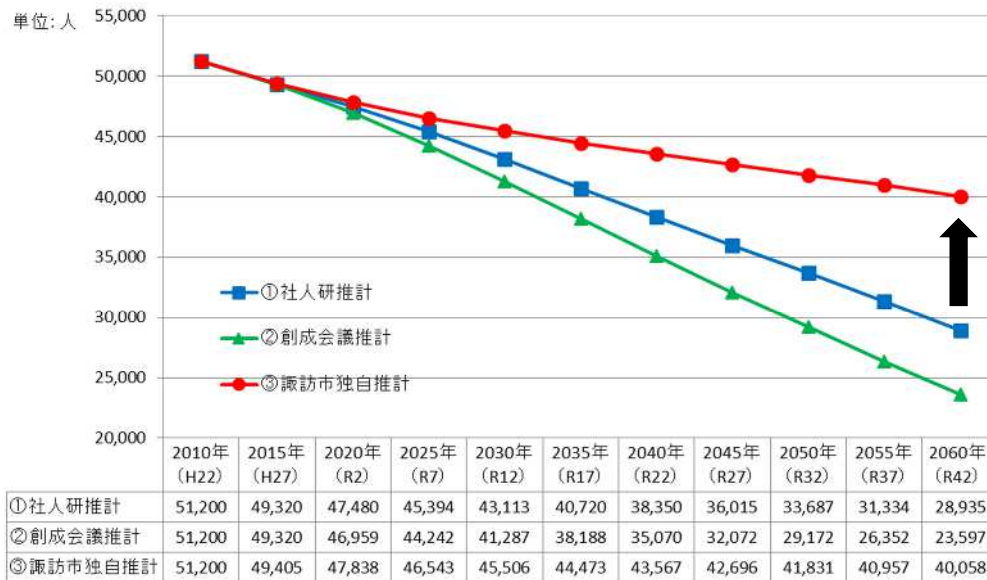
※③諏訪市独自推計の合計特殊出生率の仮定値

	2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)	2055年 (R37)	2060年 (R42)
諏訪市	1.64	1.64	1.76	1.86	1.97	2.12	2.27	2.27	2.27	2.27	2.27
国長期ビジョン	1.39	1.50	1.60	1.70	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

(1) 総人口の将来推計

人口減少抑制のために、合計特殊出生率の向上による出生数の増加、転出者抑制・転入者増加による純移動率の縮小を図ることで、他の推計パターンに比べ人口減少が緩和、一定程度の人口規模を維持できると推測できます。

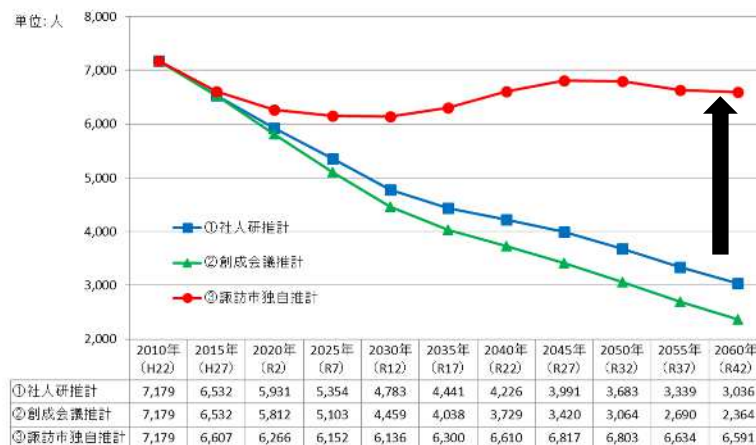
図表 29 各推計パターンによる諏訪市総人口の比較



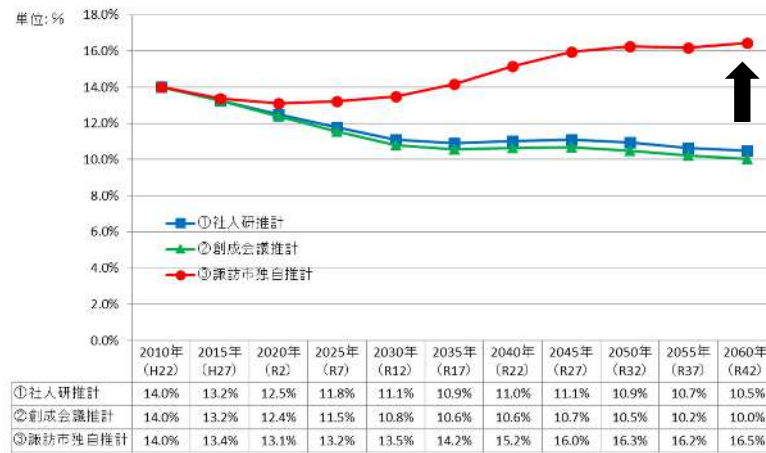
(2) 年齢3区分別人口の将来推計

年少人口について、①社人研ベースや②創成会議ベースでは大幅に減少、令和 42 (2060) 年には平成 22 (2010) 年の半数以下にまで落ち込むこととなります。③諏訪市独自推計では、合計特殊出生率の向上により出生数が増加することで、他の推計パターンと比較して大幅に改善され、令和 42 (2060) 年で 6,500 人を維持することができると予測されます。

図表 30 各推計パターンによる諏訪市総人口の比較 (年少人口)



図表 31 各推計パターンによる諏訪市総人口の比較（年少人口割合）

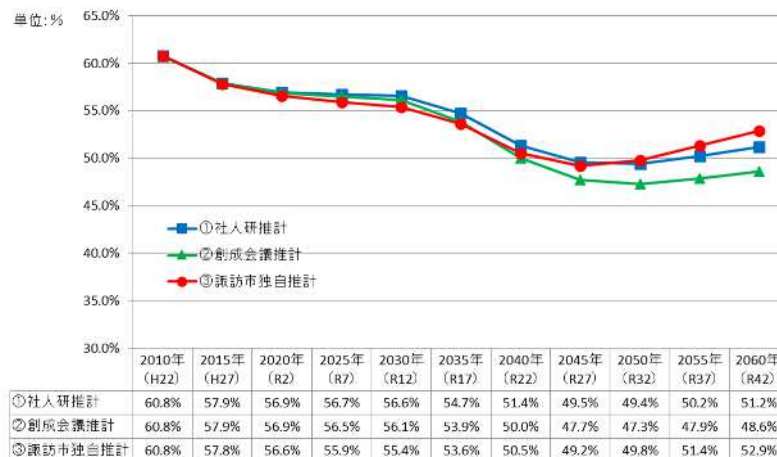


生産年齢人口について、③諏訪市独自推計では、合計特殊出生率の向上と転出超過の抑制により、他の推計パターンと比較して一定水準を保つことができ、令和 42(2060)年に 21,000 人を維持するとともに、若干の上昇も見込むことができると予測されます。

図表 32 各推計パターンによる諏訪市総人口の比較（生産年齢人口）

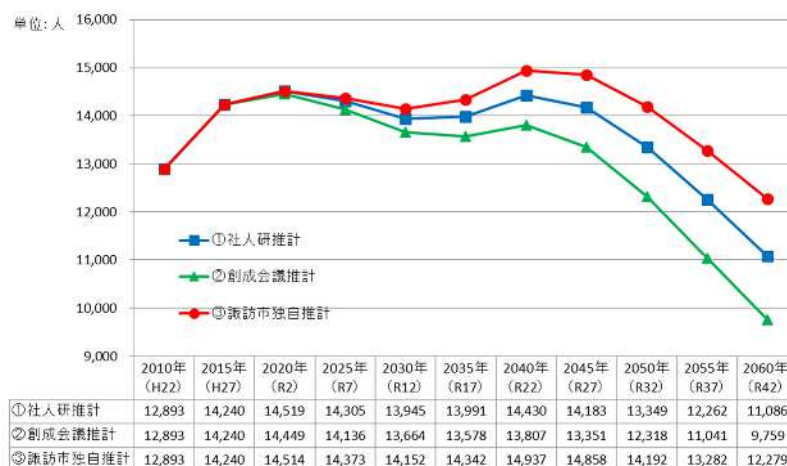


図表 33 各推計パターンによる諏訪市総人口の比較（生産年齢人口割合）

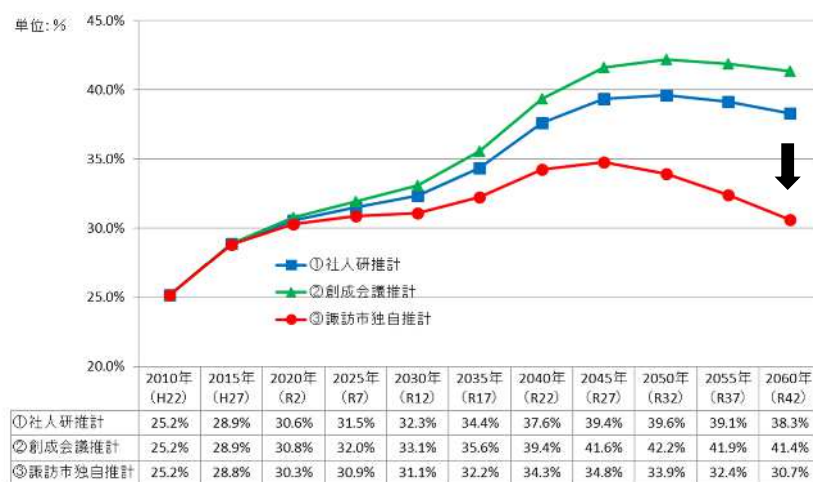


老年人口について、③諏訪市独自推計では、他の推計パターンより多くなるものの、人口構成比で見ると令和 42（2060）年で約 30%となり、①社人研ベースや②創成会議ベースよりも 10 ポイント程度改善され、高齢化の進展を大幅に抑制することが予測されます。

図表 34 各推計パターンによる諏訪市総人口の比較（老年人口）



図表 35 各推計パターンによる諏訪市総人口の比較（老年人口割合）



(3) 自然増減の比較

①社人研ベース及び②創成会議ベースによると、自然増減数は令和 22（2040）年にかけて急激に減少数が拡大、以降も 1,800 人前後の自然減が継続します。一方、③諏訪市独自推計では、合計特殊出生率の向上を図ることで出生数の増加に努め、令和 22（2040）年以降は 900 人程度の自然減に抑制されると推測できます。

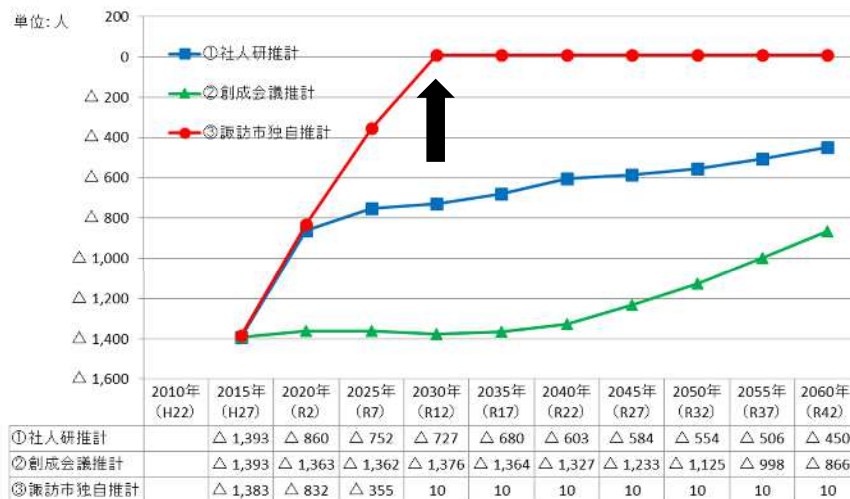
図表 36 自然増減数の比較



(4) 社会増減の比較

①社人研ベースでは、純移動率があまり縮小せず、②創成会議ベースでは、純移動率が縮小しないと仮定していることから社会減が拡大します。③諏訪市独自推計では、転出抑制と転入増加による純移動率の均衡を目指すことにより、令和 7（2025）年までに社会減が縮小すると予測されるとともに、転入者の増加（10 人／5 年間）を図ることで、令和 12（2030）年以降は若干の社会増を見込むことができます。

図表 37 社会増減数の比較



2 人口減少及び人口構成の変化がもたらす地域への影響

(1) 地域経済への影響

人口減少や人口構造の変化は、地域社会に様々な影響を及ぼします。特に、急激な人口減少や高齢化は、労働力人口の減少や市場規模の縮小を引き起こし、地域経済に対してマイナスの影響を与えることが想定されます。諏訪市では、製造業の事業所や就業者数が多く、ものづくりを中心とした産業が根付いています。こうした地域産業の構造変化や地域経済規模の縮小が懸念され、それがさらなる経済規模の縮小を招くという「縮小スパイラル」に陥るリスクがあります。

また、地域経済へのマイナス影響は雇用悪化へとつながり、若年層の人口流出の要因となります。若年層の流出は、出産適齢期や子育て世代の人口層の減少に直結するため、出生数がさらに減少してしまう悪循環の連鎖が続くこととなります。

(2) 市民生活への影響

市内の一部町内会では人口減少とともに高齢化率が50%を超えています。さらなる人口減少と少子高齢化の進展により、町内会活動や非常時の地区防災体制の整備が困難となり、地域コミュニティの存続が危ぶまれます。

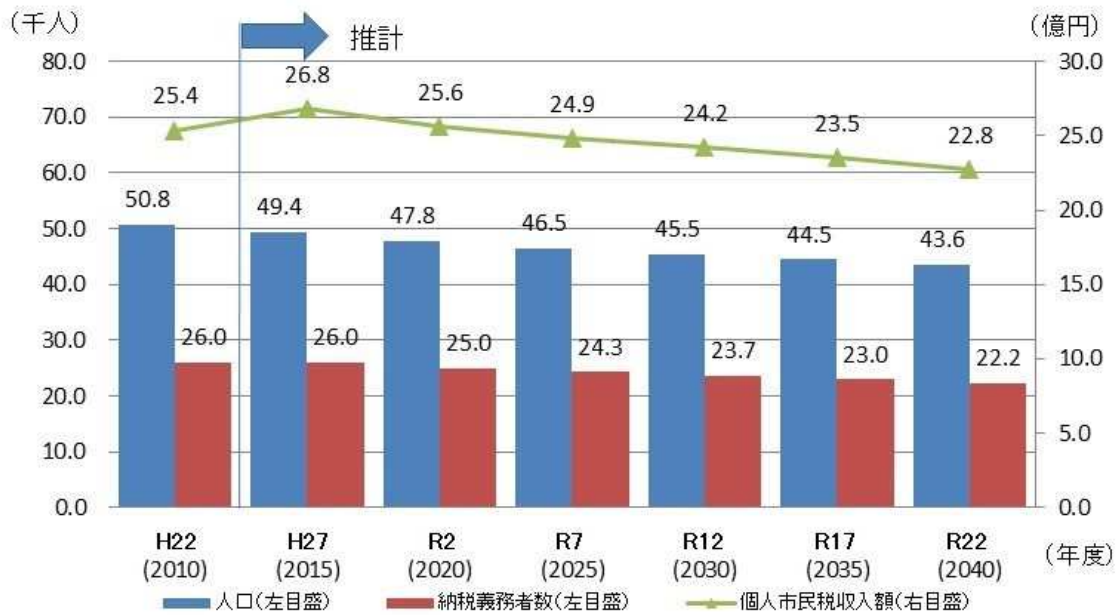
また、高齢化の進展により、日常の買い物や医療サービス、公共交通など、住民生活の維持に欠かせない社会・生活サービスのニーズが増すとともに、その維持確保がより一層求められることとなります。しかし、経済規模の縮小も相まって、さらなる生活水準の低下を招く恐れがあります。

(3) 行政サービスへの影響

生産年齢人口の減少により市税が減少する一方で、老年人口が増加することにより、社会保障費などの扶助費は増大することが予想されます（図表 38、39）。また、次代の担い手となる年少人口が減少することにより、今後この流れはさらに加速するとともに、生産年齢人口一人当たりの負担が大きくなり、勤労意欲の低下やイノベーション低下につながり、市外へ仕事や生活の場を求めることによる転出超過につながる恐れがあります。結果として、さらなる市税減少へとつながり、行政サービスの低下や一人当たりの行政コストが増加する可能性があります。

また、少子高齢化に伴う人口減少や人口構成の変化により、行政サービスのあり方や公共施設の適正配置など、行政システムの再構築が必要となります。

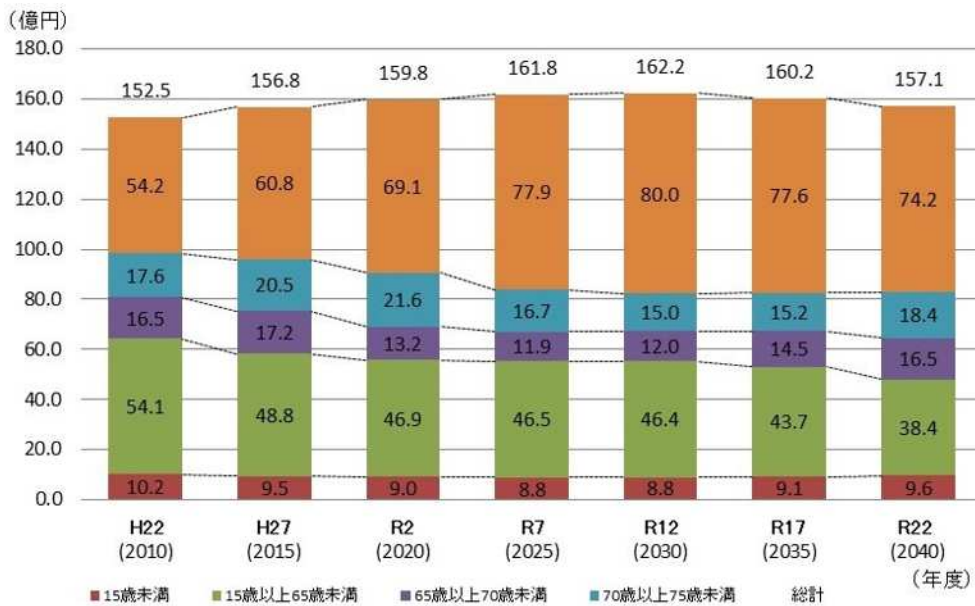
図表 38 人口減少に伴う個人市民税の推移予測



(資料) 諏訪市「市税概要」、諏訪市独自推計資料

(注) H26(2014)年度の個人市民税収入額(現年課税分)の実績を基に試算。H27(2015)年度は当初調定額。

図表 39 高齢化に伴う医療費の推移予測



(資料) 厚生労働省「国民医療費」、「医療費の地域差分析」

(注) 1. 医療費は、H25(2013)年度のデータを使用しているため、H22(2010)年度も推計値

2. 医療費は全てH25(2013)年度価格による

3. 端数処理の関係から、内訳の和が合計と一致しないことがある

<作成方法>

年齢階級別人口1人当たり国民医療費(全国) × 地域差指数(諏訪市) × 年齢階級別人口(諏訪市)

(参考資料)

年齢階級別人口1人当たり国民医療費: 厚生労働省「国民医療費(平成25年度)」

地域差指数: 厚生労働省「医療費の地域差分析(平成25年度)」

推計人口: 諏訪市独自推計による

IV 住民意識調査結果の分析

1 結婚・出産・子育てに関するアンケート調査

20～30歳代の市内在住者を対象に実施したアンケート調査では、結婚・出産・子育てに関する希望や課題についての調査を行いました。

結婚では、独身者の約7割の人が将来結婚したいと思うと回答しています。結婚にあたっての障害として、結婚後の生活費や住居、結婚資金等の経済的な問題が理由となっています。

出産・子育てにおいて、理想的な子どもの数については加重平均で2.45人となります。しかし、実際に産み育てられる子どもの数は加重平均で1.95人となります。要因としては、出産費用や大学教育の教育費等の経済的負担が大きいことが要因として挙げられています。

また、出産をきっかけに仕事を辞めた人で、復職・再就職したい人は8割以上となります。

上記のほかにも示唆に富む調査結果を得ることができました。結婚・出産・子育てに対する様々な「希望」を実現させるため、必要となる施策の検討を進めます。

【アンケート調査結果の抜粋】

調査時期 : 平成27年6月

調査対象 : 諏訪市在住の20歳代、30歳代の方から無作為抽出

配布数 2,000通 (郵送配布・郵送回収)

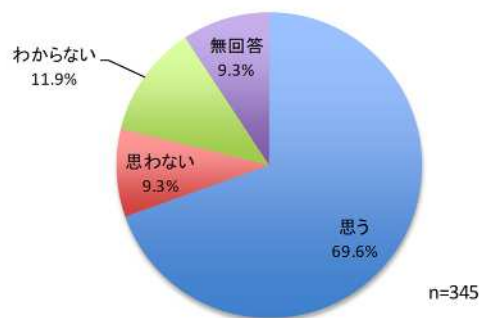
回答者数 : 731人 (回収率: 36.6%)

※四捨五入の関係から、構成比の合計が100%にならない箇所があります。

<独身の方におうかがいします>

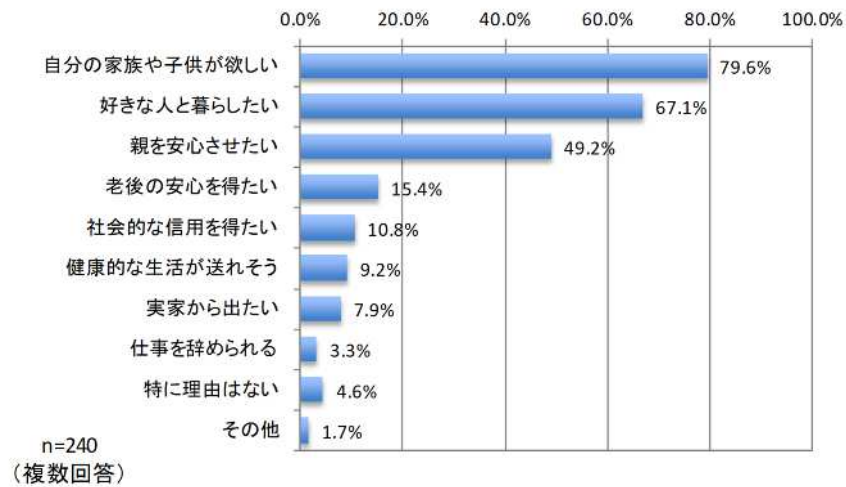
問1 あなたは将来結婚したいと思いますか。

1. 「思う」が69.6%と最も高く、「思わない」は9.3%となった。「わからない」も11.9%と、「思わない」を上回っている。



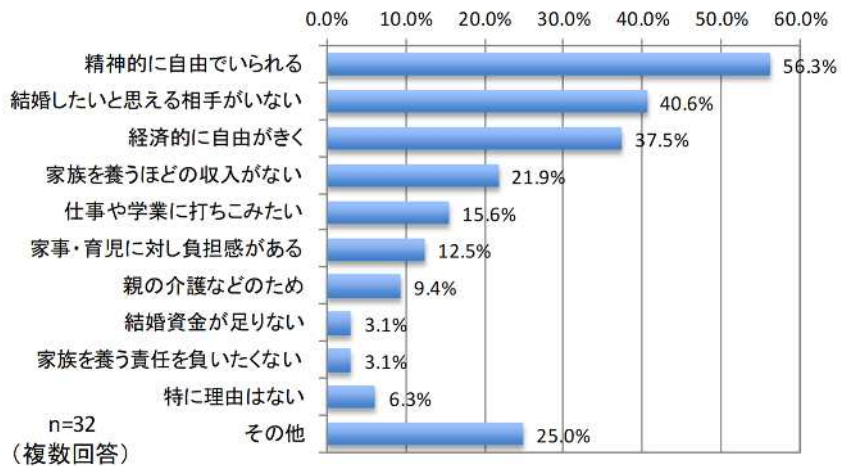
問2 問1で「1. 思う」と回答した方におうかがいします。その理由を3つまでご回答ください。

1. 「自分の家族や子供が欲しい」が79.6%と最も高く、次いで、「好きな人と暮らしたい」が67.1%、「親を安心させたい」が49.2%となった。



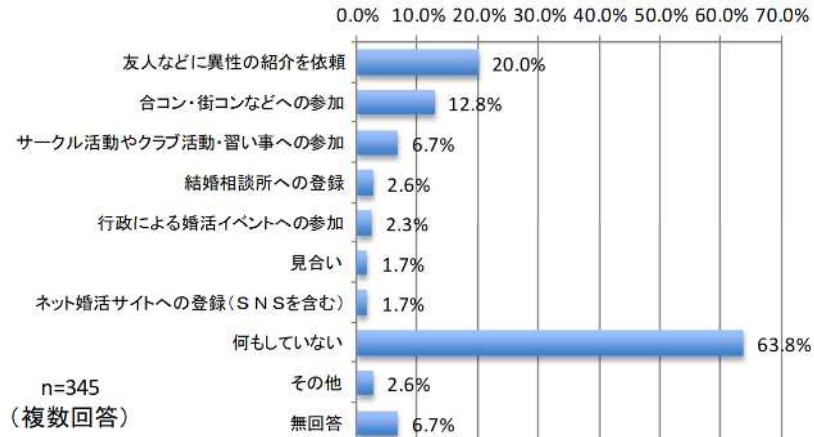
問3 問1で「2. 思わない」と回答した方におうかがいします。その理由を3つまでご回答ください。

1. 結婚したいと思わない理由として、「精神的に自由でいられる」が56.3%と最も高く、次いで、「結婚したいと思える相手がない」が40.6%、「経済的に自由がきく」が37.5%などとなっている。



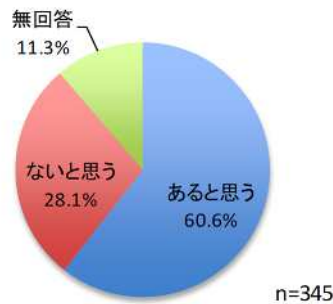
問5 あなたは結婚（出会い）に向けて行っていることがありますか。当てはまるものすべてを選択してください。

1. 「何もしていない」が63.8%と最も高く、次いで、「友人などに異性の紹介を依頼」が20.0%となっている。結婚に向けた能動的な行動はあまりみられない。



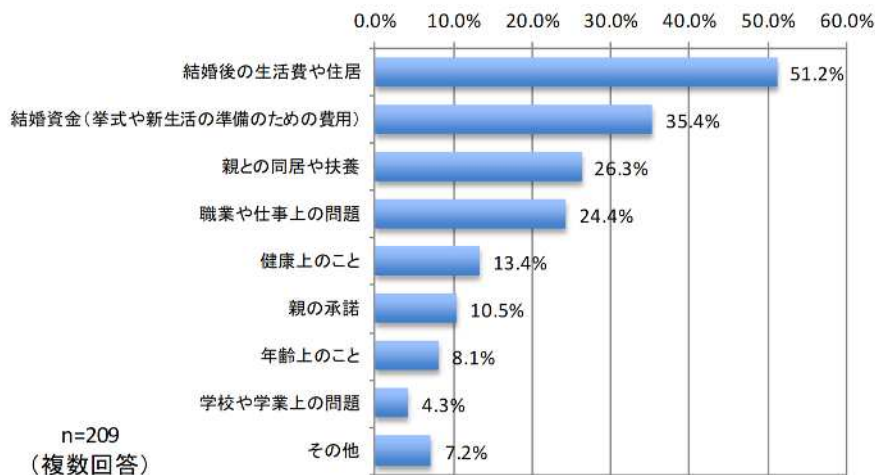
問6 現在交際している人（あるいは理想的な相手が見つかった場合）と結婚するとしたら、何か障害になることがあると思いますか。

1. 結婚の際の障害については、「あると思う」が60.6%となった。



問7 問6で「1. あると思う」と回答した方におうかがいします。具体的な障害を2つまで選択してください。

1. 結婚の際の具体的な障害については、「結婚後の生活費や住居」が51.2%と最も高く、次いで、「結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）」が35.4%となった。「親との同居や扶養」は26.3%、「職業や仕事上の問題」は24.4%となっており、経済的な問題が障害の上位にあげられている。



問8 あなたにとって理想的なお子さんの数は何人ですか（〇は1つ）。

1. 理想的な子どもの数は、「2人」が47.3%と最も高く、次いで、「3人」が42.3%となった。「1人」は3.4%にとどまっており、理想的な子どもの数は複数希望する声が多い。
2. 無回答を除き、理想的な子どもの数に応じて、それぞれの回答者数で加重平均すると、理想的な子どもの数は、2.45人となった。
3. 年収別にみると、低い方が「1人」の割合が、高い方が「3人」の割合が高い傾向にある。

		合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	0人	無回答	
全体	回答数	731	25	346	309	19	4	2	11	15	
	割合	100.0%	3.4%	47.3%	42.3%	2.6%	0.5%	0.3%	1.5%	2.1%	
年収	200万円未満	回答数	105	6	47	39	3	1	0	3	6
		割合	100.0%	5.7%	44.8%	37.1%	2.9%	1.0%	0.0%	2.9%	5.7%
	200万円以上400万円未満	回答数	287	12	148	107	8	1	1	6	4
		割合	100.0%	4.2%	51.6%	37.3%	2.8%	0.3%	0.3%	2.1%	1.4%
	400万円以上600万円未満	回答数	173	4	79	85	4	0	0	0	1
		割合	100.0%	2.3%	45.7%	49.1%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	600万円以上800万円未満	回答数	71	2	27	40	1	1	0	0	0
		割合	100.0%	2.8%	38.0%	56.3%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	800万円以上	回答数	41	0	17	22	1	1	0	0	0
		割合	100.0%	0.0%	41.5%	53.7%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	なし	回答数	36	1	17	11	2	0	1	2	2
		割合	100.0%	2.8%	47.2%	30.6%	5.6%	0.0%	2.8%	5.6%	5.6%
	無回答	回答数	18	0	11	5	0	0	0	0	2
		割合	100.0%	0.0%	61.1%	27.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%

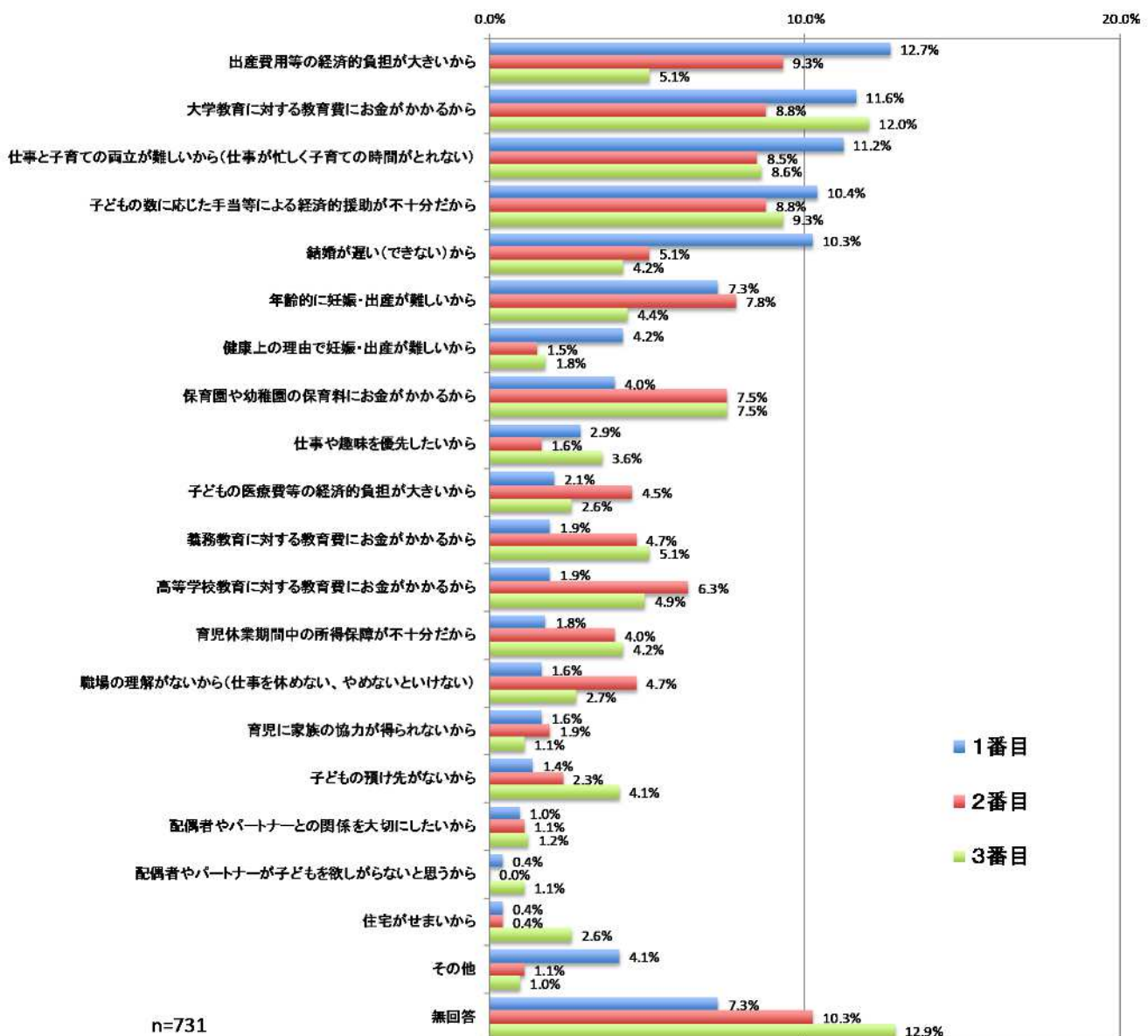
問9 実際に産み、育てられるとしたら何人ですか（〇は1つ）。

1. 実際に産み、育てられる子どもの数は、「2人」が59.5%と最も高く、次いで、「1人」が17.6%となり、「3人」の15.9%を上回った。
2. 問8に比べ、「3人」の割合が大きく減少し、「1人」の割合が上昇している。また、「0人」も3.3%ある。
3. 無回答を除き、実際に産み、育てられる子どもの数に応じて、それぞれの回答者数で加重平均すると、実際に産み、育てられる子どもの数は、1.95人となった。
4. 年収別には、問8と同様の傾向がみられるが、「1人」の回答では、その差が顕著になっている。

		合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	0人	無回答	
全体	回答数	731	129	435	116	9	2	0	24	16	
	割合	100.0%	17.6%	59.5%	15.9%	1.2%	0.3%	0.0%	3.3%	2.2%	
年収	200万円未満	回答数	105	25	51	15	2	1	0	5	6
		割合	100.0%	23.8%	48.6%	14.3%	1.9%	1.0%	0.0%	4.8%	5.7%
	200万円以上400万円未満	回答数	287	63	167	35	5	1	0	11	5
		割合	100.0%	22.0%	58.2%	12.2%	1.7%	0.3%	0.0%	3.8%	1.7%
	400万円以上600万円未満	回答数	173	27	108	34	1	0	0	2	1
		割合	100.0%	15.6%	62.4%	19.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.2%	0.6%
	600万円以上800万円未満	回答数	71	5	49	16	1	0	0	0	0
		割合	100.0%	7.0%	69.0%	22.5%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	800万円以上	回答数	41	4	26	11	0	0	0	0	0
		割合	100.0%	9.8%	63.4%	26.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	なし	回答数	36	5	20	3	0	0	0	6	2
		割合	100.0%	13.9%	55.6%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	5.6%
	無回答	回答数	18	0	14	2	0	0	0	0	2
		割合	100.0%	0.0%	77.8%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%

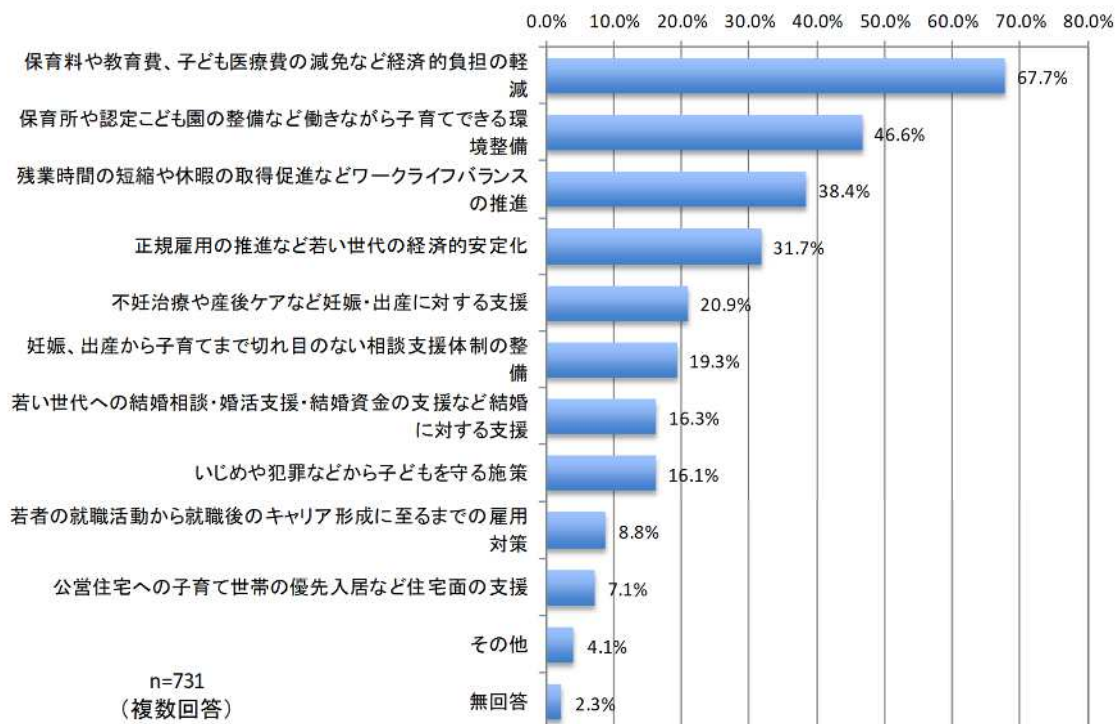
問 10 実際に産み、育てるつもりのお子さんの数が、理想的なお子さんの数より少なくなるとしたら、その原因は何である可能性が高いですか。可能性が高い順に3つまで選択し、1～3の順番を記入してください。

1. 原因の1位をみると、「出産費用等の経済的負担が大きいから」が12.7%と最も高く、次いで、「大学教育に対する教育費にお金がかかるから」が11.6%、「仕事と子育ての両立が難しいから（仕事が忙しく子育ての時間がとれない）」が11.2%などとなっている。
2. 原因の1位から3位の割合を単純に合計すると、「大学教育に対する教育費にお金がかかるから」が32.4%と最も高く、次いで「子どもの数に応じた手当等による経済的援助が不十分だから」が28.5%となっている。



問 11 少子化に歯止めをかけるため、行政に充実してほしいと考える支援策は何ですか。希望する支援策を3つまで選択してください。

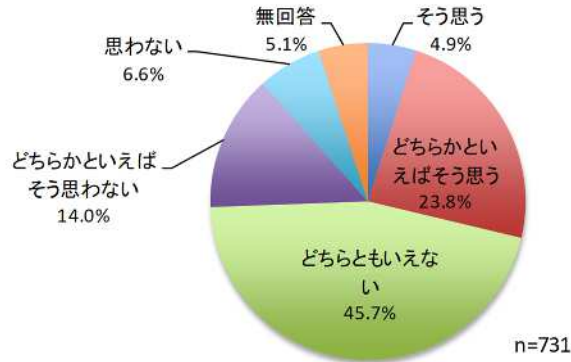
- 希望する支援策は、「保育料や教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減」が67.7%と最も高く、次いで、「保育所や認定こども園の整備など働きながら子育ての出来る環境整備」が46.6%、「残業時間の短縮や休暇の取得促進などワークライフバランスの推進」が38.4%となった。
- 上位3項目のほかを男女別にみると、男性は「正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化」の割合が、女性は「不妊治療や産後ケアなど妊娠・出産に対する支援」の割合が高い。
- 年齢別にみると、20～24歳は「残業時間の短縮や休暇の取得促進などワークライフバランスの推進」よりも「正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化」の割合の方が高い。



		対象	正規雇用	若者の就職	残業時間	若い世代	不妊治療	妊娠、出	保育所や	保育料や	公営住宅	いじめや	その他	無回答	
			の推進など若い世代の経済的安定化	活動から就職後のキャリア形成に至るまでの雇用対策	の短縮や休暇の取得促進などワークライフバランスの推進	への結婚相談・婚活支援・結婚資金の支援など結婚に対する支援	や産後ケアなど妊娠・出産に対する支援	所や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備	や子ども医療費の減免など経済的負担の軽減	への子育て世帯の優先入居など住宅面の支援	犯罪などから子どもを守る施策				
全体	回答数	731	232	64	281	119	153	141	341	495	52	118	30	17	
	割合	-	31.7%	8.8%	38.4%	16.3%	20.9%	19.3%	46.6%	67.7%	7.1%	16.1%	4.1%	2.3%	
性別	男性	回答数	261	105	34	78	68	30	38	108	163	22	41	14	10
		割合	-	40.2%	13.0%	29.9%	26.1%	11.5%	14.6%	41.4%	62.5%	8.4%	15.7%	5.4%	3.8%
	女性	回答数	464	126	30	200	49	123	102	227	329	30	77	15	7
		割合	-	27.2%	6.5%	43.1%	10.6%	26.5%	22.0%	48.9%	70.9%	6.5%	16.6%	3.2%	1.5%
無回答	回答数	6	1	0	3	2	0	1	6	3	0	0	1	0	
	割合	-	16.7%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	16.7%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	
年齢	20～24歳	回答数	112	45	13	42	23	17	19	48	63	5	21	3	7
		割合	-	40.2%	11.6%	37.5%	20.5%	15.2%	17.0%	42.9%	56.3%	4.5%	18.8%	2.7%	6.3%
	25～29歳	回答数	141	49	13	61	17	22	32	66	97	7	24	4	3
		割合	-	34.8%	9.2%	43.3%	12.1%	15.6%	22.7%	46.8%	68.8%	5.0%	17.0%	2.8%	2.1%
	30～34歳	回答数	190	57	14	62	32	50	38	99	135	18	24	8	3
		割合	-	30.0%	7.4%	32.6%	16.8%	26.3%	20.0%	52.1%	71.1%	9.5%	12.6%	4.2%	1.6%
	35～39歳	回答数	286	81	24	115	46	64	52	127	198	22	48	15	4
		割合	-	28.3%	8.4%	40.2%	16.1%	22.4%	18.2%	44.4%	69.2%	7.7%	16.8%	5.2%	1.4%

問 12 諏訪市は子育てしやすい（しやすそうな）まちだと思いますか。

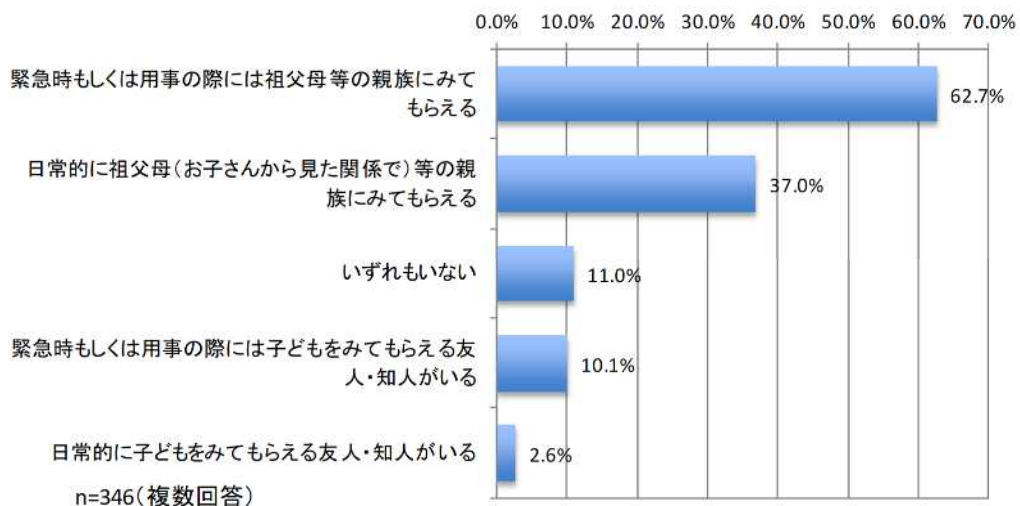
1. 「どちらともいえない」が45.7%と最も高い。プラス要因とマイナス要因が拮抗しているためか、あるいは、他の自治体との比較が難しいためか、背景ははっきりしないが、こうした人達に諏訪市は子育てしやすいまちだと思ってもらえるようなまちづくりが必要である。
2. 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」は合わせて28.7%、「思わない」と「どちらかといえば思わない」は合わせて20.6%と、肯定的な意見が上回った。



<現在子育て中の方におうかがいします>

問 15 現在子育て中の方におうかがいします。日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまるものすべてを選択してください。

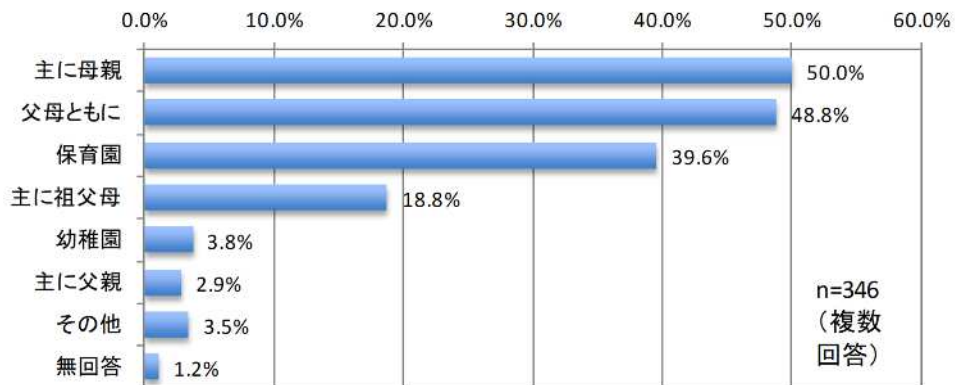
1. 「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が62.7%と最も高く、次いで、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が37.0%となっている。
2. 「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」は、全体で2.6%にとどまっており、近隣と連携した地域での子育てや見守り態勢は出来ていない。



問 16 お子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。

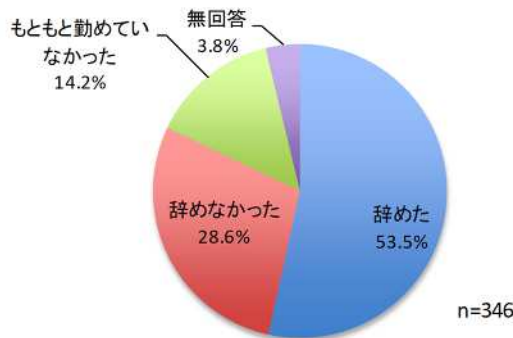
お子さんからみた関係で、当てはまるものすべてを選択してください。

1. 「主に母親」が50.0%と最も高く、次いで、「父母ともに」が48.8%、「保育園」が39.6%となった。



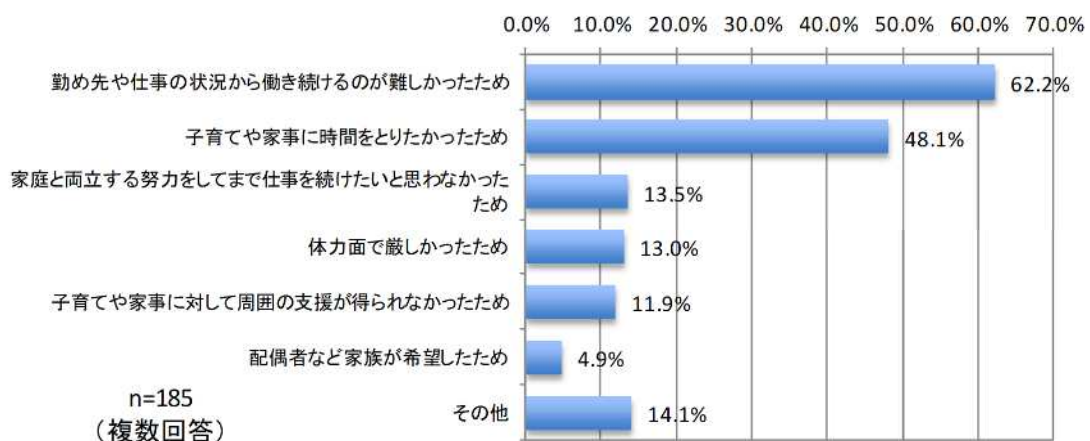
問 17 お子さんが生まれた（生まれる）ことをきっかけに、奥様（もしくは旦那様）はお勤めをどうされましたか。

1 「辞めた」が53.5%となり、過半の家庭で、子どもが生まれた（生まれる）ことをきっかけに、仕事を辞めている。



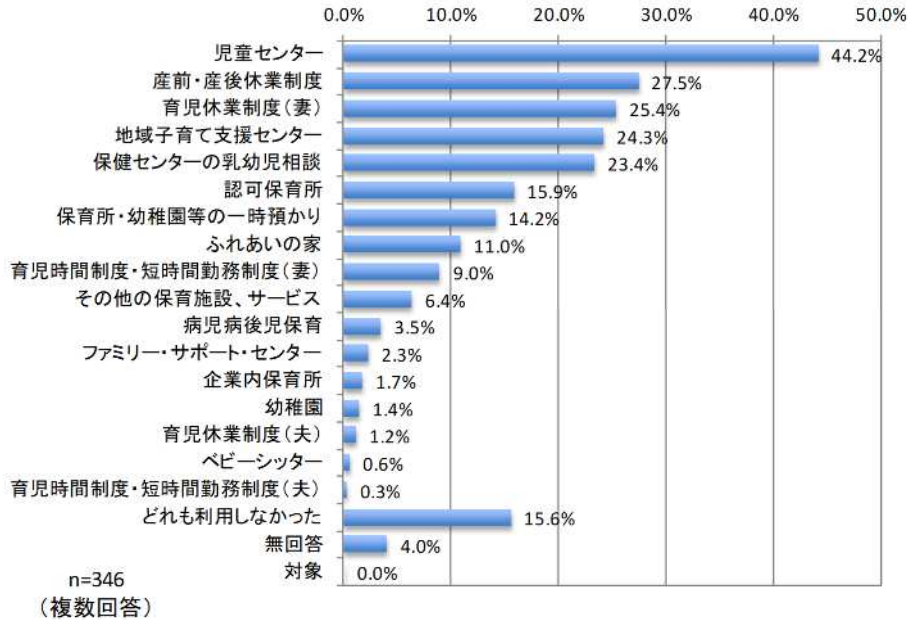
問 18 問 17 で奥様（もしくは旦那様）がお勤めを辞めたご夫婦におうかがいします。辞めた理由は何ですか。当てはまるものを2つまで選択してください。

1. 勤めを辞めた理由は、「勤め先や仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」が62.2%と最も高く、次いで、「子育てや家事に時間をとりたかったため」が48.1%となった。子育てを優先したかったという意見も多いが、勤め先等の状況から仕事を辞めざるを得なかったという理由が最も多くなっている。



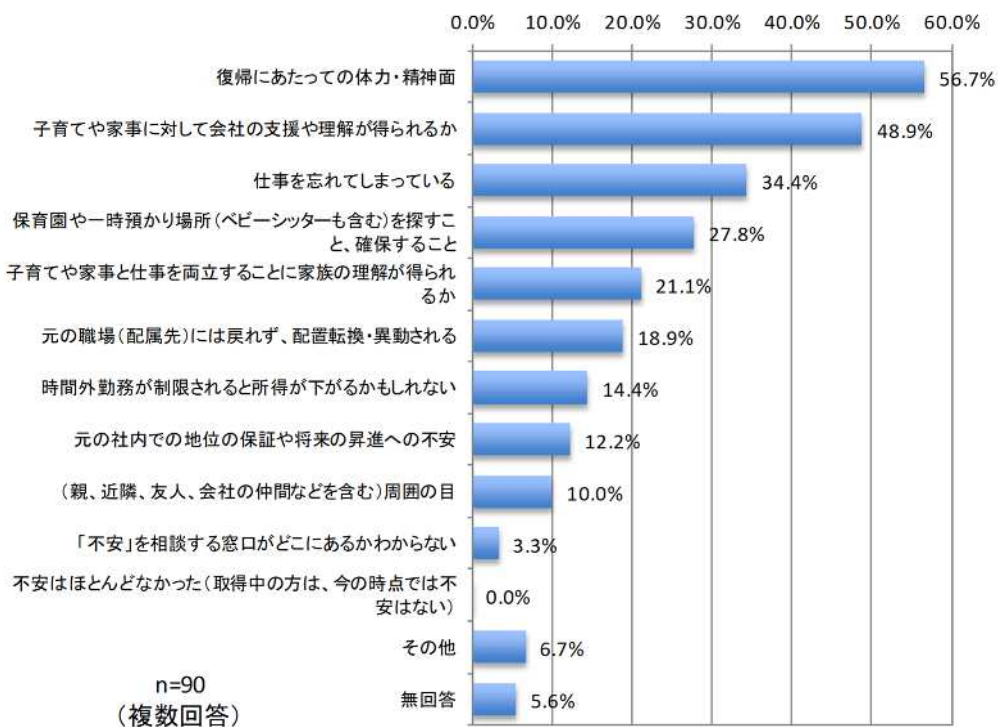
問 19 お子さんが3歳になるまでの間、以下の制度や施設を利用しましたか。当てはまるものすべてを選択してください。

1. 「児童センター」が44.2%と最も高く、他の制度や施設に比べ利用頻度が高い。次いで、「産前・産後休業制度」が27.5%、「育児休業制度（妻）」が25.4%などとなっている。
2. 「どれも利用しなかった」も15.6%ある。



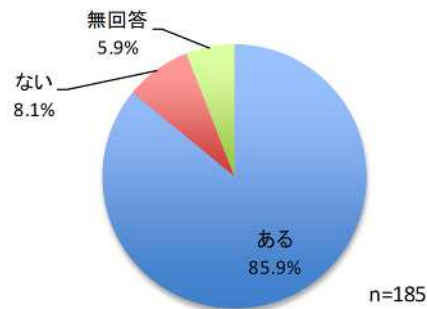
問 20 問 19 で選択肢 2, 3 の育児休業制度を取得した（現在取得中の方も含みます）方におうかがいします。職場に復帰するにあたって不安だったこと（育児休業制度取得中の方は、今不安に思っていること）は何ですか。当てはまるものを3つまで選択してください。

1. 「復帰にあたっての体力・精神面」が56.7%と最も高く、次いで、「子育てや家事に対して会社の支援や理解が得られるか」が48.9%、「仕事を忘れてしまっている」が34.4%などとなった。



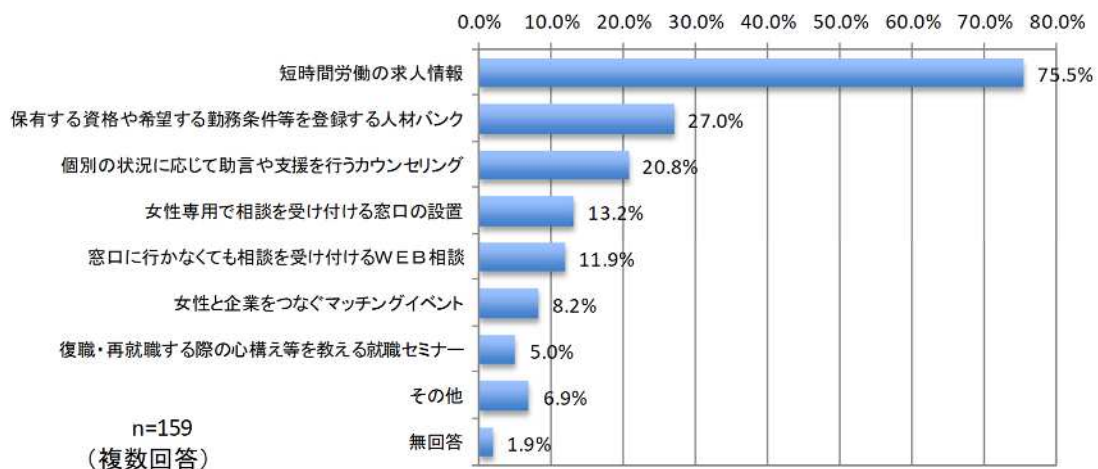
問 21 問 17 でお勤めを辞めた方におうかがいします。復職・再就職したい気持ちはありますか。

1. 復職・再就職したい気持ちが「ある」は 85.9%と非常に高い。こうした就労意欲の高さを実際の雇用に結びつけていく支援策が必要である。



問 22 問 21 で「1. ある」と回答した方におうかがいます。復職・再就職する際にどういった支援を希望しますか。当てはまるものを2つまで選択してください。

1. 復職・再就職する際の支援については、「短時間労働の求人情報」が 75.5%と最も高くなった。子育てをしながらの勤務であり、時間に対する自由度の高さを重視する傾向が強い。
2. 次に、「保有する資格や希望する勤務条件等を登録する人材バンク」が 27.0%、「個別の状況に応じて助言や支援を行うカウンセリング」が 20.8%などとなっている。



2 転入者に関するアンケート調査

平成 26 年中の諏訪市への転入者を対象に実施したアンケート調査では、転入のきっかけや諏訪市への居住意向などについて調査を行いました。

転入前の居住は長野県内が最も多く約 6 割となっており、その内訳は茅野市が最も高くなっています。上位には岡谷市、下諏訪町があり、諏訪圏域内の市町村の割合が高くなっています。なお、転入のきっかけは「仕事の都合」が約 4 割と最も高く、次いで「結婚により」が約 2 割となっています。

また、諏訪市に「住み続けたい」と思う人は約 3 割になりますが、その一方で「特に考えていない」と答えた人が 4 割を占めています。

上記のほかにも、転入者からの多くの意見をいただくことができました。転入のきっかけや、諏訪市での「暮らし」の実感を施策へと反映することで、住み続けてもらうことができる諏訪市を目指します。

【アンケート調査結果の抜粋】

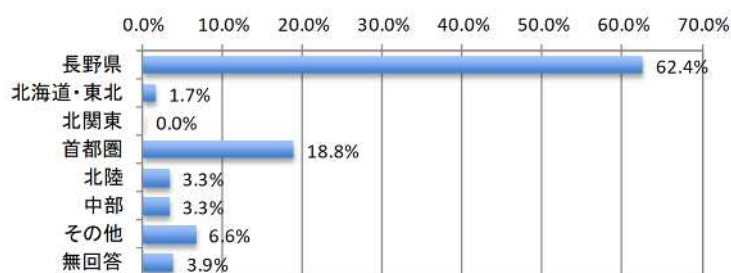
調査時期 : 平成 27 年 6 月
 調査対象 : 平成 26 年 1 月～12 月の間に、諏訪市に転入された 18 歳以上のみなさまから無作為抽出
 配布数 500 通 (郵送配布・郵送回収)
 回答者数 : 181 人 (回収率 : 36.2%)

※四捨五入の関係から、構成比の合計が 100%にならない箇所があります。

問 7 諏訪市に転入前は、どちらにお住まいでしたか。都道府県名及び市区町村名をご記入ください (番地は記入不要です)。

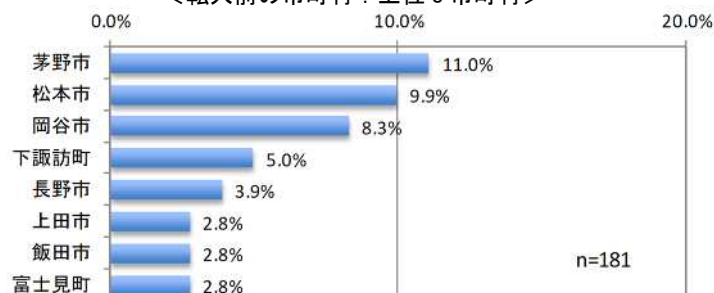
1. 諏訪市に転入前の住まいは、「長野県」が 62.4%と最も高く、次いで「首都圏」が 18.8%となっている。
2. 転入前の市町村をみると、「茅野市」が 11.0%、「松本市」が 9.9%、「岡谷市」が 8.3%などとなっている。諏訪圏域からの転入が多い。

<転入前の都道府県等>



n=181

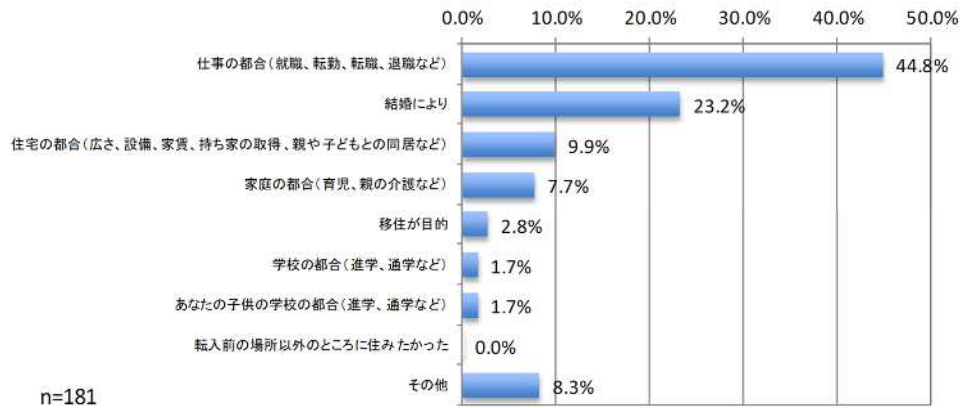
<転入前の市町村：上位 8 市町村>



n=181

問 11 転居することになった最も大きなきっかけは何ですか（〇は1つ）。

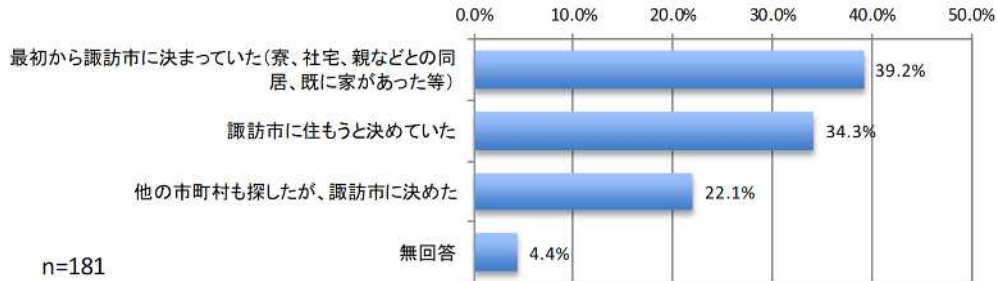
1. 転居することになった最も大きなきっかけは「仕事の都合」が44.8%と最も高く、次いで、「結婚により」が23.2%となった。男女別にみても同様だが、女性は「結婚により」が32.8%と高い。
2. 年代別には、10代、70代以上を除き「仕事の都合」が最も高い。「移住が目的」は30代以上となっている。
3. 前居住地別にみると、諏訪地域は「結婚により」が42.3%と最も高く、次いで、「住宅の都合（広さ、設備、家賃、持ち家の取得、親や子どもとの同居など）」が23.1%となった。「仕事の都合」はそれほど高くない。諏訪地域以外の長野県内や長野県外は「仕事の都合」が最も高い。



		合計	仕事の都合(就職、転職、転職、退職など)	学校の都合(進学、通学など)	あなたの子供の学校の都合(進学、通学など)	結婚により	家庭の都合(育児、親の介護など)	住宅の都合(広さ、設備、家賃、持ち家の取得、親や子どもとの同居など)	転入前の場所以外のところに住みたかった	移住が目的	その他	
全体	回答数	181	81	3	3	42	14	18	0	5	15	
	割合	100.0%	44.8%	1.7%	1.7%	23.2%	7.7%	9.9%	0.0%	2.8%	8.3%	
性別	男性	回答数	110	55	2	2	19	5	13	0	5	9
		割合	100.0%	50.0%	1.8%	1.8%	17.3%	4.5%	11.8%	0.0%	4.5%	8.2%
	女性	回答数	64	24	1	1	21	9	4	0	0	4
	割合	100.0%	37.5%	1.6%	1.6%	32.8%	14.1%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	
	無回答	回答数	7	2	0	0	2	0	1	0	2	
	割合	100.0%	28.6%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	
年代	10代	回答数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		割合	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	回答数	44	25	2	0	11	2	3	0	0	1
		割合	100.0%	56.8%	4.5%	0.0%	25.0%	4.5%	6.8%	0.0%	0.0%	2.3%
	30代	回答数	64	28	0	1	25	4	3	0	1	2
		割合	100.0%	43.8%	0.0%	1.6%	39.1%	6.3%	4.7%	0.0%	1.6%	3.1%
	40代	回答数	30	13	0	2	3	3	4	0	1	4
割合		100.0%	43.3%	0.0%	6.7%	10.0%	10.0%	13.3%	0.0%	3.3%	13.3%	
50代	回答数	18	10	0	0	1	3	2	0	1	1	
	割合	100.0%	55.6%	0.0%	0.0%	5.6%	16.7%	11.1%	0.0%	5.6%	5.6%	
60代	回答数	10	4	1	0	0	0	1	0	1	3	
	割合	100.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	30.0%	
70代以上	回答数	9	0	0	0	0	2	3	0	1	3	
	割合	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	33.3%	
前居住地	岡谷市	回答数	15	3	0	0	8	1	3	0	0	0
		割合	100.0%	20.0%	0.0%	0.0%	53.3%	6.7%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	茅野市	回答数	20	3	0	0	8	1	5	0	1	2
		割合	100.0%	15.0%	0.0%	0.0%	40.0%	5.0%	25.0%	0.0%	5.0%	10.0%
	下諏訪町	回答数	9	4	0	0	2	0	3	0	0	0
		割合	100.0%	44.4%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	富士見町	回答数	5	0	0	1	4	0	0	0	0	0
		割合	100.0%	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
原村	回答数	3	1	0	0	0	1	1	0	0	0	
	割合	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
諏訪地域	回答数	52	11	0	1	22	3	12	0	1	2	
	割合	100.0%	21.2%	0.0%	1.9%	42.3%	5.8%	23.1%	0.0%	1.9%	3.8%	
長野県内(諏訪地域以外)	回答数	61	36	1	2	10	6	3	0	1	2	
	割合	100.0%	59.0%	1.6%	3.3%	16.4%	9.8%	4.9%	0.0%	1.6%	3.3%	
長野県外	回答数	61	32	2	0	7	4	2	0	3	11	
	割合	100.0%	52.5%	3.3%	0.0%	11.5%	6.6%	3.3%	0.0%	4.9%	18.0%	

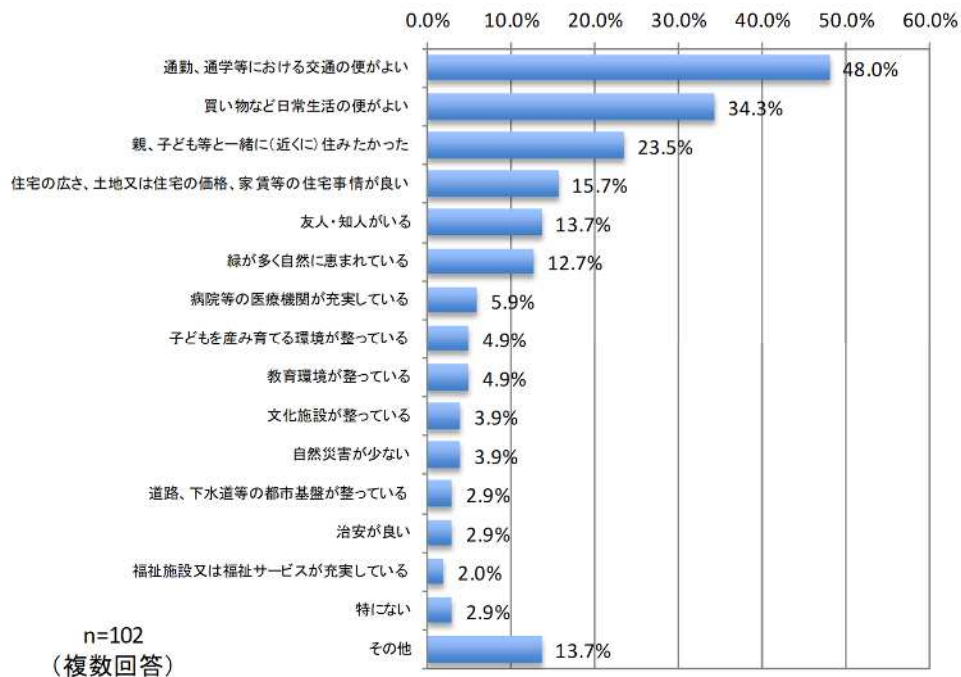
問 12 転居するにあたって、諏訪市以外でもお住まいを探しましたか。

1. 転居するにあたって諏訪市内外でお住まいを探したかどうかについては、「最初から諏訪市に決まっていた（寮、社宅、親などとの同居、既に家があった等）」が39.2%と最も高く、次いで、「諏訪市に住もうと決めていた」が34.3%となった。



問 13 問 12 で、1 または 2 と回答された方におうかがいします。諏訪市を転居先に選んだ理由は何ですか（〇はいくつでも）。

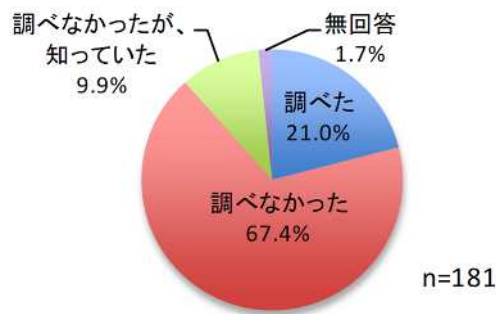
1. 諏訪市を転居先に選んだ理由は、「通勤、通学等における交通の便がよい」が48.0%と最も高く、次いで、「買い物など日常生活の便がよい」が34.3%となった。利便性の良さが高く評価されている。
2. 「緑が多く自然に恵まれている」は12.7%、「文化施設が整っている」は3.9%といずれもそれほど高くない。諏訪市の自然環境や美術館などを理由にあげる先は少ない。
3. 男女別には、上位2項目のほか、男性は「親、子ども等と一緒に（近くに）住みたかった」の割合が高く、女性は「その他」の割合が高い。女性の「その他」には「主人の実家がある」や「職場が近い」、「持ち家がある」などがあつた。
4. 年代別には、20代～50代までは「通勤、通学等における交通の便がよい」の割合が高い。60代は「緑が多く自然に恵まれている」が、70代以上は「親、子ども等と一緒に（近くに）住みたかった」の割合が高い。
5. 前居住地別にみると、長野県外は「親、子ども等と一緒に（近くに）住みたかった」の割合が高い。



		対象	緑が多く自然に恵まれている	買い物など日常生活の便がよい	通勤、通学等における交通の便がよい	親、子ども等と一緒に（近くに）住みたかった	住宅の広さ、土地又は住宅の価格、家賃等の住宅事情が良い	病院等の医療機関が充実している	子どもを産み育てる環境が整っている	教育環境が整っている	福祉施設又は福祉サービスが充実している	道路、下水道等の都市基盤が整っている	文化施設が整っている	友人・知人がいる	治安が良い	自然災害が少ない	特になし	その他	
全体	回答数	102	13	35	49	24	16	6	5	5	2	3	4	14	3	4	3	14	
	割合	-	12.7%	34.3%	48.0%	23.5%	15.7%	5.9%	4.9%	4.9%	2.0%	2.9%	3.9%	13.7%	2.9%	3.9%	2.9%	13.7%	
性別	男性	回答数	64	11	22	33	15	10	5	3	4	1	3	10	3	2	1	5	
	割合	-	17.2%	34.4%	51.6%	23.4%	15.6%	7.8%	4.7%	6.3%	1.6%	4.7%	4.7%	15.6%	4.7%	3.1%	1.6%	7.8%	
	女性	回答数	34	2	13	15	7	5	1	1	1	0	1	3	0	1	2	8	
	割合	-	5.9%	38.2%	44.1%	20.6%	14.7%	2.9%	2.9%	2.9%	2.9%	0.0%	2.9%	8.8%	0.0%	2.9%	5.9%	23.5%	
無回答	回答数	4	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	
	割合	-	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	
年代	10代	回答数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	割合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20代	回答数	27	3	11	18	5	3	0	2	1	0	0	3	1	0	0	3	
	割合	-	11.1%	40.7%	66.7%	18.5%	11.1%	0.0%	7.4%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	3.7%	0.0%	0.0%	11.1%	
	30代	回答数	37	3	13	18	5	3	2	1	1	0	1	0	2	0	1	2	5
	割合	-	8.1%	35.1%	48.6%	13.5%	8.1%	5.4%	2.7%	2.7%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	5.4%	0.0%	2.7%	5.4%	13.5%
	40代	回答数	15	2	6	7	5	2	1	0	2	0	0	0	4	0	0	3	
	割合	-	13.3%	40.0%	46.7%	33.3%	13.3%	6.7%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.7%	0.0%	0.0%	20.0%	
	50代	回答数	9	2	3	4	2	3	1	1	1	1	1	2	3	1	1	1	0
	割合	-	22.2%	33.3%	44.4%	22.2%	33.3%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	22.2%	33.3%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	
	60代	回答数	4	2	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1
	割合	-	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	
	70代以上	回答数	7	1	2	0	5	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1
	割合	-	14.3%	28.6%	0.0%	71.4%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	
前居住地	岡谷市	回答数	11	1	6	8	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
	割合	-	9.1%	54.5%	72.7%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	茅野市	回答数	10	2	6	6	2	3	1	0	0	0	0	1	4	0	0	1	
	割合	-	20.0%	60.0%	60.0%	20.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	下諏訪町	回答数	9	0	3	6	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	割合	-	0.0%	33.3%	66.7%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	富士見町	回答数	5	0	2	3	2	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	
	割合	-	0.0%	40.0%	60.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	原村	回答数	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	割合	-	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
諏訪地域	回答数	37	3	19	25	6	7	1	1	2	0	0	1	7	0	0	2		
割合	-	8.1%	51.4%	67.6%	16.2%	18.9%	2.7%	2.7%	5.4%	0.0%	0.0%	2.7%	18.9%	0.0%	0.0%	0.0%			
長野県内（諏訪地域）	回答数	32	3	8	14	5	4	2	1	0	1	1	0	2	0	1	7		
割合	-	9.4%	25.0%	43.8%	15.6%	12.5%	6.3%	3.1%	0.0%	3.1%	3.1%	0.0%	6.3%	0.0%	3.1%	3.1%			
長野県外	回答数	28	7	8	8	12	4	3	2	3	1	2	2	5	3	3	0	5	
割合	-	25.0%	28.6%	28.6%	42.9%	14.3%	10.7%	7.1%	10.7%	3.6%	7.1%	7.1%	17.9%	10.7%	10.7%	0.0%			

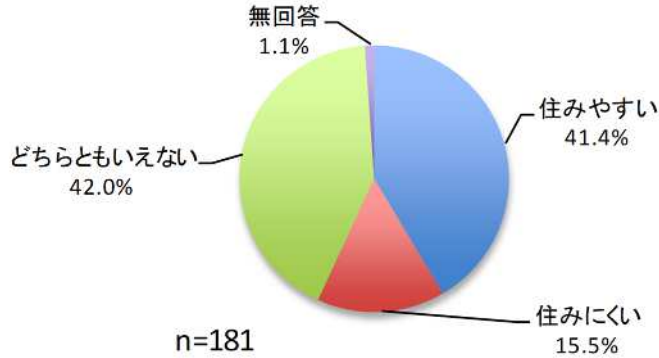
問 14 転居先に諏訪市を選ぶとき（諏訪市に決まったとき）、諏訪市の行政サービスや制度について調べましたか。

1. 諏訪市の行政サービスや制度については、「調べなかった」が67.4%と最も高く、次いで、「調べた」が21.0%となった。転居先の行政サービスや制度を調べる人は、それほど多くない。



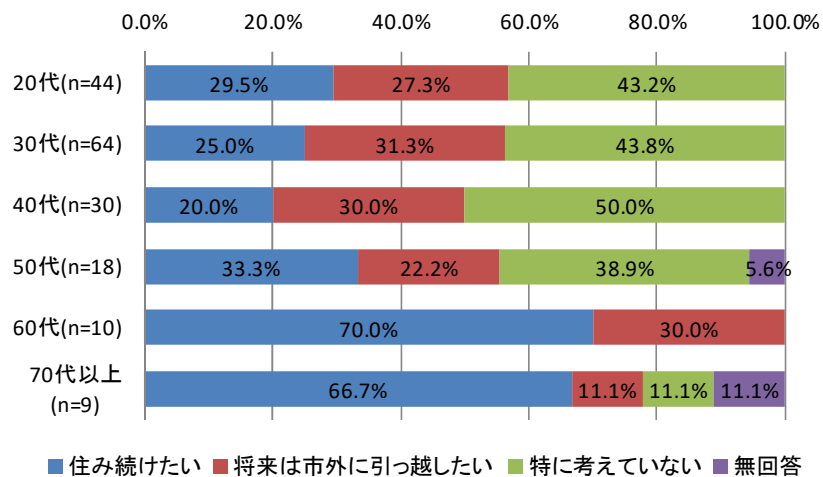
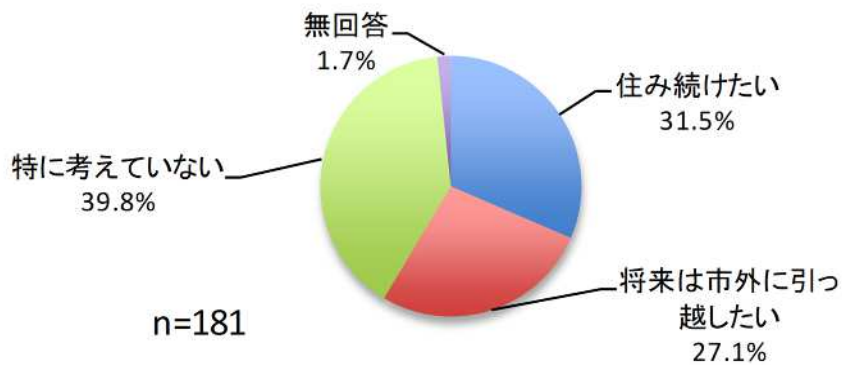
問 15 諏訪市は住みやすいですか。

1. 「住みやすい」が41.4%となった。一方、「住みにくい」は15.5%となった。
2. 「どちらともいえない」が42.0%と最も高い。



問 16 今後も諏訪市に住み続けたいと思いますか。

1. 諏訪市に「住み続けたい」は31.5%となり、前問の「住みやすい」の回答割合（41.4%）を下回った。
2. 「将来は市外に引っ越したい」は27.1%となっている。
3. 年代別には、年代が上がるほど「住み続けたい」の割合が高まる傾向にある。また、「将来は市外に引っ越したい」の割合は、70代以上を除き20%~30%ある。



3 転出者に関するアンケート調査

平成 26 年中の諏訪市からの転出者を対象に実施したアンケート調査では、転出のきっかけや諏訪市の住みやすさなどについて調査を行いました。

転出後の居住は、転入者と同じく、長野県内が最も多く約 6 割となっており、その内訳は茅野市が最も高くなっています。上位には岡谷市、下諏訪町があり、転入者と同じく諏訪圏域内の市町村の割合が高い傾向があります。なお、転出のきっかけは「仕事の都合」が約 4 割と最も高く、次いで「結婚により」が 2 割弱となっています。

諏訪市が住みやすかったかという問いに対しては、約 7 割の人が「住みやすかった」と回答しています。

上記のほかにも、転出者からの多くの意見をいただくことができました。転出のきっかけや、諏訪市ではなく他市町村を転居先を選択した理由の分析を進め、施策へと反映することで、移住先として、居住地として「選ばれる」諏訪市を目指します。

【アンケート調査結果の抜粋】

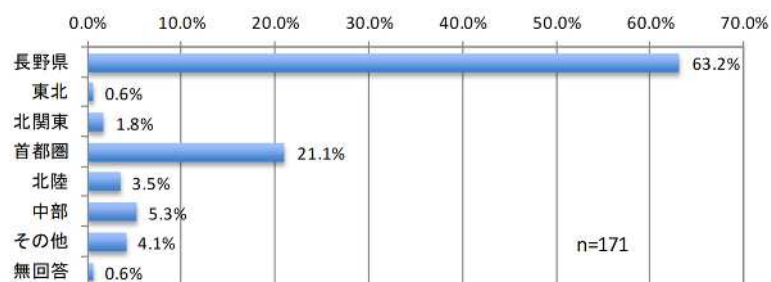
調査時期 : 平成 27 年 6 月
 調査対象 : 平成 26 年 1 月～12 月の間に、諏訪市から転出された 18 歳以上のみなさまから無作為抽出
 配布数 500 通（郵送配布・郵送回収）
 回答者数 : 171 人（回収率：34.2%）

※四捨五入の関係から、構成比の合計が 100%にならない箇所があります。

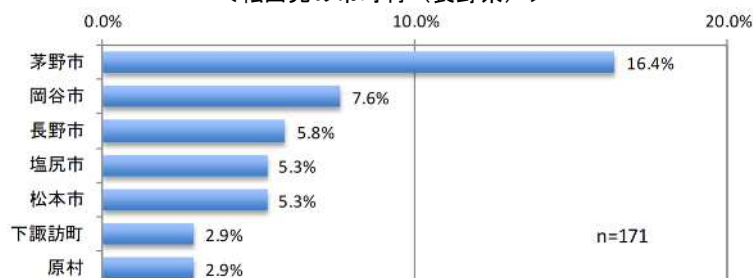
問 7 諏訪市から転出後は、どちらにお住まいですか。都道府県名及び市区町村名をご記入ください（番地は記入不要です）。

1. 諏訪市からの転出先は、都道府県別では「長野県」が 63.2%と最も高く、次いで「首都圏」が 21.1%となっている。
2. 市町村をみると、「茅野市」が 16.4%、「岡谷市」が 7.6%、「長野市」が 5.8%などとなっている。転入同様、「下諏訪町」や「原村」を含めた諏訪圏域への転出が多い。

＜転出先の都道府県＞

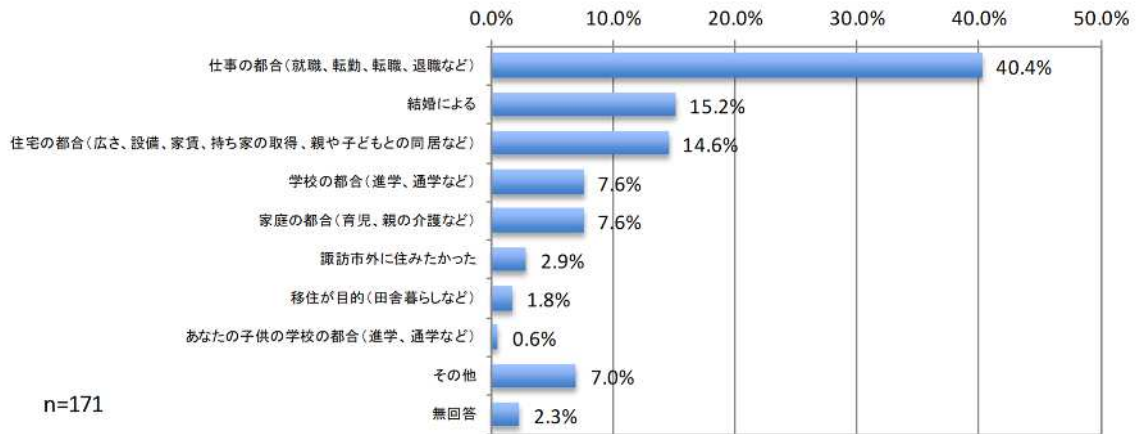


＜転出先の市町村（長野県）＞



問 11 転居することになった最も大きなきっかけは何ですか（〇は1つ）。

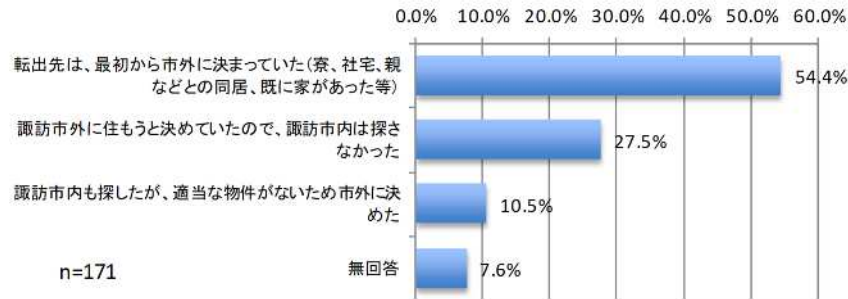
1. 転居することになった最も大きなきっかけは「仕事の都合」が40.4%と最も高く、次いで、「結婚による」が15.2%となっている。
2. 男女別にみると、いずれも「仕事の都合」が最も高いが、次いで、男性は「住宅の都合」が、女性は「結婚による」が高い。
3. 年代別にみると、60代、70代以上は「その他」が多く、その内容は、「介護施設への入所」や「実家へ帰る」、「子どもとの同居」などがあつた。



		合計	仕事の都合(就職、転勤、転職、退職など)	学校の都合(進学、通学など)	あなたの子供の学校の都合(進学、通学など)	結婚による	家庭の都合(育児、親の介護など)	住宅の都合(広さ、設備、家賃、持ち家の取得、親や子どもとの同居など)	諏訪市外に住みたかった	移住が目的(田舎暮らしなど)	その他	無回答
全体	回答数	171	69	13	1	26	13	25	5	3	12	4
	割合	100.0%	40.4%	7.6%	0.6%	15.2%	7.6%	14.6%	2.9%	1.8%	7.0%	2.3%
性別	男	回答数	102	48	7	0	13	3	17	2	2	7
		割合	100.0%	47.1%	6.9%	0.0%	12.7%	2.9%	16.7%	2.0%	2.0%	6.9%
	女	回答数	67	21	6	1	11	10	8	3	1	5
		割合	100.0%	31.3%	9.0%	1.5%	16.4%	14.9%	11.9%	4.5%	1.5%	7.5%
	無回答	回答数	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
		割合	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年代	10代	回答数	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0
		割合	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	回答数	51	25	9	0	7	2	8	0	0	0
		割合	100.0%	49.0%	17.6%	0.0%	13.7%	3.9%	15.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	30代	回答数	60	22	2	0	15	3	10	3	0	3
		割合	100.0%	36.7%	3.3%	0.0%	25.0%	5.0%	16.7%	5.0%	0.0%	5.0%
	40代	回答数	27	14	0	1	2	2	4	1	1	1
		割合	100.0%	51.9%	0.0%	3.7%	7.4%	7.4%	14.8%	3.7%	3.7%	3.7%
	50代	回答数	12	6	0	0	0	2	0	1	1	2
		割合	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	8.3%	8.3%	16.7%
60代	回答数	11	2	0	0	1	2	2	0	1	3	
	割合	100.0%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	18.2%	18.2%	0.0%	9.1%	27.3%	
70代以上	回答数	6	0	0	0	0	2	0	0	0	3	
	割合	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	

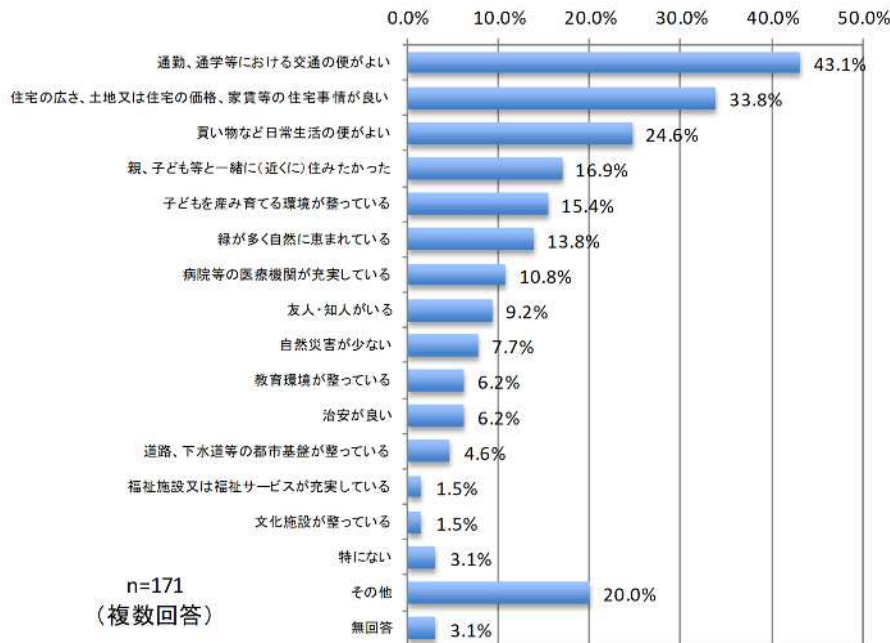
問 12 転出するにあたって、諏訪市内でもお住まいを探しましたか。

1. 転出にあたって諏訪市内外で住まいを探したかどうかについては、「転出先は、最初から市外に決まっていた（寮、社宅、親などとの同居、既に家があった等）」が 54.4%と最も高くなった。転居のきっかけが「仕事の都合」や「結婚による」が多いことが背景にあるとみられる。



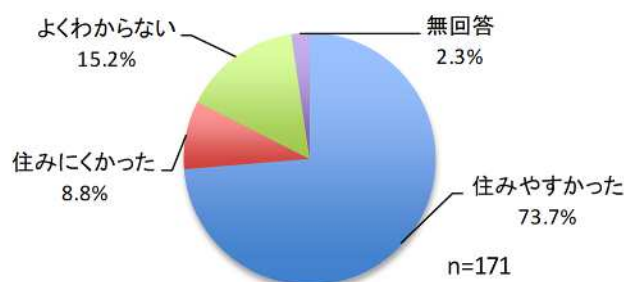
問 13 問 12 で、1 または 2 と回答された方におうかがいします。転出先を選んだ理由は何ですか（〇はいくつでも）。

1. 転出先を選んだ理由は、「通勤、通学等における交通の便がよい」が 43.1%と最も高く、次いで、「住宅の広さ、土地又は住宅の価格、家賃等の住宅事情が良い」が 33.8%、「買い物など日常生活の便がよい」が 24.6%となった。
2. 「子どもを産み育てる環境が整っている」は 15.4%、「緑が多く自然に恵まれている」は 13.8%と、転居先を選ぶ理由として、子育て環境や自然環境よりも交通や買い物の利便性を優先している。



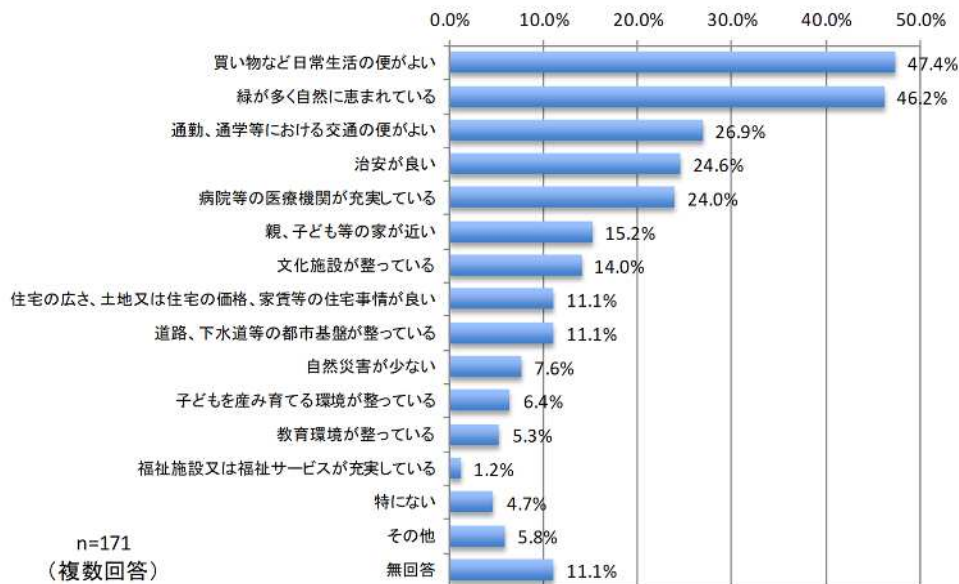
問 14 諏訪市は住みやすかったですか（〇は1つ）。

1. 転出者のうち、73.7%が「住みやすかった」と回答し、「住みにくかった」は 8.8%にとどまった。



問 15 諏訪市が「住みやすかった」のは、どのような点ですか（〇はいくつでも）。

1. 住みやすかった点は、「買い物など日常生活の便がよい」が47.4%と最も高く、次いで、「緑が多く自然に恵まれている」が46.2%、「通勤、通学等における交通の便がよい」が26.9%となった。
2. 「子どもを産み育てる環境が整っている」は6.4%、「教育環境が整っている」は5.3%にとどまった。
3. 男女別にみると、男性は「緑が多く自然に恵まれている」が、女性は「買い物など日常生活の便がよい」が最も高い。
4. 年代別には、上位3項目のほか、20代、30代では「治安が良い」が、40代以上では「病院等の医療機関が充実している」の割合が高い。
5. 転出前住所でみると、上諏訪、豊田、湖南では「緑が多く自然に恵まれている」が、四賀、中洲では「買い物など日常生活の便がよい」の割合が最も高い。

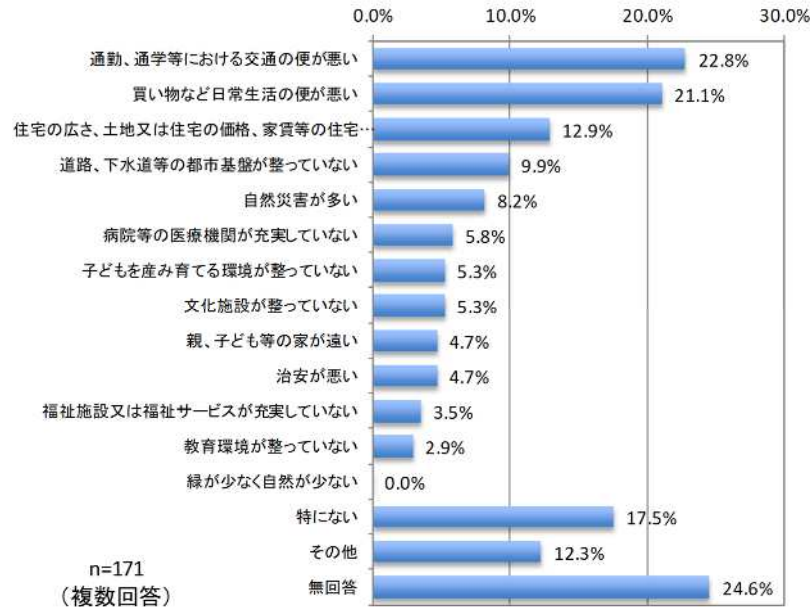


	対象	回答数	緑が多く自然に恵まれている	買い物など日常生活の便がよい	通勤、通学等における交通の便がよい	親、子ども等の家が近い	住宅の広さ、土地又は住宅の価格、家賃等の住宅事情が良い	病院等の医療機関が充実している	子どもを産み育てる環境が整っている	教育環境が整っている	福祉施設又は福祉サービスが充実している	道路、下水道等の都市基盤が整っている	文化施設が整っている	治安が良い	自然災害が少ない	特になし	その他	無回答
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
全体		171	46.2%	47.4%	26.9%	15.2%	11.1%	24.0%	6.4%	5.3%	1.2%	11.1%	14.0%	24.6%	7.6%	4.7%	5.8%	11.1%
性別	男	102	49.0%	43.1%	25.5%	17.6%	13.7%	24.5%	6.9%	6.9%	1.0%	11.8%	14.7%	26.5%	7.8%	4.9%	4.9%	8.8%
	女	67	43.3%	55.2%	29.9%	11.9%	7.5%	23.9%	6.0%	3.0%	1.5%	10.4%	13.4%	20.9%	7.5%	4.5%	6.0%	13.4%
	無回答	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
年代	10代	2	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20代	51	47.1%	47.1%	23.5%	17.6%	11.8%	17.6%	3.9%	9.8%	2.0%	7.8%	17.6%	29.4%	5.9%	5.9%	5.9%	3.9%
	30代	60	53.3%	53.3%	26.7%	18.3%	10.0%	16.7%	11.7%	3.3%	0.0%	10.0%	11.7%	23.3%	3.3%	3.3%	6.7%	10.0%
	40代	27	44.4%	44.4%	18.5%	14.8%	18.5%	33.3%	0.0%	3.7%	0.0%	14.8%	14.8%	22.2%	18.5%	3.7%	3.7%	3.7%
	50代	12	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	8.3%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%	16.7%	16.7%	16.7%	8.3%	33.3%
	60代	11	54.5%	54.5%	45.5%	9.1%	9.1%	54.5%	0.0%	9.1%	0.0%	18.2%	9.1%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%
	70代以上	6	50.0%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
転出前住所	上諏訪	49	49.0%	30.6%	26.5%	16.3%	10.2%	28.6%	8.2%	6.1%	2.0%	8.2%	14.3%	20.4%	6.1%	8.2%	4.1%	14.3%
	豊田	20	65.0%	45.0%	10.0%	5.0%	30.0%	45.0%	10.0%	5.0%	0.0%	15.0%	25.0%	50.0%	5.0%	0.0%	25.0%	
	四賀	36	63.9%	63.9%	33.3%	13.9%	0.0%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	13.9%	13.9%	2.8%	2.8%	8.3%	
	中洲	41	58.5%	58.5%	29.3%	17.1%	9.8%	14.6%	2.4%	9.8%	2.4%	14.6%	9.8%	22.0%	9.8%	4.8%	0.0%	
	湖南	16	43.8%	31.3%	25.0%	31.3%	18.8%	25.0%	6.3%	6.3%	0.0%	25.0%	18.8%	25.0%	12.5%	6.3%	0.0%	

(注) 網掛けは、最も回答数が多い選択肢

問 16 諏訪市が「住みにくかった」のは、どのような点ですか（〇はいくつでも）。

1. 住みにくかった点は、「通勤、通学等における交通機関の便が悪い」が22.8%と最も高く、次いで、「買い物など日常生活の便が悪い」が21.1%となった。
2. この2つの点は、住みやすかった点にもあげられており見方が分かれている。これを転出前住所でみると、「通勤、通学等における交通機関の便が悪い」は、四賀、中洲、湖南で最も高く、「買い物など日常生活の便が悪い」は、上諏訪で最も高い。

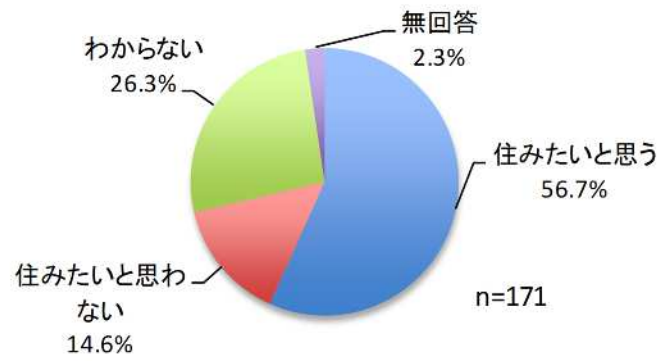


		合計	緑が少なく自然が少ない	買い物など日常生活の便が悪い	通勤、通学等における交通の便が悪い	親、子ども等の家が遠い	住宅の広さ、土地又は住宅の価格、家賃等の住宅事情が悪い	病院等の医療機関が充実していない	子どもを産み育てる環境が整っていない	教育環境が整っていない	福祉施設又は福祉サービスが充実していない	道路、下水道等の都市基盤が整っていない	文化施設が整っていない	治安が悪い	自然災害が多い	特になし	その他	無回答	
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
全体	回答数	171	0	36	39	8	22	10	9	5	6	17	9	8	14	30	21	42	
	割合	-	0.0%	21.1%	22.8%	4.7%	12.9%	5.8%	5.3%	2.9%	3.5%	9.9%	5.3%	4.7%	8.2%	17.5%	12.3%	24.6%	
	回答数	102	0	20	28	6	16	7	5	1	4	10	4	4	10	13	14	26	
性別	男	割合	-	0.0%	19.6%	27.5%	5.9%	15.7%	6.9%	4.9%	1.0%	3.9%	9.8%	3.9%	3.9%	9.8%	12.7%	13.7%	25.5%
	女	回答数	67	0	16	11	2	6	3	4	4	2	7	5	4	4	16	7	15
	割合	-	0.0%	23.9%	16.4%	3.0%	9.0%	4.5%	6.0%	6.0%	3.0%	10.4%	7.5%	6.0%	6.0%	23.9%	10.4%	22.4%	
年代	無回答	回答数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	割合	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	
	10代	回答数	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	割合	-	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	20代	回答数	51	0	10	15	2	5	0	1	3	1	4	2	1	3	10	2	13
	割合	-	0.0%	19.6%	29.4%	3.9%	9.8%	0.0%	2.0%	5.9%	2.0%	7.8%	3.9%	2.0%	5.9%	19.6%	3.9%	25.5%	
	30代	回答数	60	0	12	12	1	12	5	8	0	3	8	5	5	5	9	5	14
	割合	-	0.0%	20.0%	20.0%	1.7%	20.0%	8.3%	13.3%	0.0%	5.0%	13.3%	8.3%	8.3%	8.3%	15.0%	8.3%	23.3%	
	40代	回答数	27	0	7	6	3	2	3	0	1	1	5	1	1	4	2	6	6
	割合	-	0.0%	25.9%	22.2%	11.1%	7.4%	11.1%	0.0%	3.7%	3.7%	18.5%	3.7%	3.7%	14.8%	7.4%	22.2%	22.2%	
50代	回答数	12	0	2	3	1	1	2	0	0	1	0	0	0	2	3	4	3	
割合	-	0.0%	16.7%	25.0%	8.3%	8.3%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	25.0%	33.3%	25.0%		
60代	回答数	11	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	5	
割合	-	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	18.2%	45.5%		
70代以上	回答数	6	0	3	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	2	1	0	
割合	-	0.0%	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%		
転出前住所	上諏訪	回答数	49	0	17	11	4	4	0	2	1	3	2	2	2	2	11	2	11
	割合	-	0.0%	34.7%	22.4%	8.2%	8.2%	0.0%	0.0%	4.1%	2.0%	6.1%	4.1%	4.1%	4.1%	22.4%	4.1%	22.4%	
	豊田	回答数	20	0	5	4	1	1	0	0	0	2	1	1	0	4	5	3	
	割合	-	0.0%	25.0%	20.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	5.0%	0.0%	20.0%	25.0%	15.0%	
	四賀	回答数	36	0	3	7	2	7	3	5	0	0	4	2	2	4	7	3	10
	割合	-	0.0%	8.3%	19.4%	5.6%	19.4%	8.3%	13.9%	0.0%	0.0%	11.1%	5.6%	5.6%	11.1%	19.4%	8.3%	27.8%	
	中洲	回答数	41	0	6	10	1	6	4	3	2	4	5	3	2	5	5	5	11
	割合	-	0.0%	14.6%	24.4%	2.4%	14.6%	9.8%	7.3%	4.9%	9.8%	12.2%	7.3%	4.9%	12.2%	12.2%	12.2%	26.8%	
	湖南	回答数	16	0	3	5	0	1	2	1	1	1	1	1	1	2	2	5	3
	割合	-	0.0%	18.8%	31.3%	0.0%	6.3%	12.5%	6.3%	6.3%	6.3%	6.3%	6.3%	6.3%	12.5%	12.5%	31.3%	18.8%	

(注) 網掛けは、最も回答数が多い選択肢(無回答を除く)

問 17 もし機会があれば、また諏訪市に住みたいと思いますか（○は1つ）。

1. 「住みたいと思う」が56.7%と過半となっている。一方、「住みたいと思わない」も14.6%ある。



4 若年層を対象としたアンケート調査

平成9～11年生まれ（高校生世代）を対象に実施したアンケート調査では、将来の諏訪市への居留意向とその理由、諏訪市の企業への就労希望などの調査を行いました。

諏訪市に将来住みたいかどうかという問いについては、「ずっと住みたい」が約1割、「一度は諏訪市外へ出ても、将来的に諏訪市に戻って住みたい」が約6割となっており、約7割の人が諏訪市に将来住みたいと回答しています。

また、諏訪市にどのような企業があるのか知っているかどうかについては、約5割が「少し知っている」、約3割が「あまり知らない」となっています。一方、諏訪市にある企業での就労希望については、「どちらともいえない」が約4割と最も高くなっています。

大学進学などで諏訪市を離れても、将来的には諏訪市に住みたいという希望を持つ人が多数を占める中、「くらし」に必要となる「しごと」に関する情報発信や、若者にとって魅力ある「しごと」をつくりだし、「戻ってきたい」諏訪市を目指すことが重要となります。

【アンケート調査結果の抜粋】

調査時期 : 平成27年6月

調査対象 : 諏訪市在住の平成9～11年度生まれの方々から無作為抽出

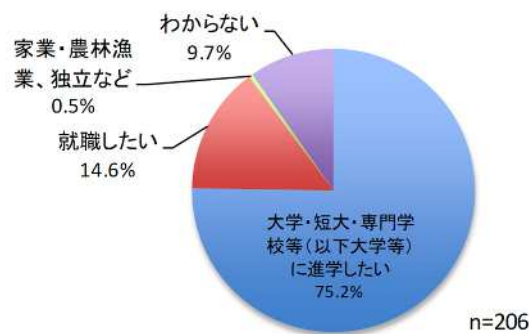
配布数 500通（郵送配布・郵送回収）

回答者数 : 206人（回収率：41.2%）

※四捨五入の関係から、構成比の合計が100%にならない箇所があります。

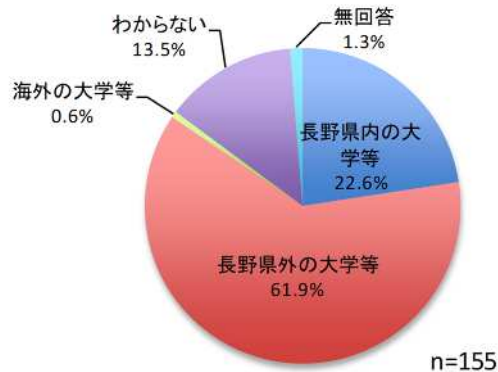
問2 あなたは今後の進路をどう考えていますか。

1. 「大学・短大・専門学校等（以下大学等）に進学したい」が75.2%と最も高く、次いで、「就職したい」が14.6%となった。多くの高校生が進学を希望している。



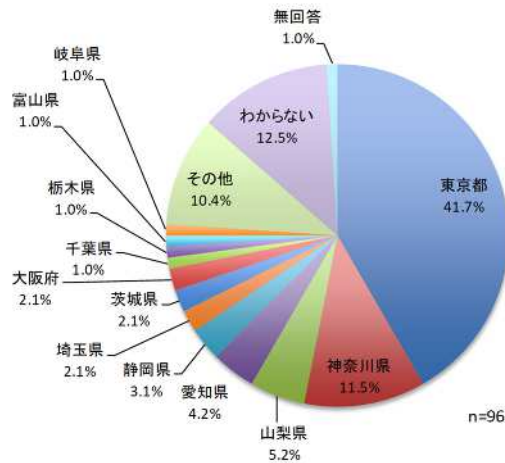
問3 問2で1を選んだ方にうかがいます。どの地域に進学したいですか。

1. 進学先は、「長野県外の大学等」が61.9%と最も高く、次いで、「長野県内の大学等」が22.6%となっている。



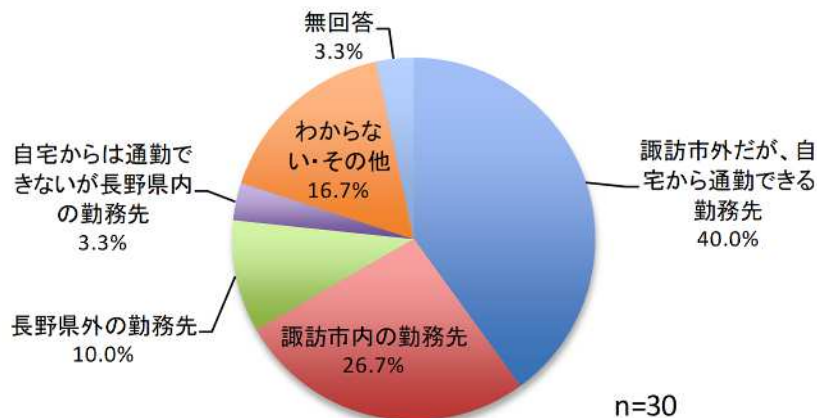
問4 問3で2を選んだ方にうかがいます。第1志望の大学はどの都道府県ですか。

1. 「東京都」が41.7%と最も高く、次いで、「神奈川県」が11.5%、「山梨県」が5.2%などとなっている。



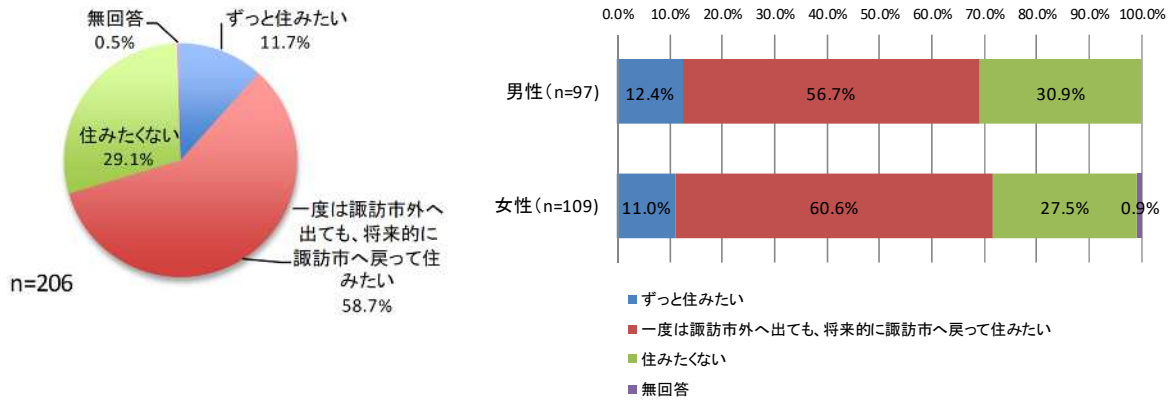
問5 問2で2を選んだ方にうかがいます。どちらに就職したいですか。

1. 就職希望は、「諏訪市外だが、自宅から通勤できる勤務先」が40.0%と最も高く、次いで、「諏訪市内の勤務先」が26.7%となっている。自宅からの通勤希望が多い。



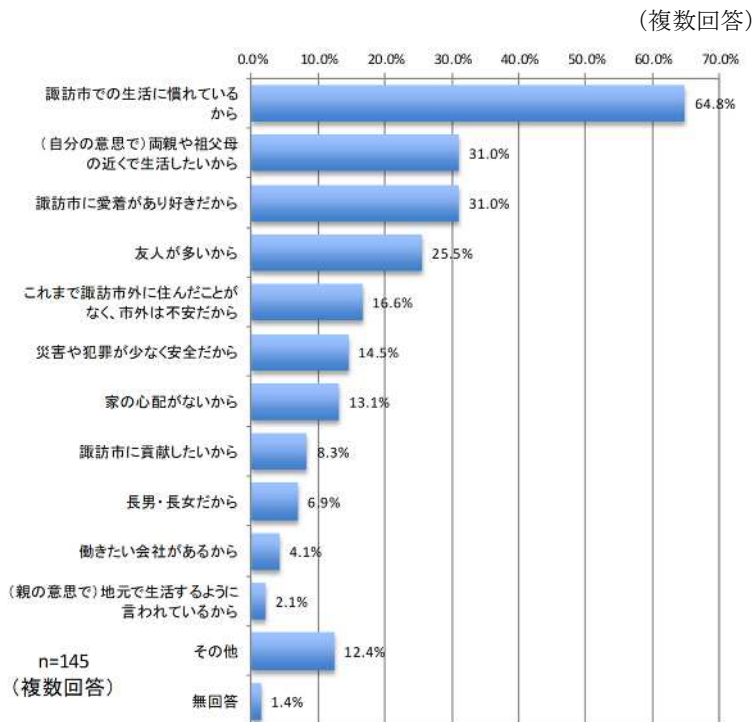
問6 全員の方にうかがいます。あなたは、将来、諏訪市に住みたいですか。現時点で、あなたのお考えで一番近いものを、次の3つから選んでください。

1. 「一度は諏訪市外へ出ても、将来的には諏訪市へ戻って住みたい」が58.7%と最も高く、次いで、「住みたくない」が29.1%となった。諏訪市に住みたいという希望は7割程度ある。男女別でも大きな差はみられない。

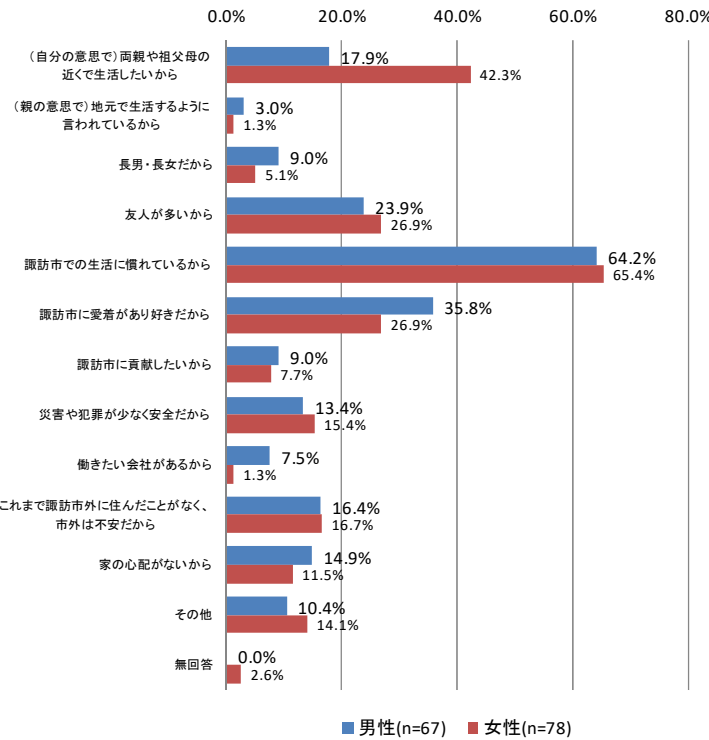


問7 問6で「1. ずっと住みたい」、「2. 一度は諏訪市外に出ても、将来的に諏訪市へ戻って住みたい」と回答した方にうかがいます。諏訪市に住みたい理由を教えてください。当てはまるものを3つまで選択してください。

1. 「諏訪市での生活に慣れているから」が64.8%と最も高く、次いで、「(自分の意思で) 両親や祖父母の近くで生活したいから」、「諏訪市に愛着があり好きだから」がいずれも31.0%となっている。
 2. 男女別にみると、男性は「諏訪市に愛着があり好きだから」、女性は「(自分の意思で) 両親や祖父母の近くで生活したいから」の割合が高い。

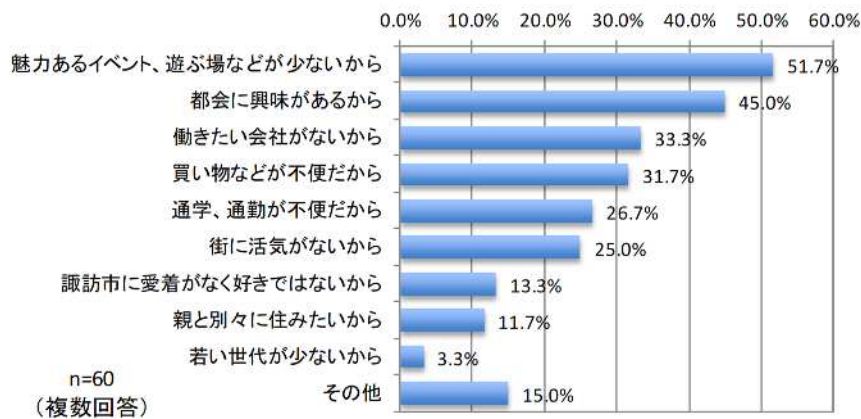


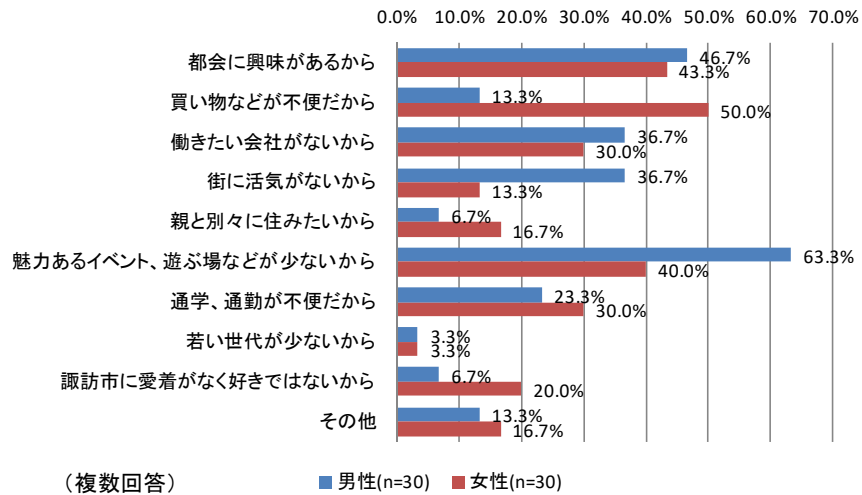
(複数回答)



問8 問6で「3. 住みたくない」と回答した方にうかがいます。住みたくない理由を教えてください。当てはまるものを3つまで選択してください。

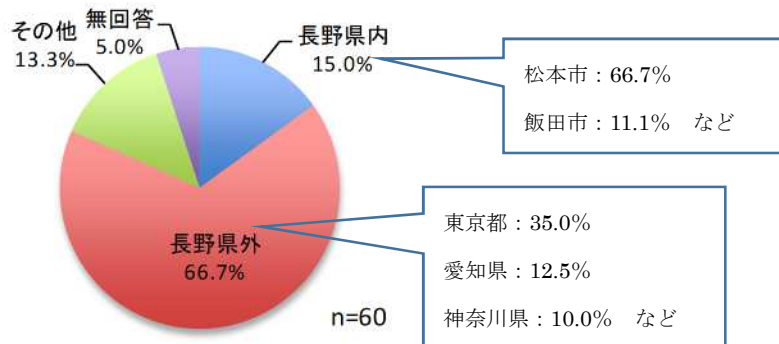
1. 「魅力あるイベント、遊ぶ場が少ないから」が51.7%と最も高く、次いで、「都会に興味があるから」が45.0%、「働きたい会社がないから」が33.3%などとなっている。
2. 「その他」には、「諏訪は好きだけど、ずっとは住みたくないから」や「独立して生活したいから」などがあつた。
3. 男女別にみると、男性は「魅力あるイベント、遊ぶ場が少ないから」、女性は「買い物などが不便だから」の割合が高い。





問9 問6で「3. 住みたくない」と回答した方にうかがいます。住んでみたいところはどこですか。いずれかを選択し、市町村名や都道府県名の記入をお願いします。

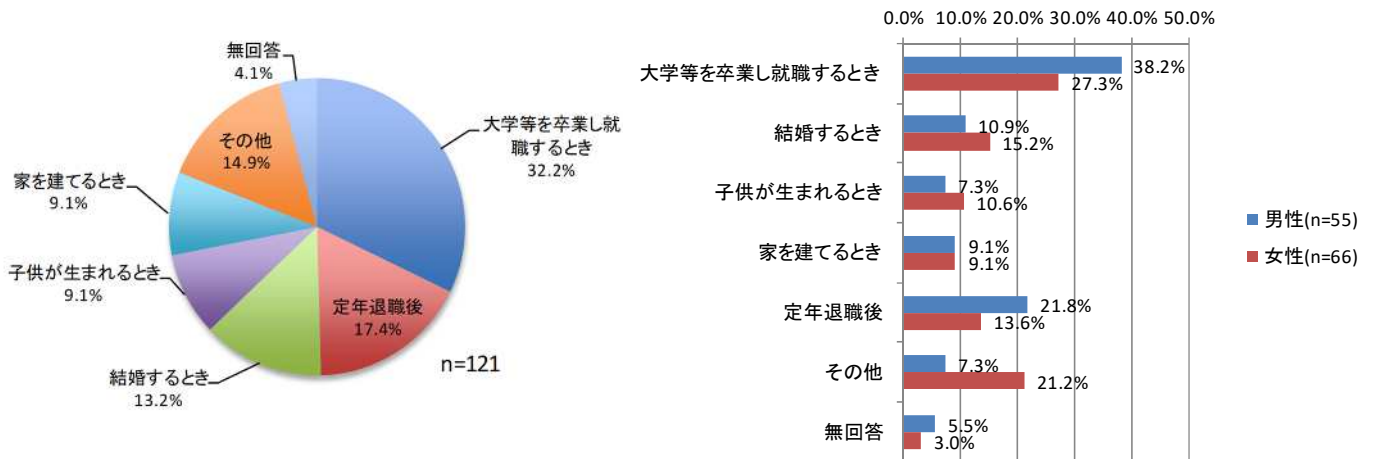
1. 「長野県外」が66.7%と最も高く、次いで、「長野県内」が15.0%となっている。
2. 「長野県外」では、「東京都」が最も高く、「長野県内」では、「松本市」が最も高くなった。



問 10 問 6 で「2. 一度は諏訪市外へ出ても、将来的に諏訪市へ戻って住みたい」と回答した方にかがいます。

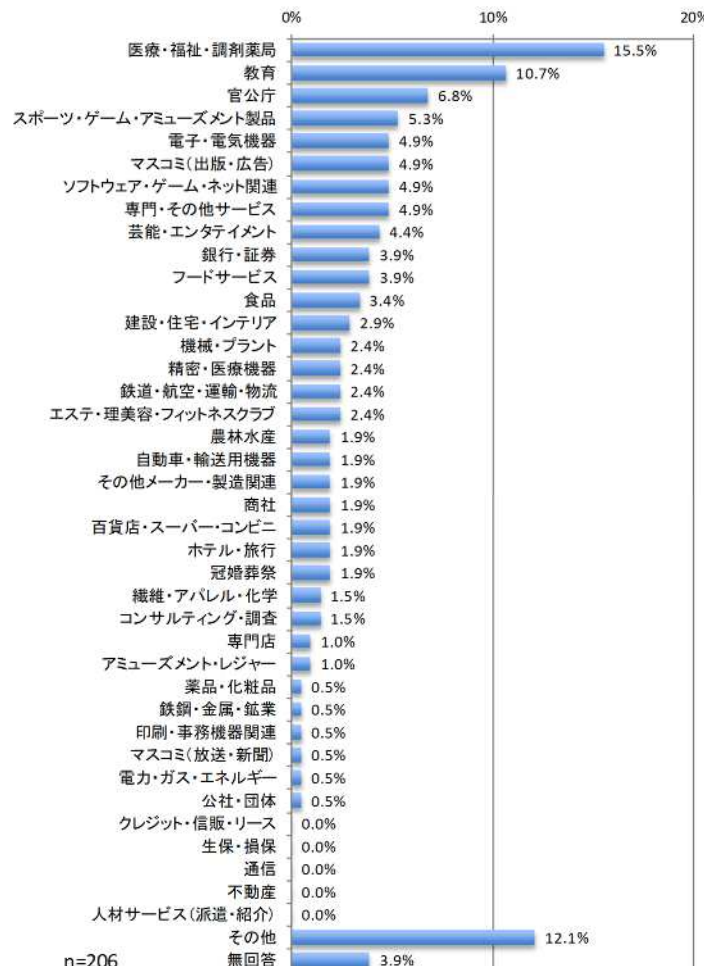
将来的とはどのタイミングのイメージですか。

1. 「大学等を卒業し就職するとき」が 32.2%と最も高く、次いで、「定年退職後」が 17.4%となった。
2. 定年までという長期にわたる希望もあるが、「結婚するとき」や「子供が生まれるとき」などを含めると、比較的短期間で諏訪市に戻りたいという希望が多い。
3. 男女別にみると、男性は「大学等を卒業し就職するとき」、女性は「その他」の割合が高い。女性の「その他」には、「海外から帰ってきたとき」や「帰りたいと強く思ったとき」、「わからない」などがあつた。



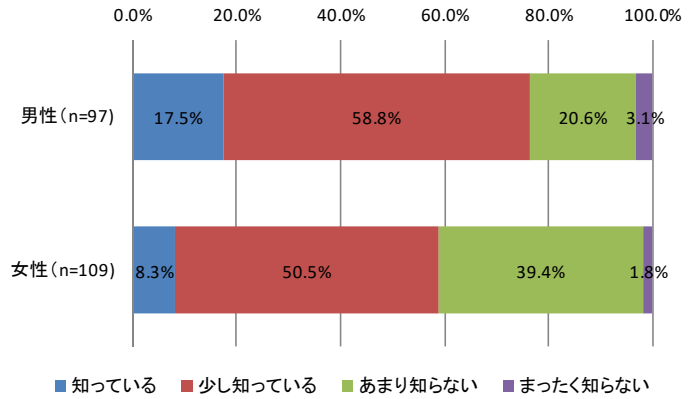
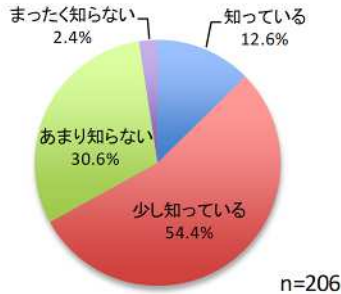
問 11 あなたが将来働きたい職業の業界を教えてください。

1. 「医療・福祉・調剤薬局」が 15.5%と最も高く、次いで、「教育」が 10.7%、「官公庁」が 6.8%などとなっている。



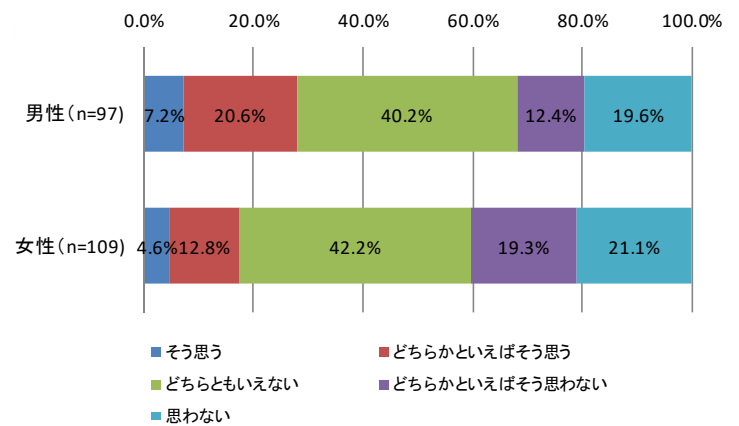
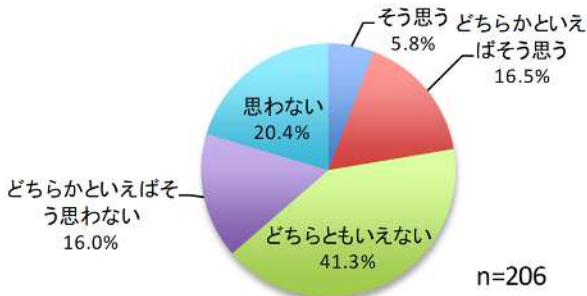
問 19 諏訪市にはどんな企業があるか知っていますか。

1. 「少し知っている」が54.4%と過半となった。ただ、「あまり知らない」も30.6%あり、地元企業のPR余地はあると思われる。
2. 男女別にみると、「あまり知らない」の割合は女性の方が高く、地元企業に関して女性の認知度は低い。



問 20 あなたは諏訪市にある企業で働きたいと思いますか。

1. 「どちらともいえない」が41.3%と最も高く、次いで、「思わない」が20.4%となった。諏訪市にある企業で働きたいという回答割合よりも、働きたくないという回答割合の方が大きい。
2. 男女別にみると、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」は女性の方が低い。問 19に関連し、地元企業をよく知らないことが影響しているとみられる。



V 諏訪市の目指すべき人口の将来展望

1 現状と課題の整理

(1) 総人口の推移

諏訪市の人口は、平成 12 (2000) 年の 53,858 人をピークとして、平成 17 (2005) 年以降は減少に転じています。平成 26 (2014) 年 4 月には 37 年ぶりに人口 5 万人を下回りました。社人研ベースの推計によれば、諏訪市の将来推計人口は平成 27 (2015) 年には昭和 50 (1975) 年とほぼ同水準となり、令和 22 (2040) 年には人口 4 万人、令和 42 (2060) 年には人口 3 万人を下回ることが見込まれます。人口移動が収束しない創成会議ベースでは、さらに厳しい状況になると予想されます。

(2) 年齢 3 区分人口の推移

平成 7 (1995) 年には老年人口が年少人口を上回っており、今後も老年人口の割合は上昇すると推計され、少子高齢化がより一層進展します。平成 22 (2010) 年には 4 人に 1 人が高齢者となり、令和 22 (2040) 年には、生産年齢人口 1.37 人で 1 人の老年人口を支えることになるなど、将来的には数少ない現役世代で高齢者を支えることとなります。

(3) 自然増減・社会増減の推移

自然増減については、出生数が減少傾向にあるものの死亡数を上回っており、自然増の状態が続いていましたが、平成 21 (2009) 年以降は出生数が 500 人を下回り、平成 23 (2011) 年以降は自然減に転じています。

社会増減については、ほぼ一貫として社会減の状況が続いています。景気動向に大きな影響を受けており、平成 20 (2008) 年のリーマンショックの影響により、平成 21 (2009) 年は過去最大の 783 人ももの転出超過となっています。

諏訪市の過去の人口増加は、自然増が社会減をカバーすることで支えていましたが、平成 17 (2005) 年以降は常に社会減が自然増を上回っており、平成 23 (2011) 年以降は自然減・社会減のダブルマイナス局面を迎えています。

(4) 人口分析からみる諏訪市の「強み」

諏訪市の合計特殊出生率は全国平均・長野県平均と比較しても合計特殊出生率が高く、有配偶率も長野県平均を上回っています。出生数が減少しているのは子どもを産み育てる年代の女性人口が減少していることが要因と考えられます。

産業大分類別人口では、男女ともに製造業の就業者が多く、諏訪市を特徴づける産業となっています。全国平均・長野県平均と比較しても、諏訪市には製造業の事業所が数多く存在しています。

また、宿泊業・飲食サービスの就業者も多く、諏訪湖や霧ヶ峰、諏訪大社や高島城といった豊かな自然・歴史文化に恵まれていることから、観光産業への従事者が多いことが関連し

ていると考えられます。

諏訪市は商店数やその従業者数、年間商品販売額のいずれも諏訪地域 6 市町村の中で最大となっています。規模の大きな事業所が集積しており、諏訪市全体としては買い物環境が整っていると考えられます。

(5) 人口分析からみる諏訪市の「弱み」

諏訪市は景気動向の影響を受けやすく、リーマンショックを契機とした転出超過の拡大など、景気悪化による市内企業の流出や事業縮小など、雇用環境の悪化を要因として、人口流出が継続しています。

人口移動を年齢階級別にみると、大学などへの進学等に伴う 10 代後半（進学世代）の転出超過に対して、大学等卒業後、就職をする 20 代前半（就職世代）の転入超過が減少傾向にあります。これまでの諏訪市出身者による U ターン就職、市内企業の経営努力による I ターン・J ターン就職が縮小しており、若年層が諏訪市に再び戻り、定住するための動機付けが弱まっていると考えられます。

(6) 広域的視点からの分析

諏訪市の人口移動状況では、諏訪圏域内からの転入・諏訪圏域内への転出が多くみられ、人口移動が相互に行われていることがわかります。

また、諏訪市内外への通勤通学の状況をみると、諏訪圏域内での通勤通学の比率が高くなっています。特に通勤については、諏訪市常住者の通勤先は諏訪地域 6 市町村内が 90.7%、諏訪市内への通勤者の常住地は諏訪地域 6 市町村内が 88.4%となっています。平成 22 年国勢調査の結果では、諏訪市の昼夜間人口比率は 1.0 を超えており、諏訪圏域内でも就業者が集中していることがわかります。

民間企業や市民レベルでは、行政の枠を超えた経済圏・生活圏が形成されており、活発な動きがあります。こうした活動を下支えするとともに、諏訪地域全体における地方創生を目指すために、広域的な視点による取組が必要になると考えられます。

2 目指すべき将来の方向

図表 37 推計人口への自然増減・社会増減の影響度

長野県 77市町村の影響度の分布

		社会増減の影響が大きい →					総計
		1	2	3	4	5	
自然増減の影響が大きい ↓	1	川上村、下條村	南牧村、 鳳社 、南箕輪村、高森町、平谷村、山形村	佐久市、安曇野市、軽井沢町、御代田町、売木村、池田町、松川村	麻績村		16 (20.8%)
	2		茅野市、飯田市、伊那市、駒ヶ根市、青木村、 富士見町 、箕輪町、中川村、宮田村、喬木村、木祖村	長野市、松本市、上田市、中野市、塩尻市、千曲市、東御市、南相木村、松川町、阿南町、泰阜村、豊岡村、朝日村、白馬村、高山村、木島平村、飯綱町			28 (36.4%)
	3		諏谷市 、須坂市、長和町、辰野町、根羽村、小布施町	諏訪市 、小諸市、飯山市、小海町、北相木村、佐久穂町、立科町、 下諏訪町 、飯島町、阿智村、生坂村、筑北村、坂城町、信濃町、小川村、栄村			22 (28.6%)
	4		上松町、南木曾町、木曾町	大町市、天龍村、大鹿村、山ノ内町、野沢温泉村			8 (10.4%)
	5		小谷村	王滝村、天龍村			3 (3.9%)
	総計	2 (2.6%)	27 (35.1%)	47 (61.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	77

人口減少抑制のためには、①出生者数を増加させることによる自然増への転換、②転出者抑制・転入者増加による社会増への転換の2つの方向性が考えられます。諏訪市は、自然増減・社会増減の影響度が共に「3」であり、いずれの施策にも積極的に取り組む必要があります。

この2つの方向性に係る施策を同時並行的に推進し、互いの施策の効果を相乗的に高めることで、人口減少に歯止めをかけ、長期的な視点では人口増加に転じさせていく「積極戦略」が求められています。

また、人口減少抑制を図っても、今後数十年の人口減少は避けられないことから、今後の人口減少に対応し、効率のかつ効果的なまちづくりを進める「調整戦略」も必要となります。

こうしたことから、諏訪市の人口の現状分析を踏まえ、まち・ひと・しごと創生に取り組む基本的な方向性として、次の4点を掲げます。

方向性 1 地域産業の振興により、諏訪市に安定した雇用を創出する

諏訪市の人口増加、特に 20～30 代の出産適齢期・子育て世代の増加を図るには、「経済的に安定した生活」が求められ、「しごと」の確保による「雇用」の創出が重要課題となります。地方創生において、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼ぶ好循環の確立に取り組む必要があります。

そのために、市内の各種産業の発展、新事業創出や集積等を図るとともに、「雇用の質」を確保し、若年層からシニア世代まで、誰もが就業・創業しやすい環境づくりを実現します。

方向性 2 諏訪市への人の流れをつくり、人口流出を抑制する

諏訪市からの転出超過を抑制し、転入超過へと転換するためには、諏訪市の魅力を積極的かつ戦略的に発信することで「諏訪市に行ってみたい・住んでみたい」人を増やすとともに、移住や二地域居住の促進や、長野県内外との交流人口を増加させる必要があります。

特に、若年層の大都市圏等への人口流出を抑制し、大学等卒業後の就職時の U I J ターン促進を図るとともに、今後も住み続けてもらうことができるよう、魅力あるまちづくり、魅力的な働く場の確保の実現を目指します。

方向性 3 若い世代の結婚・出産・子育て支援により、子どもを増やす

諏訪市の少子高齢化を食い止め、人口規模の回復と人口構造の若返りを図るためには、出生率を向上させ、出生数を増加に転じさせる必要があります。地方創生は「ひと」が中心となります。若者、そして女性の活躍を後押しする取組みが求められます。

そのために、諏訪市で安心して働くことができる環境整備を行うとともに、結婚・出産の希望をかなえ、子育てをすることができる仕組みと切れ目のないサービスを実現します。

方向性 4 地域の魅力を磨き上げ、「輝く SUWA」を創生する

諏訪市は豊かな自然や歴史文化に恵まれ、伝統あるものづくりを核とした世界に誇れる付加価値の高い産業があり、大都市圏からの交通アクセスも良好であるなど、高い「ポテンシャル」を秘めた地方都市です。「しごと」と「ひと」の好循環を支えるためには、地域の個性を生かし、「まち」の活力を取り戻すことができるまちづくりが求められます。

そのために、こうした地域の魅力を磨き上げるとともに、医療・介護の充実、防災対策、中心市街地の活性化、快適な居住・生活環境の提供など、市民誰もが将来にわたり安全・安心・安定して豊かな生活を営むことができる「まち」を実現します。

また、これらの方向性の実現のため、産業や観光、医療・介護など、諏訪地域 6 市町村で連携できる可能性がある分野については、協力体制を強化するとともに、さらなる広域連携による諏訪圏域全体の底上げを図ります。

3 人口の将来展望

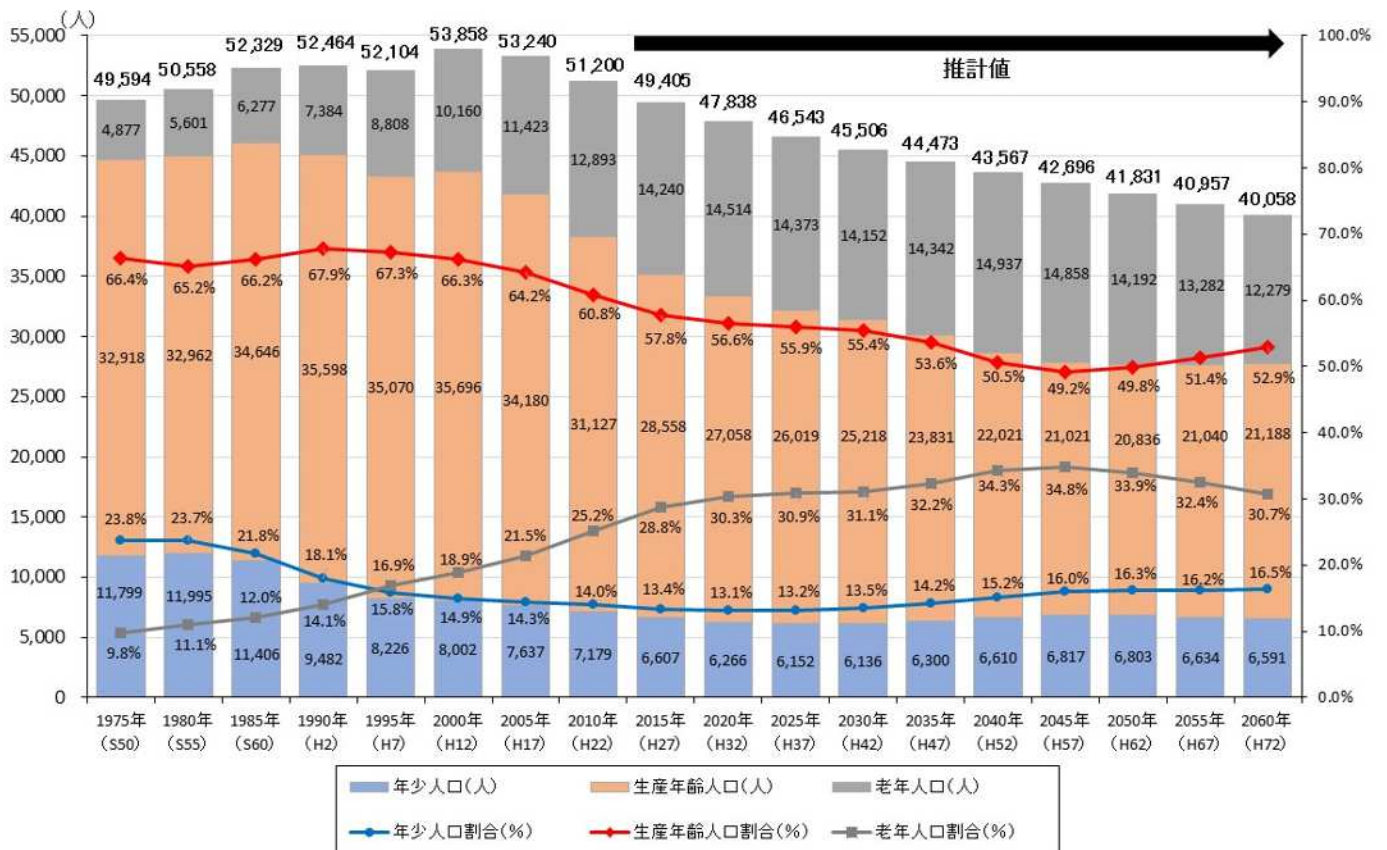
これまでの人口動向分析、諏訪市独自推計の結果をもとに、基本的な方向性の実現をめざし、自然増・社会増に資する様々な人口対策事業に積極的に取り組みます。

そして、諏訪市人口ビジョンの人口目標値を「令和 22 (2040) 年の諏訪市人口：4 万 3,000 人以上」、「令和 42 (2060) 年の諏訪市人口：4 万人以上」と設定します。

諏訪市人口ビジョン 人口目標値

令和 22 (2040) 年の諏訪市人口 4 万 3,000 人以上
 令和 42 (2060) 年の諏訪市人口 4 万人以上

図表 40 諏訪市の将来展望人口（諏訪市独自推計）



1975 (S50) 年～2010 (H2) 年：国勢調査（年齢不詳人口は年齢3区分にそれぞれ按分している。）
 2015 (H27) 年～2060 (H72) 年：諏訪市独自推計

諏訪市人口ビジョン

平成 27 年 12 月策定
令和 2 年 3 月改訂

編集・発行

諏訪市

企画部企画政策課

〒392-8511 諏訪市高島 1 丁目 22 番 30 号

電 話 0266-52-4141 (代表)

U R L <http://www.city.suwa.lg.jp>